

昭和52年度
埋蔵文化財緊急発掘調査報告

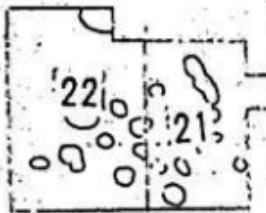
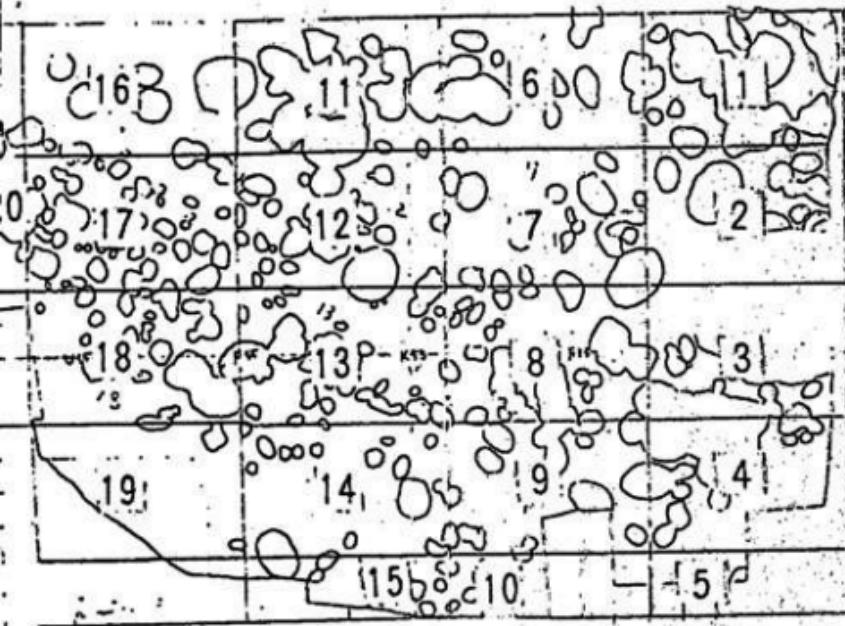
カゴ田

1978

長野県上伊那郡飯島町教育委員会

「カゴ田」

正誤表



1:400



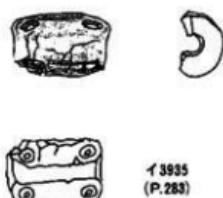
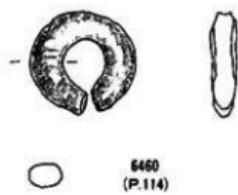
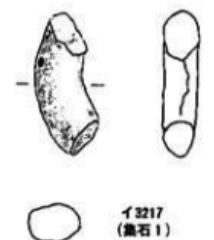
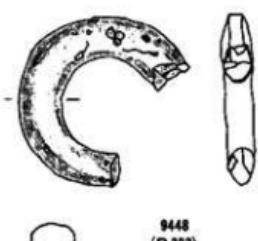
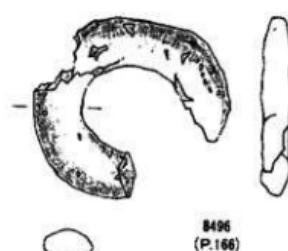
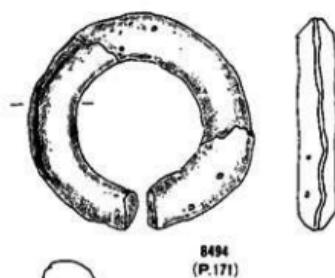
遺跡部分（中央及び南側）



遺跡部分（中央及び北側）

出土遺物





块状耳饰等实物图

0 5

まえがき

飯島町は、昭和48年8月より全町におよぶ県営ほ場整備事業を行なっている。このカゴ田遺跡の緊急発掘調査はそれに関連して昭和52年5月から6月にわたって、南信土地改良事務所より委託されて実施したものである。

七久保は南駒ヶ岳を分水嶺とする与田切川によって形成された広大な扇状地である。それが永年にわたる隆起、浸食、堆積等の作用を経た結果、いくつもの小扇状地となり山麓に連座している。このカゴ田遺跡は、日影坂をのぼり切ったあたりから、東南に傾斜する台地に並ぶ多くの遺跡の一部と考えられる。

今迄には、縄文中期より弥生時代の後期の土器片の出土例はあったが、今回の調査により縄文時代早期末（今から約6,000年～7,000年前）にかけての日本でも有数の集落址であることが確認され、遺構については、住居址数ヶ所、土塙数百ヶ所、ロームマウンド、ファイヤーピット等多数確認された。

遺物については、約1万点が検出され、土器片は一般的には木島式と呼ばれるもので東海地方を中心に出土例が多く、関東系のものも少々ではあったが発見された。又、石製耳飾り同首飾り等極めて貴重なものが多く確認された。

この遺跡は当町としては勿論のこと、現在日本考古学界の権威である江坂慶大教授の視察されたその見解からしても、この貴重な遺跡について何らかの形で後世に伝えたいと考えている。

この調査にあたり長野県教育委員会のご指導を仰ぎ、調査団長に友野良一先生、調査員に伊藤修、赤羽義洋、和田武夫の諸氏に依頼した。

最後にこの立派な成果に対し、南信土地改良事務所、伊那建設事務所をはじめ、県教育委員会、調査団の諸先生、地元町民の皆様に深甚なる謝意を表する次第である。

昭和53年3月15日

飯島町教育委員長

北原健三

序

飯島町においては、昭和48年より県営は場整備事業が開始され、今年は七久保柏本地籍が実施されている。

当地籍には、当町でも最も重要な遺跡の一つであるカゴ田遺跡が確認されており、文化財保護の立場から飯島町遺跡調査会に依頼し、調査を行なった。

幸いにも南信土地改良事務所、伊那建設事務所の御配意と、県教育委員会文化課の御指導の下、優秀なる調査団の先生方により大きな成果をあげられたことは感謝にたえない。

出土品については、飯島町陣嶺館に展示し一般の方々に見ていただく予定である。
調査報告書の刊行に当って関係各位に対し心から謝意を捧げる次第である。

昭和53年3月15日

飯島町教育委員会教育長

熊崎安二

凡 例

1. この緊急発掘調査は、飯島町の委託により飯島町遺跡調査会が実施した。
2. 本調査は、52年度中に業務を終了する義務があるため、報告書は図版を主体とし、文章記述はできるだけ簡略にし、資料の再検討は後日の機会にゆずることにした。
3. 本報告書の執筆者は次の通りである。

友野良一、伊藤 修、赤羽義洋

報告書整理作業

小池清司、横田愛子、宮下きくみ、桃沢美寿々、宮下啓子、吉沢由子、久保田洋子

4. 発掘調査中は、慶應大学江坂輝弥教授、県教育委員会事務局文化課の指導を受けた。
5. 出土遺物については、飯島町陣嶺館に展示保管してある。
6. 調査は、出土遺物のすべてについて、平面位置、レベル等を記録した台帳を作成した。
本報告書では紙面の都合により記載できなかったが台帳は飯島町陣嶺館に保管してある。
7. 調査期間中は、24回にわたり調査速報を発行した。
8. 図、図版に記した遺物の番号は、台帳番号と同一である。
9. 土器の接合については、時間的な制約により行なえなかった。
10. 遺物番号の頭に「イ」と標示してあるのは、調査地区（遺跡東側）を示しており、特別意味はない。「遺物番号」、「イ」以外の記号はグリット番号を表わす。
11. 本報告書の編集は、主として飯島町遺跡調査会があたった。

目 次

まえがき

序

凡 例

目 次

挿図目次

図版目次

第Ⅰ章 環 境	1
第1節 位 置	1
第2節 地形・地質	3
第3節 歴史的環境	3
第Ⅱ章 発掘調査の経過	5
第1節 発掘調査に至るまで	5
第2節 調査日誌	6
第Ⅲ章 遺 構	8
第Ⅳ章 遺 物	69
第1節 土 器	69
第2節 石 器	71
第Ⅴ章 所 見	86

挿 図 目 次

第 1 図	位 置 図 (1:100,000)	1
第 2 図	地 形 図 (1:2,000)	2
第 3 図	飯島町縄文時代早期遺跡分布図	4
第 4 図	遺構配置図 (1:400)	7
第 5 図	1 地区断面図 (1:60)	29
第 6 図	1 地区平面図 (1:60)	30
第 7 図	2 地区断面図 (1:60)	31
第 8 図	2 地区平面図 (1:60)	32
第 9 図	3 地区断面図 (1:60)	33
第 10 図	3 地区平面図 (1:60)	34
第 11 図	4 地区断面図 (1:60)	35
第 12 図	4 地区平面図 (1:60)	36
第 13 図	6 地区断面図 (1:60)	37
第 14 図	6 地区平面図 (1:60)	38
第 15 図	7 地区断面図 (1:60)	39
第 16 図	7 地区平面図 (1:60)	40
第 17 図	8 地区断面図 (1:60)	41
第 18 図	8 地区平面図 (1:60)	42
第 19 図	9 地区断面図 (1:60)	43
第 20 図	9 地区平面図 (1:60)	44
第 21 図	11 地区断面図 (1:60)	45
第 22 図	11 地区平面図 (1:60)	46
第 23 図	12 地区断面図 (1:60)	47
第 24 図	12 地区平面図 (1:60)	48
第 25 図	13 地区断面図 (1:60)	49
第 26 図	13 地区平面図 (1:60)	50
第 27 図	14 地区断面図 (1:60)	51
第 28 図	14 地区平面図 (1:60)	52
第 29 図	16 地区断面図 (1:60)	53
第 30 図	16 地区平面図 (1:60)	54

挿 図 目 次

第31図	17地区断面図(1:60)	55
第32図	17地区平面図(1:60)	56
第33図	18地区断面図(1:60)	57
第34図	18地区平面図(1:60)	58
第35図	19地区断面図(1:60)	59
第36図	19地区平面図(1:60)	60
第37図	21地区断面図(1:60)	61
第38図	21地区平面図(1:60)	62
第39図	22地区断面図(1:60)	63
第40図	22地区平面図(1:60)	64
第41図	5地区断面図(1:60)	65
第42図	10地区断面図(1:60)	65
第43図	5地区平面図(1:60)	66
第44図	10地区平面図(1:60)	66
第45図	15地区断面図(1:60)	67
第46図	20地区断面図(1:60)	67
第47図	15地区平面図(1:60)	68
第48図	20地区平面図(1:60)	68
第49図	土器拓影(1:2)	74
第50図	土器拓影(1:2)	75
第51図	土器拓影(1:2)	76
第52図	土器拓影(1:2)	77
第53図	土器拓影(1:2)	78
第54図	土器拓影(1:2)	79
第55図	土器拓影(1:2)	80
第56図	土器拓影(1:2)	81
第57図	石器実測図(1:3)	82
第58図	石器実測図(1:3)	83
第59図	石器実測図(1:3)	84
第60図	石器実測図(1:3)	85

図 版 目 次

図版 1	遺跡遠望	88
図版 2	遺跡遠景	89
図版 3	遺跡全景(西より)	90
図版 4	遺跡部分(北部)	92
図版 5	遺跡部分(中央・南部)	93
図版 6	遺跡部分(南部・道路南)	94
図版 7	遺跡部分(道路南)	95
図版 8	ピット114(1住)	96
図版 9	ピット228(2住)	97
図版10	ピット50	98
図版11	ピット228付近	99
図版12	土壤(P 1~P 12)	100
図版13	土壤(P 17~P 28)	101
図版14	土壤(P 33~P 59)	102
図版15	土壤(P 60~P 78)	103
図版16	土壤(P 84~P 103)	104
図版17	土壤(P 104~P 119)	105
図版18	土壤(P 120~P 162)	106
図版19	土壤(P 163~P 172)	107
図版20	土壤(P 173~P 191)	108
図版21	土壤(P 192~P 214)	109
図版22	土壤(P 215~P 255)	110
図版23	土壤(P 256~P 295)	111
図版24	土壤(P 309~P 319)・マウンド	112
図版25	土層調査	113
図版26	土層調査	114
図版27	土層調査	115
図版28	調査風景	116
図版29	調査スナップ	117
図版30	出土土器	118

図 版 目 次

図版 3 1	出土土器	119
図版 3 2	出土土器	120
図版 3 3	出土土器	121
図版 3 4	出土土器	122
図版 3 5	出土土器	123
図版 3 6	出土土器	124
図版 3 7	出土土器	125
図版 3 8	石 鏊	126
図版 3 9	石 鏊	127
図版 4 0	石 鏊	128
図版 4 1	石 鏊	129
図版 4 2	石匙・スクレーパー	130
図版 4 3	スクレーパー	131
図版 4 4	スクレーパー・石錐・打製石斧	132
図版 4 5	横刃形石器・礫器	133
図版 4 6	凹石・棒状礫器・特殊磨石	134
図版 4 7	磨 石	135
図版 4 8	磨製石斧・小鎌	136

口 紙

遺跡部分（中央及び南側），出土遺物，块状耳飾り他実測図，遺跡航空写真

別 図

別図 1 土器ドットマップ (1:80)

別図 2 石器ドットマップ (1:80)

別図 3 焼石ドットマップ (1:80)



遺跡航空写真

第1章 環 境

第1節 位 置

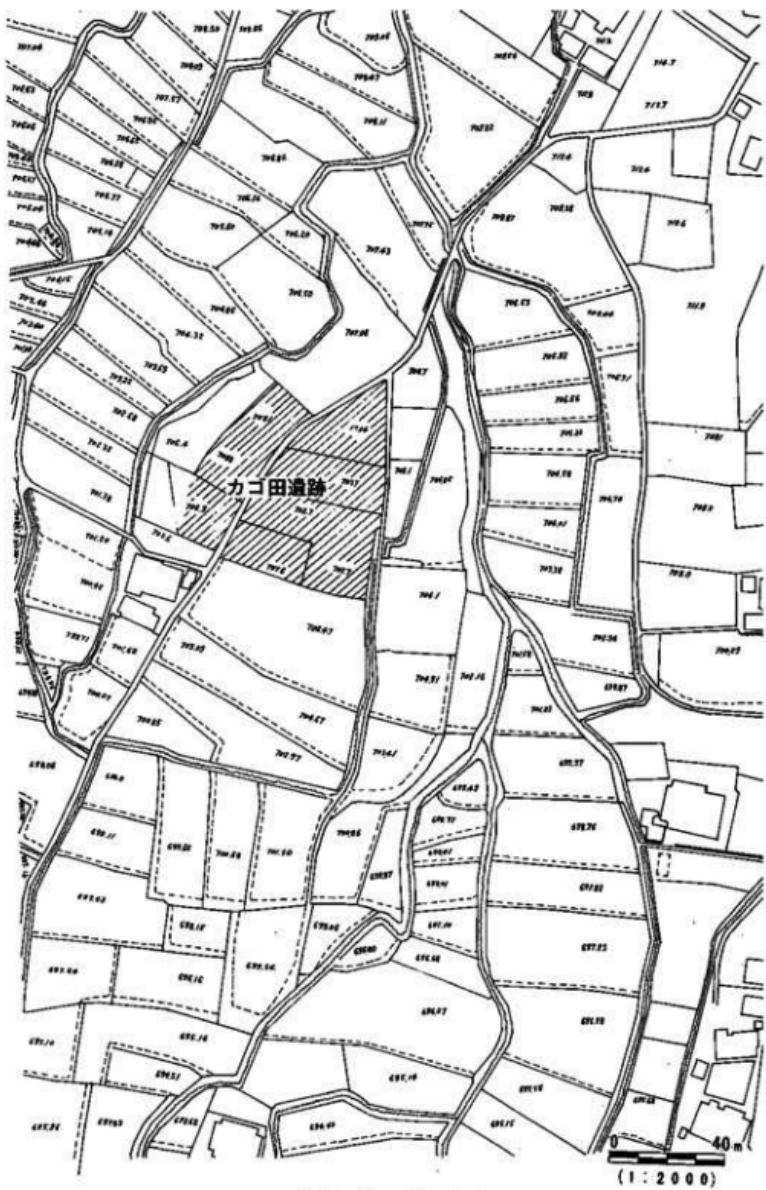
カゴ田遺跡は長野県上伊那郡飯島町大字七久保 2079 番地に所在する。

遺跡は七久保地区のほぼ中央部に位置しており、中央アルプスから広がる扇状地の扇央部にあたる。遺跡に至るには、国鉄飯田線七久保駅で下車し鉄道ぞいに北へ約 1 km ほど歩き、さらに北西へ約 500 m ほど歩く。県道飯島・飯田線柏木耕地からは東へ約 200 m ほどの所である。

当遺跡から与田切川の河岸段丘までは北へ約 1 km、子生沢川の河岸段丘までは東へ約 500 m、中央アルプス山麓までは西へ約 1.5 km である。



第1図 位 置 図



第2圖 地形圖

第2節 地形・地質

木曾山脈と赤石山脈に挟まれた伊那谷は、一口に南北に細長い綫谷状地形といえる。この中央部を天竜川が南流し、天竜川に向かって西の木曾山脈、東の赤石山脈に源を発する中小河川が流れ込んでいる。これらの中小河川は山麓にいくつもの扇状地を形成したが、その後の隆起運動により、これらの扇状地を自ら浸食していった。

飯島町は伊那谷のそれと同様、中田切川、与田切川、日向沢川等の中小河川の浸食、堆積作用により扇状地が発達しており、柏木カゴ田地蔵は、与田切川により形成された扇状地のほぼ中央に位置している。しかし、この扇央部も天竜川に流れ込む河川により浸食が進み、いくつかの舌状の台地を形成している。

カゴ田遺跡は北側に子生沢が流れ、南側は東西の大きな窪となっており、この二つの川河の作用により、古代の生活の舞台としては最高の地形を作っている。遺跡の標高は遺跡の中心で708mを計り、南側の沢との比高は5m、北側の沢との比高は4mである。

遺構はローム層を掘り込んで造られており、ローム層上に褐色土層、黒褐色土層、黒色土層、耕作土層の順で堆積している。表土よりローム層まで比較的浅いため、耕作により遺物は移動しており、土器の時間的前後関係、土器と土層との関係については確認できなかった。

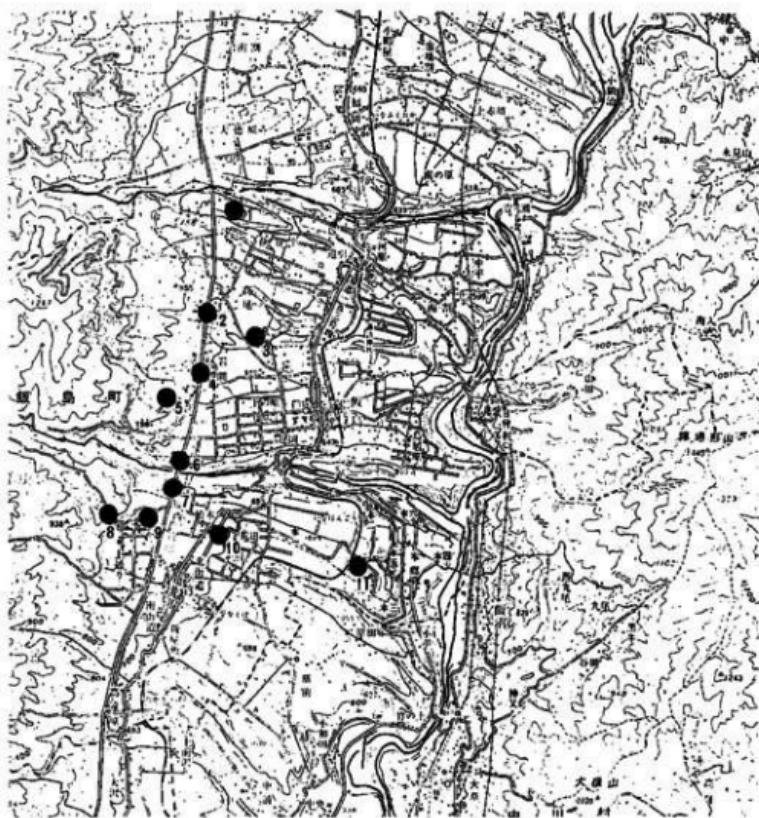
第3節 歴史的環境

カゴ田遺跡の存在が知られるようになったのは、古くは大正時代の初め、鳥居龍藏博士の上伊那地方における実地踏査のところである。⁽¹⁾当時は矢の根石や石器が多く出土することで知られていた。その後、各種の分布調査等において注目されたが、時期については確認されなかつた。縄文時代早期末の遺跡であることが確認されたのは、県営は場整備事業に先がけての分布調査によるものである。

当町における縄文時代早期の遺跡としては第3図に示した通り11ヶ所が確認されている。

註

1. 鳥居龍藏「先史及び歴史時代の上伊那」 大正15年3月
2. 飯島町七久保柏木 高谷秀雄氏の話による。



第3図 飯島町縄文時代早期遺跡分布図

- | | | | |
|---------|----------|----------|-------|
| 1. 久根平東 | 2. 石上神社前 | 3. 高尾第2 | 4. 山溝 |
| 5. 岩間上山 | 6. うどん坂南 | 7. 七久保小段 | 8. 赤坂 |
| 9. 北原 | 10. 力ゴ田 | 11. 中山 | |

第Ⅱ章 発掘調査の経過

第1節 発掘調査に至るまで

七久保区柏木地籍にある埋蔵文化財の調査として、カゴ田遺跡を飯島町から委託を受け行なった。

飯島町遺跡調査会

会長 織田正巳(教育長) (52.4~52.12)

熊崎安二(教育長) (52.12~)

理事 片桐修(飯島町文化財調査委員)

宮下静男(")

北原健三(")

桃沢匪行(")

松崎研定(")

監事 堀越清志(飯島町監査委員)

中野武司(")

幹事 森谷栄一(飯島町教育委員会教育次長) (52.4~52.11)

吉沢内次(飯島町教育委員会教育次長) (53.1~)

伊藤修(飯島町教育委員会主事)

宮下淑江(")

発掘調査団()

团长 友野良一(日本考古学协会会员)

調査員 伊藤修(飯島町教育委員会主事)

赤羽義洋(長野県考古学会員)

和田武夫(")

調査補助員 小池清司(飯島町)

第2節 調査日誌

調査日誌については、毎日、調査速報の形で発行したので、詳細については、それを参考にされたい。

以下調査における主だった項目を拾ってみたい。

○調査は、調査地区全体に 2 m四方のグリッドを設定し行なった。

○遺跡は繩文時代早期末の単独遺跡と考えられたので、遺物は、1点1点記録を行ない台帳に記載した。

○遺構については、平面図の他にすべて遺構断面の記録を行なった。

○調査期間中、慶應大学江坂教授、県教委事務局文化課の指導を受けた。

○記録は遺物台帳、実測図、写真の他、8 mm映写機による撮影を行なった。

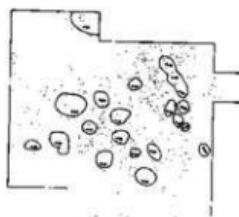
○調査は遺跡のほぼ全域にわたり行なったが、丘陵の北端、南端についてはすでに耕作等により相当破壊されており分布調査にとどめた。

〔参加者名簿〕

高谷秀雄、星野一雄、吉沢益美、宮下恒美、那須野松太郎、吉沢政子、宮下千代、横田愛子
宮下きくえ、長谷部 武、伊藤忠一、宮下松ゑ、上沼かず子、上原正人、鎌倉けさよ、宮下
富夫、竹内まさえ、小林たち、宮下 秀、桃沢美寿々、満沢 茂、福島兼作、唐沢數一、片
桐忠実、溝口健人、宮下金美、吉沢筆子、伊藤良一、竹沢悦子、上原かすみ、宮下仲子、宮
下里ゑ、岩村徳重、宮下 清、宮下貞一、那須野萬治、吉沢成身、小木曾 清

〔研究者、研究機関 他〕

慶應大学教授江坂輝弥、県教委事務局文化課丸山指導主事、関指導主事、樋口指導主事、
大沢県考古学会会長、林 茂樹、駒ヶ根市博物館氣賀沢主事、伊那市教育委員会飯塚主事、
箕輪町郷土博物館柴主任、丸山弥生、田畠辰雄、小林喜美江、小池幸夫、萩原 茂、飯島町
中央公民館、南信土地改良事務所佐藤主任、飯森技師、伊那建設事務所、朝日新聞社、中日
新聞社、信濃毎日新聞社、伊那毎日新聞社、南信日日新聞社、飯島町有線放送農業協同組合



第4図 造構配置図 (1:400)

第Ⅲ章 遺構

今回の調査で遺跡の中心地区については、全面発掘によりほぼ完全に遺構の検出ができたと思われる。しかし遺跡の東側、南側、北側については、水田、果樹等の耕作、河川改修などにより相当破壊がすんでいると思われるので、調査を断念した。中心部の調査地区の中にも一部破壊・擾乱されている部分がみられた。特に調査地区東側中央部（2～3地区）については、広い範囲にわたり擾乱されており、周辺に遺構が密集していることから、この部分についても相当遺構が存在していたことも予想される。

遺構については、第6図～第48図の平面図に示してあるが、これらは60分の1の遺構平面図を22地区に分解したものであり最近、乾式コピーが一般化し簡単に複写がとれるようになったので、接合し利用していただきたい。

今回の調査でピット（P）343ヶ所、ファイヤーピット（FP）2ヶ所、マウンド（M）8ヶ所、集石1ヶ所が検出された。遺構は調査地区的全域にわたり平均してみられるが、特に1～2地区、3～4地区、11～12地区、17～18地区に密集しているように思われた。またP 114、P 228、P 316等の焼土を伴なう大形のピットの周辺に集中していることも考えられる。更に調査地区の西側は比較的単独の小形のピットが多いのに対して東側には大形のピットが多くみられる。ファイヤーピット（FP）については離れた位置に検出されており、マウンド（M）についても調査地区北東側に比較的多いが、西側からも検出された。

遺構の時期的な差については、土器の編年とも関係するが、縄文時代早期末の土器しか検出されていないので、遺構間には時期的な差はあまりないと考えられる。

なお落ち込みについては、総称してピットに統一したが、中にはP 114、P 228、P 316等の住居址の性格をもったもの、土壠と呼ぶ方がふさわしいもの、土壠基と考えられるもの、ロームマウンドを伴なうもの等種々の性格のものがみられ、今後の研究に委ねたい。

ピットの特徴等をまとめてみると表1のようになる。

ロームマウンドは、梢円形（平面）にロームを盛りあげたものが大部分である。

集石は、P 272覆土上層にみられる。ピットとの関連、時期については不明である。

<凡例>

〔平面形〕		〔断面形〕	
a	円形の小形のもの	A	小さな凹状のもの
A	円形のやや大形のもの	B	壁と底の区別がつかないやや大形の凹状のもの
b	楕円形の小形のもの	C	タライ状のもの
B	楕円形のやや大形のもの	D	壁がゆるやかで、底が平らでなく中央部がやや低いもの
c	長楕円形のもの	E	やや深い柱穴様のもの
D ₁	隅丸方形に近いもの	F	やや深い大形のしっかりしたもの
D ₂	隅丸長方形に近いもの	G	袋状のもの
E	ピットが連結した形のもの	H	圓凸のはげしいもの
F	不整形のもの	I	その他
G	隅丸三角形のもの		

* 土器 ◎出土量多い ○ふつう △少ない - 出土なし

表1 ピット一覧

Pit 番号	位置 (地区)	平面形		断面形		覆 土	遺物組成		備 考
		タイプ	短軸×長軸	タイプ	深さ		土器	石器	
1	19	D ₂	65×150	A	16		○		
2	19	D ₂	70×130	A	15		△		
3	19	C	100×220	H	16		△		
4	19	b	50×100	A	13		△		
5	19	a	45×60	A	24		-		
6	18	E	60×235	B	29		△	石鏡1 枚	
7	18	D ₁	60×80	A	20		△		
8	18	D ₁	90×95	B	16		△		
9	18	E	100×225	H	15		○		
10	18	b	85×140	B	16		○		中央に焼跡あり

Pit 番号	位置 (地区)	平面形		断面形		覆土	遺物組成		備考
		タイプ	短軸×長軸	タイプ	深さ		土器	石器	
11	18	b	60× 85	C	(cm) 17		△		
12	18	b	50× 85	B	10		△		
13	18	b	50× 80	H	10		—		
14	18	D1	135×150	B	12		○		中央部に礫が並べられている
15	18	b	100×160	G	40	覆土はやわらかく 黒色を呈する	○		北壁は袋状となる
16	18	b	50×	I			△	石縁1	
17	17	E	110×150	C	19		○		「L」字形に配石 あり
18	18	c	120×220	I	20		○		形状は極めて不正 形
19	18	a	60× 65	A	23		—		
20	18	b	105×140	B	23		○		
21	18	a	80× 80	A	10		△		
22	18	A	145×155	I	17		○		北壁際に立石あり
23	17	a	100×130	B	20		△		
24	17	a	85× 90	A	15		△		中央に焼礫あり
25	17	b	65× 90	A	20		△		
26	17	b	45× 60	A	11		—		
27	18	D2	120×165	C	12		△		
28	17	a	60× 75	A	11		△	石縁1 スクリーパー1 (大)	

Pit 番号	位置 (地区)	平面形		断面形		堆 土	遺物組成		備 考
		タイプ	短軸×長軸	タイプ	深さ		土器	石器	
29	17	a	80×90	A	11		△		
30	17	a	110×130	B	17		△		
31	17	/		B	10		△		
32	17	a	70×80	A	12		△		
33	17	b	85×120	B	10		○		
34	17	a	45×60	A	17		—		
35	17	b	95×140	C	23		△	石鏃1	
36	17	b	90×120	H	32		○	スクレーパー1 (小) 凶	
37	17	a	55×60	A	13		△		
38	17	b	40×60	A	15		△		
39	17	a	50×55	A	13		○		
40	17	b	60×90	A	15		△		
41	9	b	70×90	A	13		△		
42	10	b	100×135	D	22		—	石匙1	
43	9	a	90×100	A	20		△		
44	10	F	85×120	C	19		—		
45	10	D2	75×120	C	19		○		
46	9	/	× 70	A	12		△		

Pit 番号	位置 (地区)	平面形		断面形		土	遺物組成		備考
		タイプ	短軸×長軸	タイプ	深さ		土器	石器	
47	9	E	75×130 cm	B	15 cm		△		
48	10	c	90×135	B	23		△		
49	10	a	70× 85	B	10		○		
50	15	D2	200×300	D	43	土器片多量出土 床近くに木炭多い	◎	石器 1ヶ所 磨製石 1ヶ所 円形小罐 1ヶ所 円形小罐 1ヶ所	北側壁際に微 が集中
51	10	b	50× 85	B	9		△		
52	15	D1	80× 90		15		△		
53	15	E	70×110	A	20		△	石器 1 ヶ所	
54	14	b	65×110	B	14		—		
55	18	E	100×110	B	10		△		
56	18	B	150×215	B	25	土器片多量出土	○	石器 1 円形小罐 3 円形小罐 1ヶ所	
57	17	F	100×135	H	17		△		
58	17	C	80×150	B	15		△		中央に礫あり
59	17	D1	150×170	F	100	標準的な自然堆積	○	石器 1 石匙 1	遺物小量出土 床・壁は若干タタ キ状になっている
60	17	b	65× 85	A	12		△		
61	17	D2	100×120	C	20		—		
62	17	b	55×100	A	18		○	石器 1 ~1ヶ所	
63	20	B	200×290	D	40	土器片多く出土 腐状に堆上が堆積 していた	◎	石器 4ヶ所 スクリーパー(火小石 1ヶ所) 磨製石斧 1ヶ所 円形小罐 1ヶ所	焼痕あり
64	20	a	75× 80	A	14		○		

Pit 番号	位置 (地区)	平面形		断面形		覆 土	遺物組成		備 考
		タイプ	短軸×長軸 (cm)	タイプ	深さ (cm)		土器	石器	
65	17	E	30×40	A	13		△	円形小礫 1	
66	17	D	175×180	C	32	土器片・多量出土 木炭少量出土	◎	石器 2 磨石 1 円形小礫 1 etc	焼土が堆積している
67	17	F	85×240	B	19	上層より木炭出土	○	磨石 1	底は若干熱を受けている 小礫あり
68	17	F	65×120	B	8		△		
69	17	b	65×85	A	30		△		
70	15	b	65×95	A	13		—		
71	9	D	80×105	I	24		△		
72	14	b	60×75	E	28		—		
73	14	c	85×150	B	15		△		
74	14	b	70×85	A	18		△		
75	14	a	70×80	A	17		△		
76	14	a	75×85	A	12		△		
77	14	a	95×105	A	21		○		
78	14	b	70×90	C	31		△		
79	13	a	50×60	A	29		△		
80	13	a	80×85	A	23		—		
81	13	F	85×165	C	15		△		
82	13	B	115×175	B	27		○	円形小礫 1	

Pit 番号	位置 (地区)	平 面 形		断 面 形		覆 土	遺 物 组 成		備 考
		タイプ	短軸×長軸	タイプ	深さ (cm)		土器	石 器	
83	13	c	65×190	H	22		△		
84	13	b	100×140	H	32	覆土は擾乱されて いる部分がある	△	磨製石斧 1 (片)	
85	13	b	80× 95	I	14		△		
86	14	G	60× 70	A	11		△		
87	14	a	110×115	C	18		△		中央に礫あり
88	14	b	45× 80	C	11		△		
89	13	b	70×125	C	18		△		
90	13	b	85×130	B	28		○		
91	13	b	65× 95	A	13		△		
92	13	b	60×110	C	17		○		
93	14	D1	80× 95	I	9		○		
94	13	a	105×115	C	13		△		
95	13	a	90× 95	C	16		○		
96	13	D2	110×180	D	8		△		
97	13	b	55× 75	C	18		—		
98	13	b	65×100	A	13		△	石鏃 1 (刃)	
99	13	b	55× 65	A	7		—		
100	13	b	60×115	B	16		△	石鏃 1 (刃)	

Pit 番号	位置 (地区)	平面形		断面形		留 土	遺物組成		備 考
		タイプ	短軸×長軸 <small>cm</small>	タイプ	深さ <small>cm</small>		土器	石器	
101	13	b	60×90	A	10		△		
102	12	a	90×90	C	8		△	ドリル 1	
103	12	b	80×110	I	12		△		
104	12	E	150×	B	45		△		
105	12	E	75×105	A	11		△		
106	12	D1	80×110	B	17		○		
107	12	C	55×130	B	5		○		
108	12	C	110×205	B	24	土器片多量出土	○	磨石 100 中央に数個有り 東端の壁が焼けている	
109	12	E	110×140	C	38		—		
110	12	a	95×100	C	14		△		
111	12	D1	200×210	D	11		○		
112	12	D2	140×225	D	30		○		
113	12	a	55×70	A	14		△		
114	12	A	300×340	D	28	土器片多量出土	○	縁器 汗状耳飾り ドリル 1 円形小鏡 2 住居址	
115	13	D1	140×170	D	16	土器1個体一括出土	○		
116	12	b	65×80	A	10		△		
117	18	E	90×105	B	10		△		
118	13	b	25×40	A	10		—		

Pit 番号	位置 (地区)	平面形		断面形		覆 土	遺物組成		備 考
		タイプ	短軸×長軸	タイプ	深さ		土器	石器	
119	13	b	35×45	A	4		—		
120	13	E	50×70	H	18		△		
121	13	a	80×85	B	11		△		
122	13	a	110×115	B	17		○		
123	13	b	55×60	A	23		△		M-1
124	8	E	50×85	A	24		△		
125	8	E	55×115	B	9		△		
126	8	C	75×145	B	15		○		
127	8	b	75×85	A	16		○		
128	8	a	50×60	A	10		△		
129	8	G	80×125	B	28		○		
130	8	D	85×125	B	16		△		
131	7	D	75×100	B	22		○		
132	8	b	105×140	A	10		○		中央に礫あり
133	7	F	110×155	A	31		△		
134	13	E	75×155	C	21		△		
135	13	E	115×145	D	33		○		
136	12	D	110×150	B			—		

Pit 番号	位置 (地区)	平 面 形		断 面 形		覆 土	遺 物 組 成		備 考
		タイプ	短軸×長軸 (cm)	タイプ	深さ (cm)		土器	石 器	
137	7	b	110×155	B	14		△		
138	7	B	160×235	D	40	土器片多量出土 礫混入	◎		
139	12	b	80×110	B	20		△		
140	7	a	50× 50	A	12		○	磨石 1枚	
141	7	a	125×135	G	49	床面上に木炭が多い	△		やや袋状
142	7	b	80×100	A	19		△		
143	13	a	40× 50	A	12		△		
144	13	a	55× 65	A	12		—		
145	13	E	70×	A	23		△		
146	13	E	70×100	A	23	マウンド状を呈す る	△		焼跡あり
147	9	B	115×175	B	20		○		
148	9	F	70×190	B	18		△		
149	9	/	85×145	B	17		△		
150	14	D2	180×230	D	29	土器片多量出土	◎	円形小窓3 石器 100 磕器 1 横刃形石器1 スクレーパー1 磨石 100 VN 70	
151	9	D1	110×140	B	17		○	石器 1	
152	8	E	135×170	D	28		△		
153	8	E	120×	C	26		○		
154	9	B	150×205	I	14		○		壁際に礫あり

Pit 番号	位置 (地区)	平面形		断面形		土	遺物組成		備考
		タイプ	短軸×長軸	タイプ	深さ cm		土器片やや多い	土器	
155	9	B	120×185	D	23		○		
156	7	b	70×90	A	18		—	スクレーパー 1枚内外 円形小鏡 2	
157	7	c	40×100	C	15		△		
158	14	b	65×90	A	20		△		
159	18	E	60×80	E	65		△		
160	8	D ²	80×125	C	24		△		
161	8	b	115×145	C	34		△		
162	21	E	95×145	C	18		○	石鏃 1	
163	21	E	95×100	C	18		△	石鏃 1 円形小鏡 1	
164	21	E	80×135	B	20		△	スクレーパー 1枚内外	
165	21	a	75×90	A	13		△		
166	21	b	70×115	E	14		—	块状耳飾り 2	
167	21	b	65×100	B	20		△		
168	21	a	50×55	A	12		△		
169	21	a	70×85	/			—		
170	21	b	75×130	B	13		△		
171	21	b	115×145	C	18		△	块状耳飾り 石鏃 1	
172	21	a	65×75	A	15		○		

Pit 番号	位置 (地区)	平 面 形		断 面 形		置 土	遺 物 組 成		備 考
		タイプ	短軸×長軸 (cm)	タイプ	深さ (cm)		土器	石 器	
173	22	D	110×130	C	14		—	円形小鏡 1 個	
174	22	a	90×100	C	20		△		
175	22	a	110×145	C	32		△		
176	21	b	75× 95	C	20		△		
177	22	b	55×110	A	28		—		
178	22	b	85×120	C	23		△	石鏡 1 個	
179	22	b	95×115	C	30		△		
180	18	B	205×250	D	43	表面に燒土あり 燒土中に多量の礫 が含まれていた	◎	石鏡 6 個 " 2 個 ドリル 1 個 磨石 2 個 円形小鏡 11 " 4 個	
181	18	b	65× 95	B	18		○		
182	18	a	45× 50	A	20		○		
183	18	b	50× 65	E	36		△	礫器 1	
184	18	b	30× 45	A	13		○		
185	20	a	50× 50	C	14		△		
186	17	E	45× 70	C	28		○		
187	17	b	85×110	B	7		△		
188	17	b	40× 60	A	16		△		
189	17	b	40× 50	A	14		△		
190	17	a	50× 60	A	10		△		

Pit 番号	位置 (地区)	平面形		断面形		土	遺物組成		備考
		タイプ	短軸×長軸	タイプ	深さ (cm)		土器	石器	
191	17	E	105×130	C	18		△		
192	17	a	95×110	C	15		△		
193	20	E	×335	D	40		○		
194	17	a	45× 50	A	9		—		
195	7	a	75× 80	C	9		△		
196	10	E	75×	A	14		—		
197	15	b	115×140		18		△		
198	19	b	55× 90	B	19		—		
199	12	b	80× 95	B	7		△		
200	12	C	45×135	B	20		△		
201	12	B	115×165	B	21	土器片多量出土	○	磨石 I 横刃形石器 I 円形小縫 I “” I (20)	
202	12	a	15× 40	A	11		△		
203	12	b	45×100	B	7		△		
204	12	A	115×130	F	45		○		
205	12	b	20× 30	A			—	円形小縫 I	
206	17	C	95×195	B	7		△		礫の混入あり
207	17	a	75× 75	C	20		○		
208	12	D	175×190	H	25		○	円形小縫 I	

Pit 番号	位置 (地区)	平面形		断面形		覆 土	遺物組成		備 考
		タイプ	短軸×長軸	タイプ	深さ		土器	石器	
209	17	B	100×150	C	(cm) 13		○		
210	12	a	30×30	A	8		—	円形小礫 1	
211	12	E	70×120	B			△	円形小礫 1 00	
212	12	E	80×95	A			△		
213	8	E	85×160	B	21		△		
214	11	C	120×230	D	20		△	円形小礫 1	
215	1	B	250×330	D	42		○	棒状石器 1 円形小礫 1	
216	17	a	80×100	A	15		△		
217	9	F	210×	I	23		△		
218	9	C	125×245	D	27	覆土上部に礫あり	○	石礫 1 00	
219	3	b	90×150	I	39		△		
220	8	B	145×235	B	9		—	礫器 1 石礫 1 00	
221	9	b	105×135	C	19		△		
222	4	b	120×145	H	35		△	スクリーパー 1 00	
223	4	b	115×175	C	44		—		
224	5	/		C	30		△		
225	4	b	95×120	A	15		△		
226	5	/		C	30		△	円形小礫 1	

Pit 番号	位置 (地区)	平面形		断面形		土	遺物組成		備考
		タイプ	短軸×長軸	タイプ	深さ		土器	石器	
227	4	a	125× <small>1cm</small>	B	21		△	円形小鏡 1	
228	4	A	410×410	C	64		◎	石鏃 7 勝石 3 円形小鏡 7 " 1枚 " 2枚 " 1枚 スクレーパー 1 例	住居址
229	9	a	155×185	D	27		○		
230	4	B	205×330	C	21		○		
231	4	A	×280	B	17		○	石鏃 1 例 器皿 1 円形小鏡 1	
232	4	A	×300	D	30	床面上に焼土あり 壁下部に木柱あり	○		P235より新しく P228より旧い
233	8	G	200×200	B	22		○		
234	3	a	75×80	B	31		△		
235	3	A	×260	D	32		○	打製石斧 1 スクレーパー 1 V字 刃	P222より旧い
236	2	B	280×400	A	20		△		M-6
237	7	a	90×95	B	25		△		
238	7	a	80×85	B	19		○	石鏃 1 例	
239	6	b	65×90	B	17		△		
240	17	E	×120	B	10		○		
241	22	B		D	37		○	磨石 1 1枚 円形小鏡 1	
242	22	B	145×215	I	14		△		
243	22	F	90×165	I	22		△	円形小鏡 1 例	
244	20	B	150×225	D	40		△		

Pit 番号	位置 (地区)	平面形		断面形		覆土	遺物組成		備考
		タイプ	短軸×長軸 (cm)	タイプ	深さ cm		土器	石器	
245	16	B	175×220	D	20	覆土上部中央に 集中して礫が出土	△		
246	11	b	95×120	B	18		△		
247	16	b	140×180	D	12		△	石鐵 2 磨石 1 個	
248	16	D+	325×350	D	37	覆土中に多量の遺 物が集中	○	石鐵 5 棒状石器 1 個 石臼 1 円形小鏃 6 骨器 1 〃 2 個	
249	11	b	80×105	B	19		△		
250	11	G	200×210	D	21		△	円形小鏃 1	
251	6	/	170×	B	22		○	円形小鏃 1	
252	6	b	115×	C	20		△		
253	11	B	190×240	B	25		○		礫あり 小ピットより木炭 が集中出土
254	11	b	90×	/	15		△		
255	6	C	145×255	D	20		○	円形小鏃 6	
256	6			/	15		○	石鐵 2 スク レーパー 2 個 1 個 石臼 1	
257	16	b	75×115	C	15		△	石鐵 1 個	
258	11	D+	160×185	C	19		○	石鐵 1	
259	11	b	105×130	B	16		-	スクレーパー 1 小 1 個	
260	11	b	110×130	F	90		○		
261	6	C	130×190	C	14		△	石鐵 1 個	
262	17	B	110×	I	5		△		

Pit 番号	位置 (地区)	平面形		断面形		覆 土	遺物組成		備 考
		タイプ	短軸×長軸	タイプ	深さ		土器	石器	
263	6	B	260×310	C	25		○	石船1 スクリーパー1 <small>少</small> 円形小礫1	土器尖底部出土
264	11	B	190×310	C	45		△		
265	16	A	190×215	B	9		○		
266	16	A	160×	B	13		△		
267	4	b	100×140	B	15		△		
268	8	F	215×345	D	26		○	円形小礫1	
269	2	B	120×195	D	23		○		
270	2	D1	130×170	C	18		△		
271	2	b	95×	B	28		△		
272	11	B	190×	D	20		△	块状耳飾り 集石1あり	
273	9	G	60×90	A	60		△	磨石1	
274	2	B	150×	C	18		△		
275	2	F	100×135	H	21		△		
276	3	/	/	/	18		△		
277	3	b	100×140	H	24		△		
278	1	a	95×100	C	12		△		
279	1	a	95×110	C	12		△		
280	1	D1	290×300	D	27		○	石鏟1 <small>少</small> 擦状石器1 円形小礫1	

Pit 番号	位置 (地区)	平 面 形		断 面 形		覆 土	遺 物 組 成		備 考
		タイプ	短軸×長軸	タイプ	深さ (cm)		土器	石 器	
281	i	D1	260×300	D	24		○	石器 1 円形小礫 2 △	スクレーバー(?) 100
282	17	a	55×75	B	23		△		
283	1	C	105×230	D	22		○	穀器 1 円形小礫 1 △	100
284	1			B			△	石器 1	
285	1						○	磨石 1 △	100
286	1	C		H	55		○	円形小礫 1	
287	1	D1	160×	C	12		△		
288	1	b	110×150	C	18		○		
289	2	B	155×215	H	50		△		
290	2		100×130		48		△		
291	2	F	210×310	B			○		M-7
292	2				20		○		
293	11	E	130×				○		
294	7	b	90×150	I	10	覆土上部より多量 の遺物が出土	◎	石器 2 器 1 磨石 600 横刃形石器 1 △	打製石斧 1 棒状石 円形小礫 3 △ 300
295	6	b	130×	C	18		△	円形小礫 1 △	
296	8	E	90×170	I	9		△	円形小礫 1	
297	8	E		A	7		○		
298	9	E	120×240	C	21		○		

Pit 番号	位置 (地区)	平面形		断面形		土	遺物組成		備考
		タイプ	短軸×長軸 (cm)	タイプ	深さ (cm)		土器	石器	
299	8	E	200×	D			○		
300	8	b	85×105	B	11		△	石鏃 1	
301	9	B	145×215	C	33		—		
302	8	b	70×115	B	12		△		
303	9	D1	150×150	C	15		△	石鏃 1(?) 磨石 1 ~ 1(?)	
304	9	b	80×110	C	10		△		
305	8	a	90×100	H	13		—		
306	2	B	140×190	D	14		○		
307	1	b	100×130	B	15		△		
308	15	E	60×115	A	20		△		
309	1	b	100×125	B	11		△		
310	1	F	110×300	D	21		○	石鏃 1(?)	
311	11	E	85×100	B	10		△	石鏃 1 石器 1	
312	11	D2	150×260	B	30		○	石鏃 1 スクレーパー 1(?) ~ 1(?)	
313	6	b	110×145	B	24		△		
314	6	a	90×100	C	24		○		
315	6	b	80×100	C	20		△		
316	12	B	295×395	D	21		○	スクレーパー 1(?) 磨石 1 ~ 1(?) 円形小座 2 ~ 1(?) 1(?)住居址	

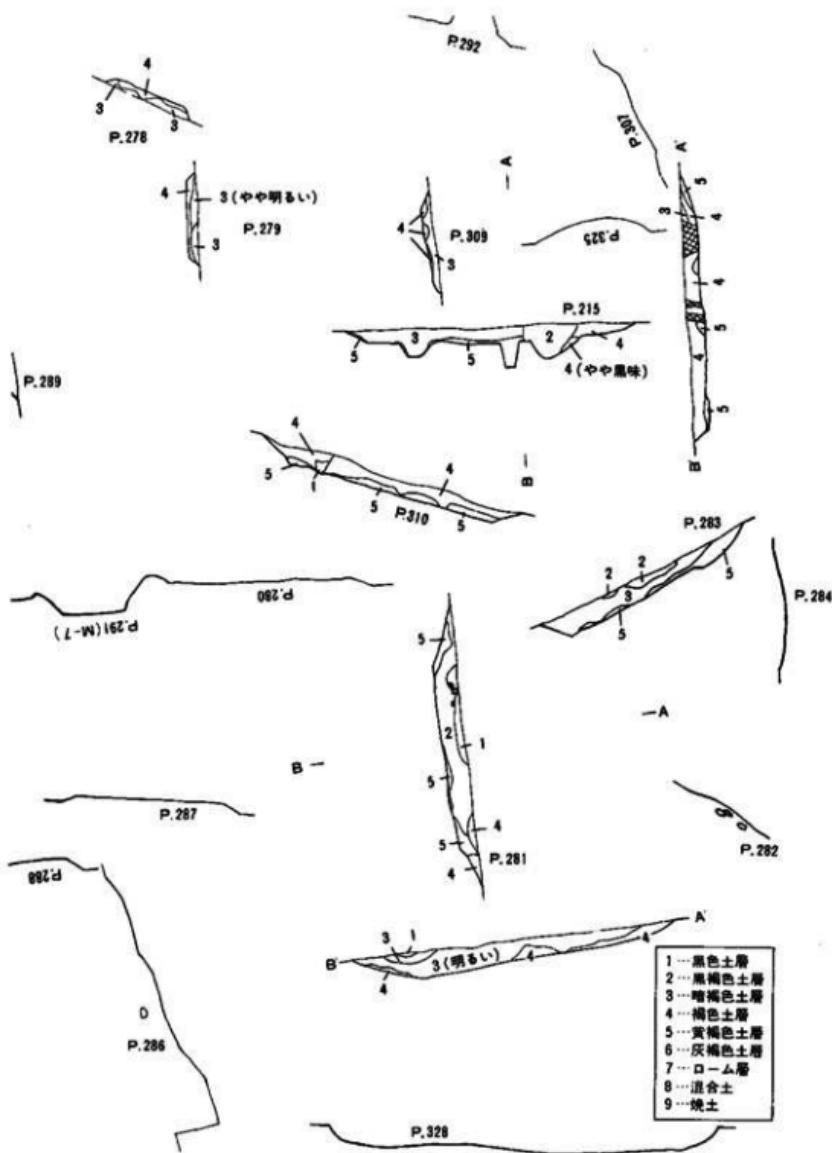
Pit 番号	位置 (地区)	平面形		断面形		覆 土	遺物組成		備 留 号
		タイプ	短軸×長軸 (cm)	タイプ	深さ (cm)		土群	石 器	
317	11	E	135×	C	17		○	石鏃 1 円形小鏃 1	
318	11	b	75×120	B	23		△		
319	11	B	125×200	B	26		△	スクレーパー 1 V型刀 1	
320	11	b	125×165	H	25		△	磨石 2 個	
321	12	E	115×160	C	40		△		
322	6	E	230×	D	23		○		
323	14	b	95×150	C	16		△	块状耳飾り 3	
324	4	D _t		D	58		○	スクレーパー 1 V型刀 1	
325	6		95×	B	10		△		
326	13	a	130×150	C	41		△		
327	13	b	70×155	I	23		△		
328	1	/		D			△	鐘器 1 円形小鏃 1 凹石 1	床はややかたい
329	4	b	90×135	C	17		△		
330	4	B	140×220	C	15		○		
331	4	b	70×100	B	11		○		
332	4	a	60× 65	B	8		—		
333	3	b	50× 60	A	55		—		
334	7	B	170×270	B	10		○		

Pit 番号	位置 (地区)	平面形		断面形		土	遺物組成		備考
		タイプ	短軸×長軸 (cm)	タイプ	深さ (cm)		土器	石器	
335	4	B		D	65		○	円形小鏡 2	2カ所に焼土あり
336	17	a	65×80	C	10		—		
337	3	b	90×125	B	10		△		
338	3	a	100×110	B	10		△		
339	3	E		A	15		—	スクレーパー1 小鏡	
340	11	B	×350	I	11		○		
341	4	b	80×	I	20		△		
342	1	/		/	50		○		
343	1	F	×220	B	10		○		

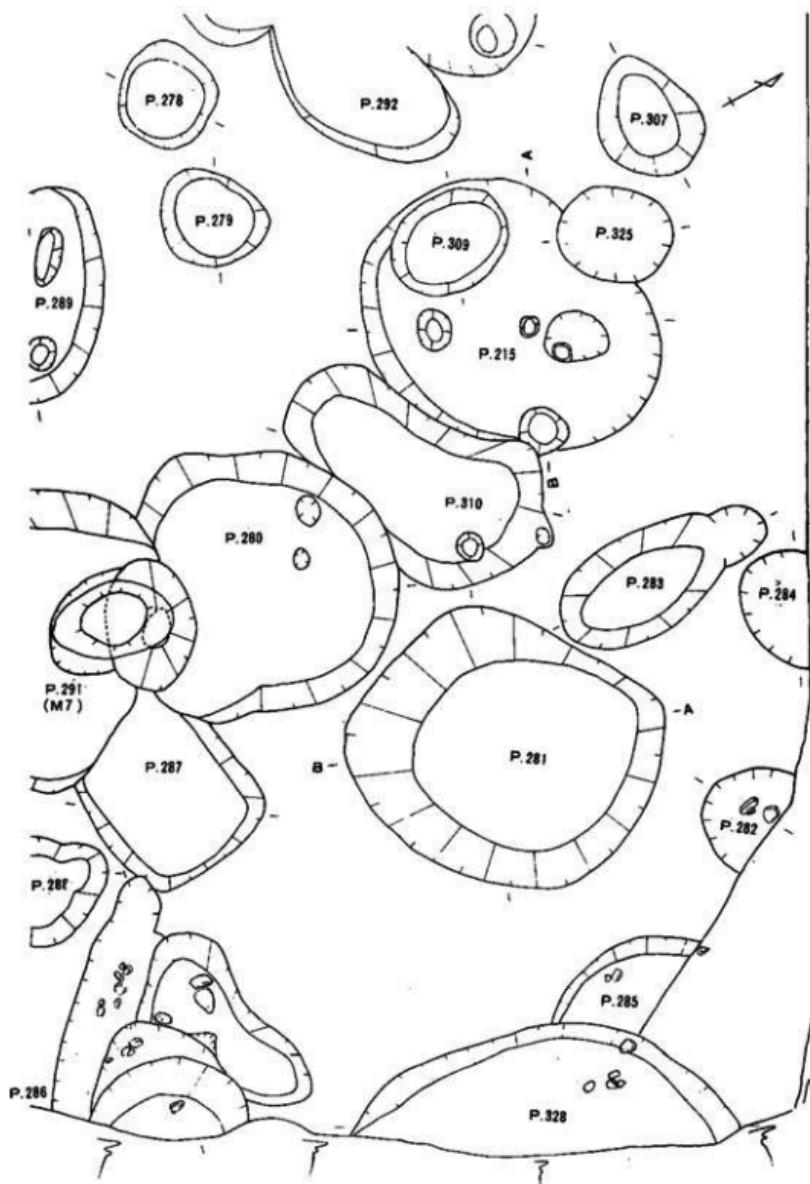
註 1. (N, M)とは、小形、大形の意味である。

2. 「~」は、上に対して同一という意味である。

3. (穴)とは、穴製品である。



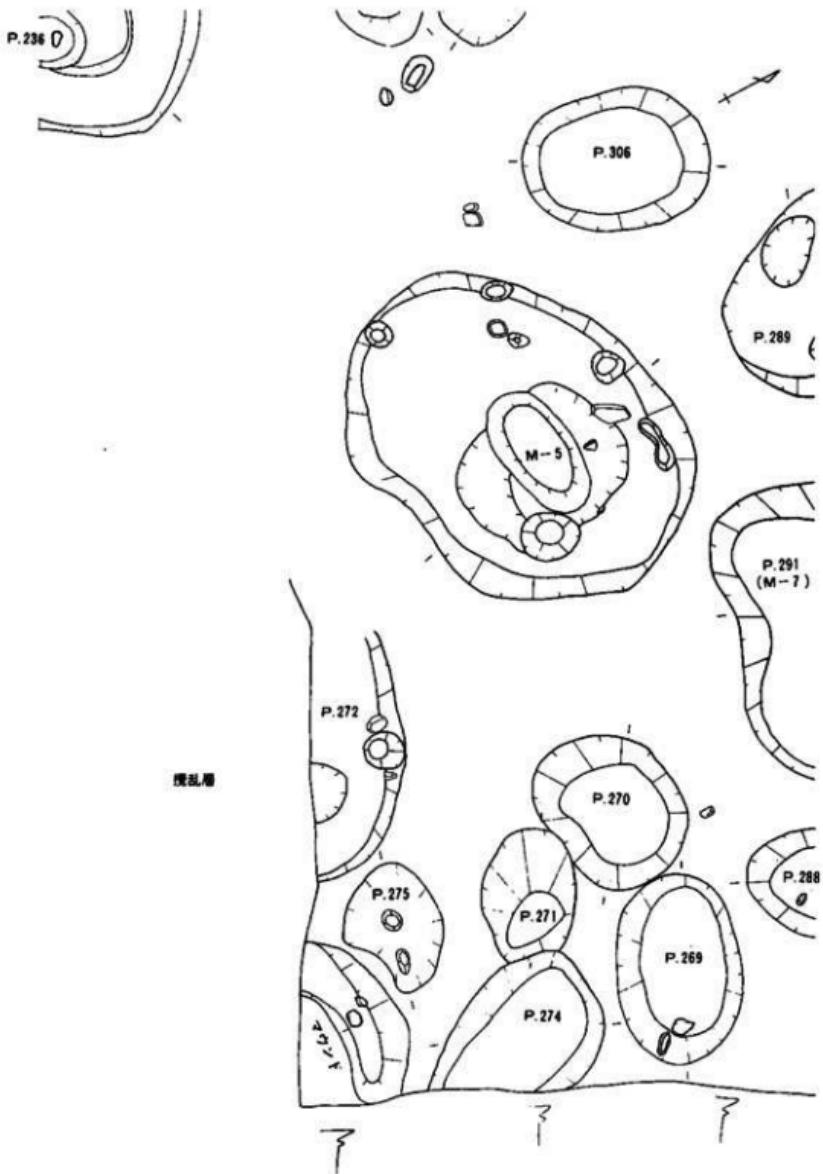
第5図 1地区断面図 (1 : 60)



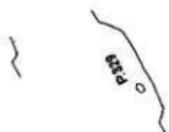
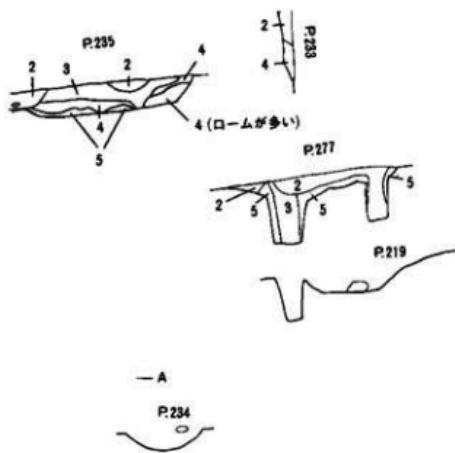
第6図 1地区平面図 (1 : 60)



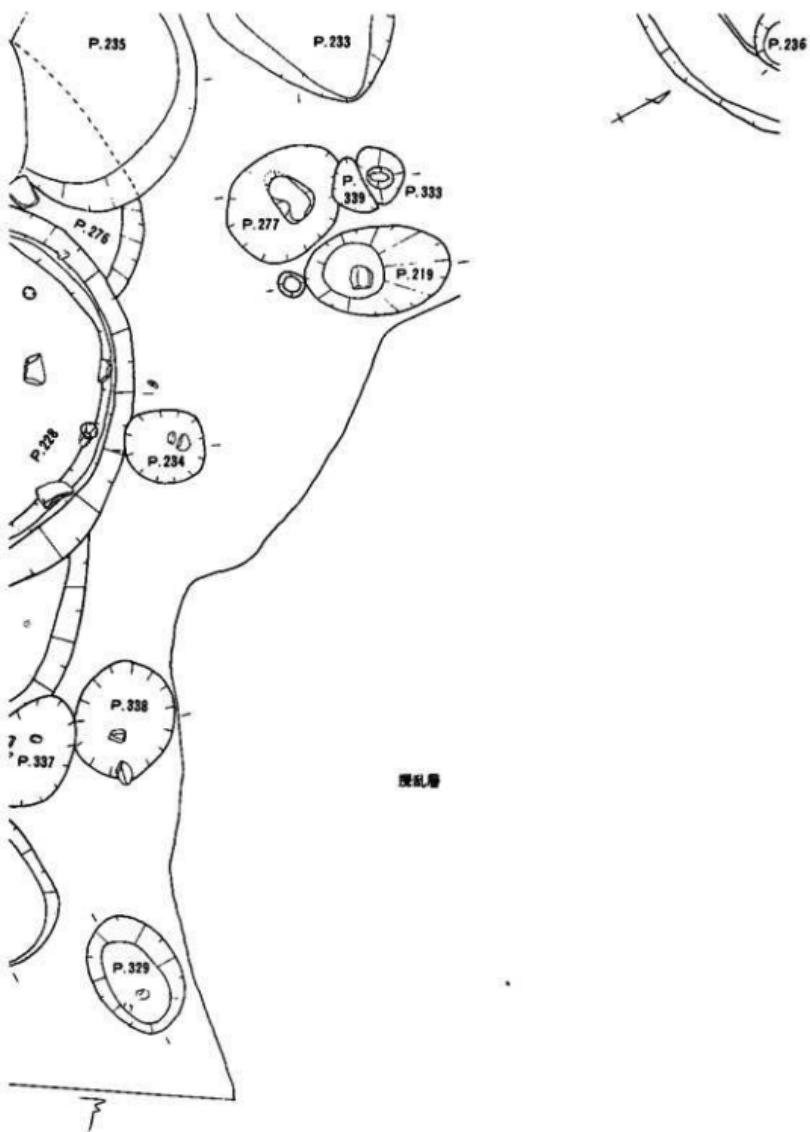
第7図 2地区断面図 (1 : 60)



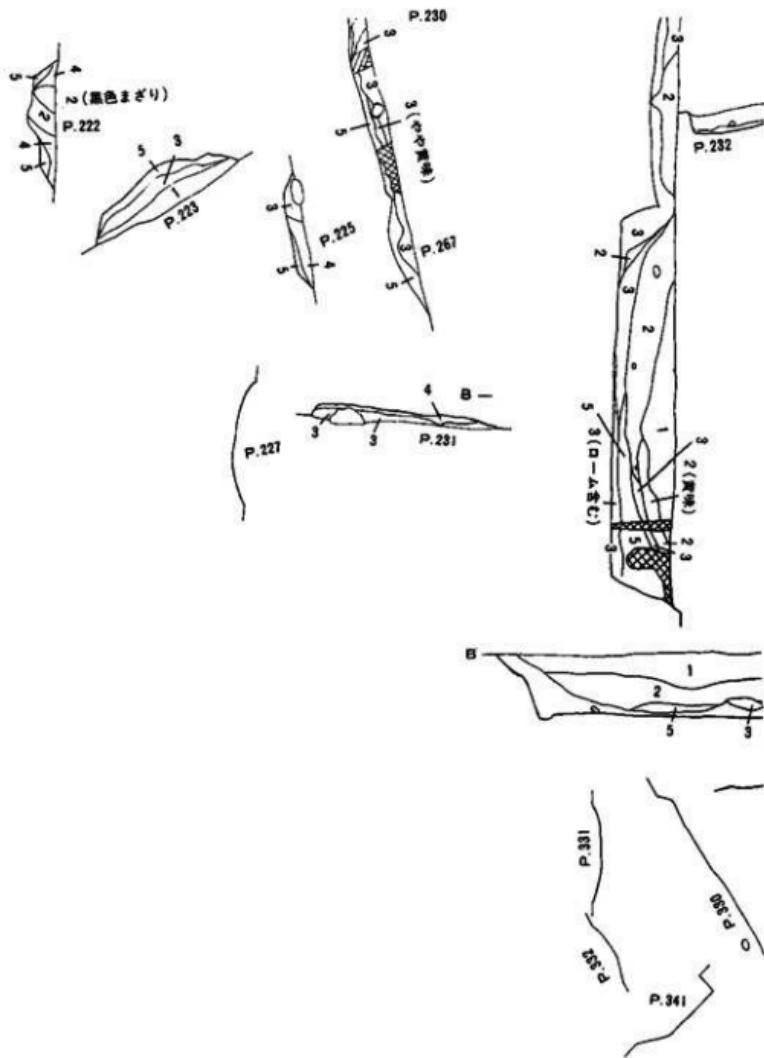
第8図 2地区平面図 (1 : 60)



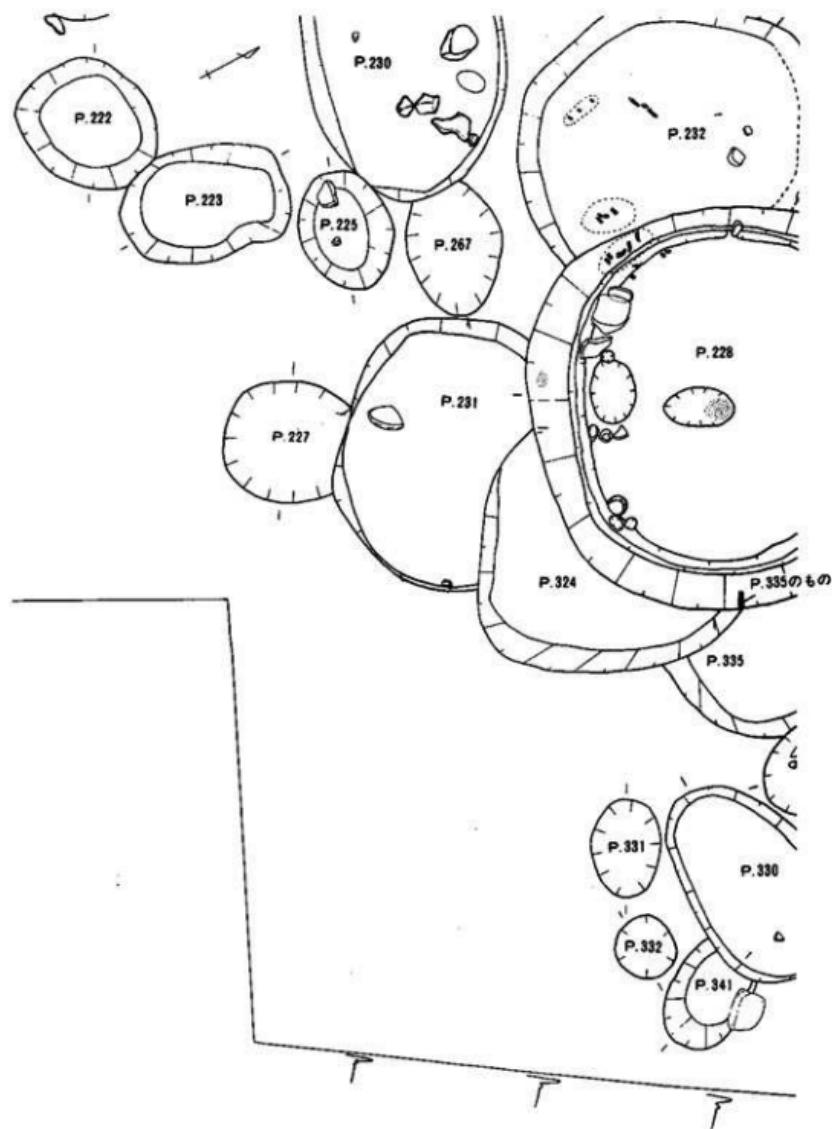
第9図 3地区断面図 (1 : 60)



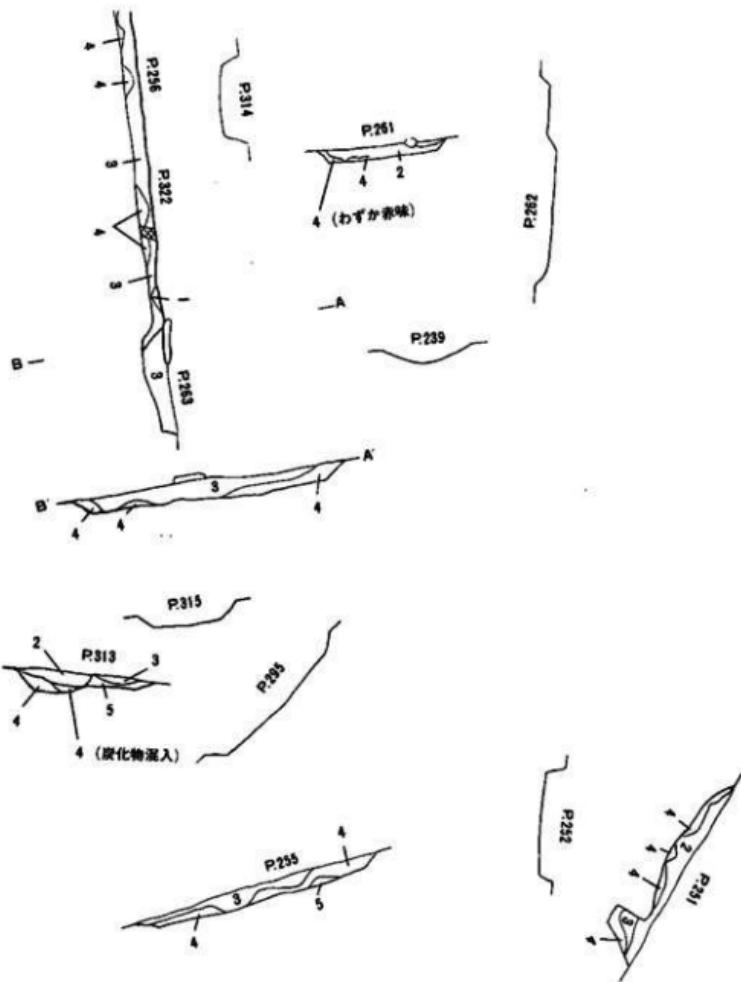
第10图 3地区平面图 (1:60)



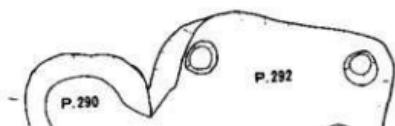
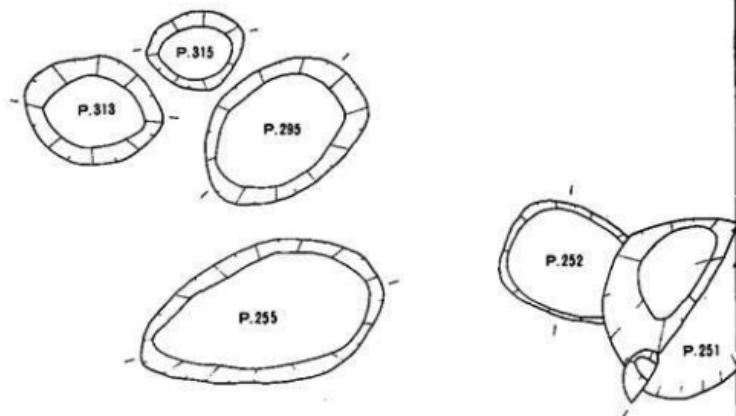
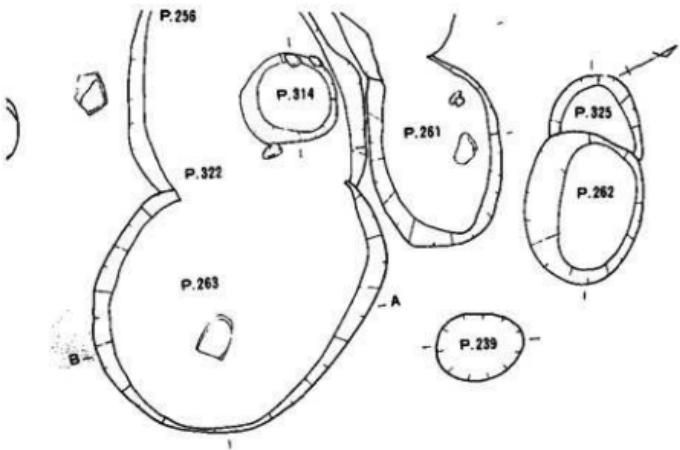
第11図 4地区断面図 (1 : 60)



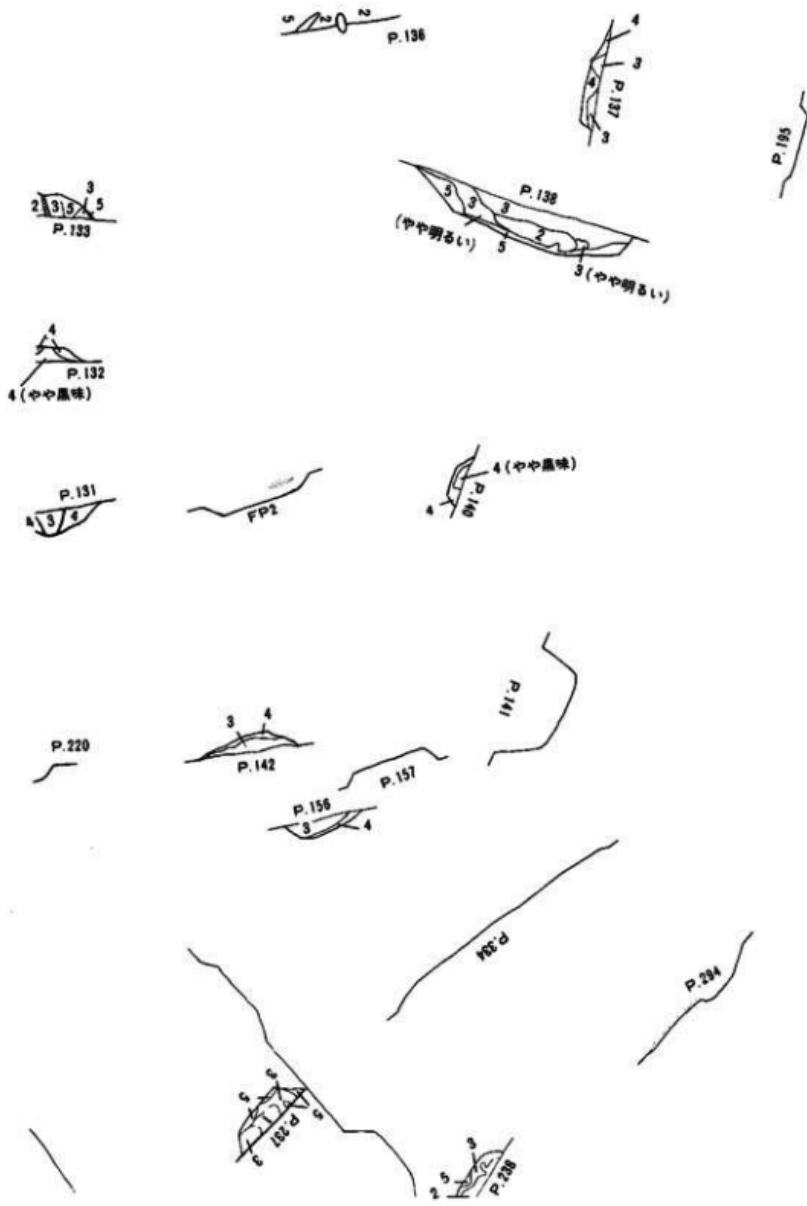
第12図 4地区平面図 (1 : 60)



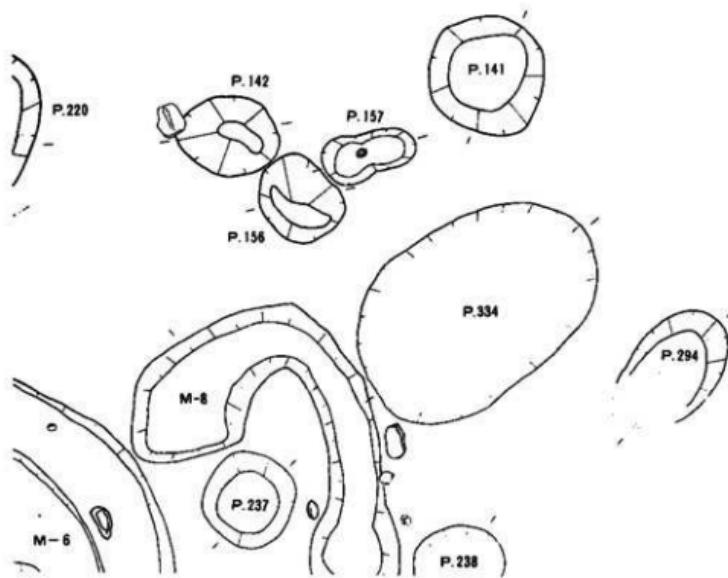
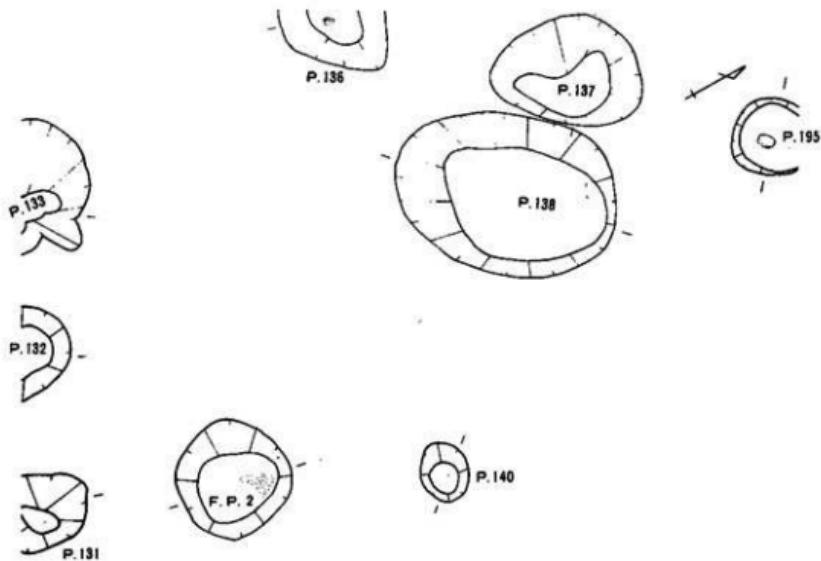
第13図 6地区断面図 (1 : 60)



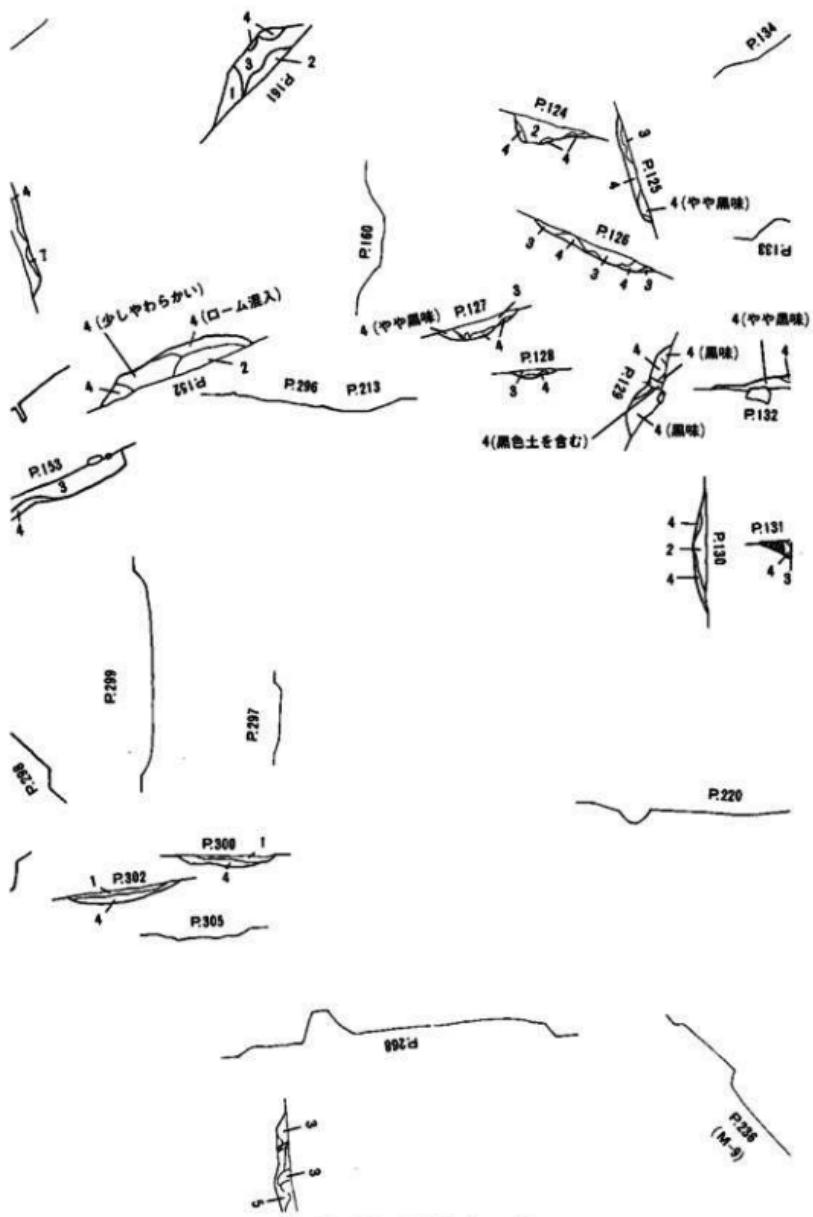
第14図 6地区平面図 (1 : 60)



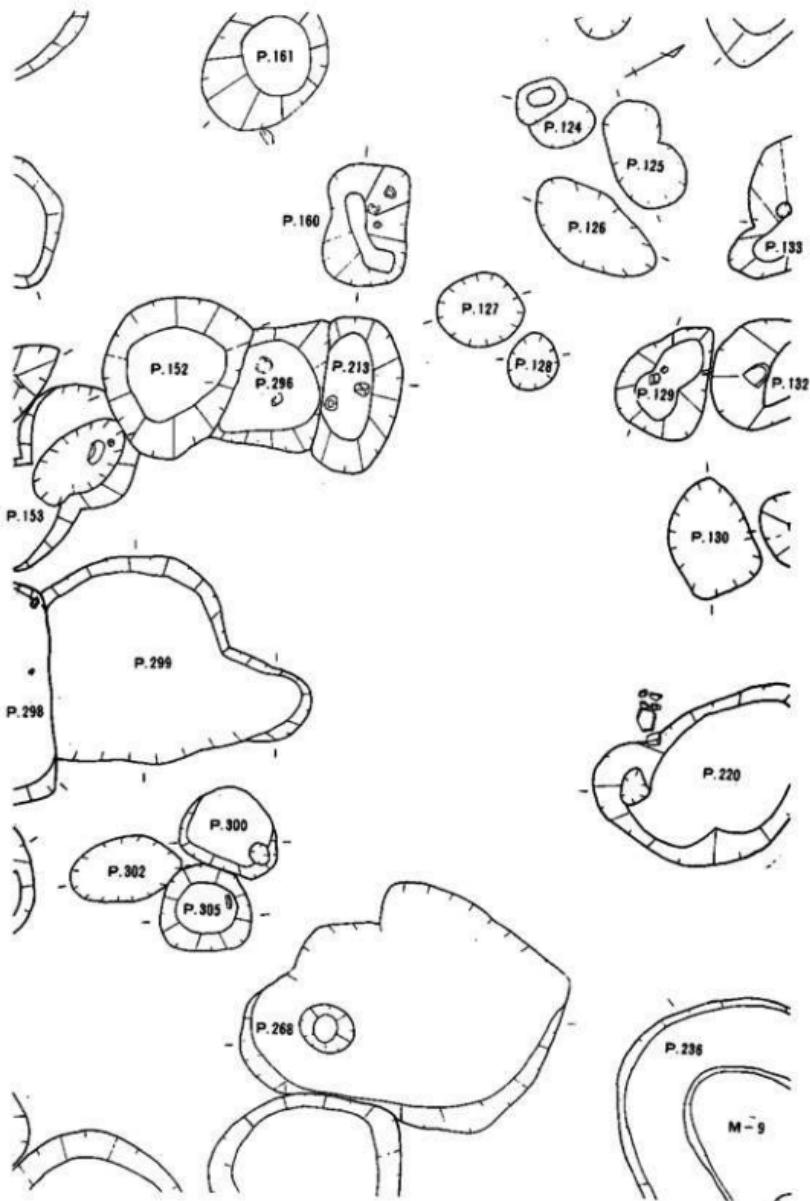
第15図 7地区断面図 (1 : 60)



第16図 7地区平面図 (1 : 60)



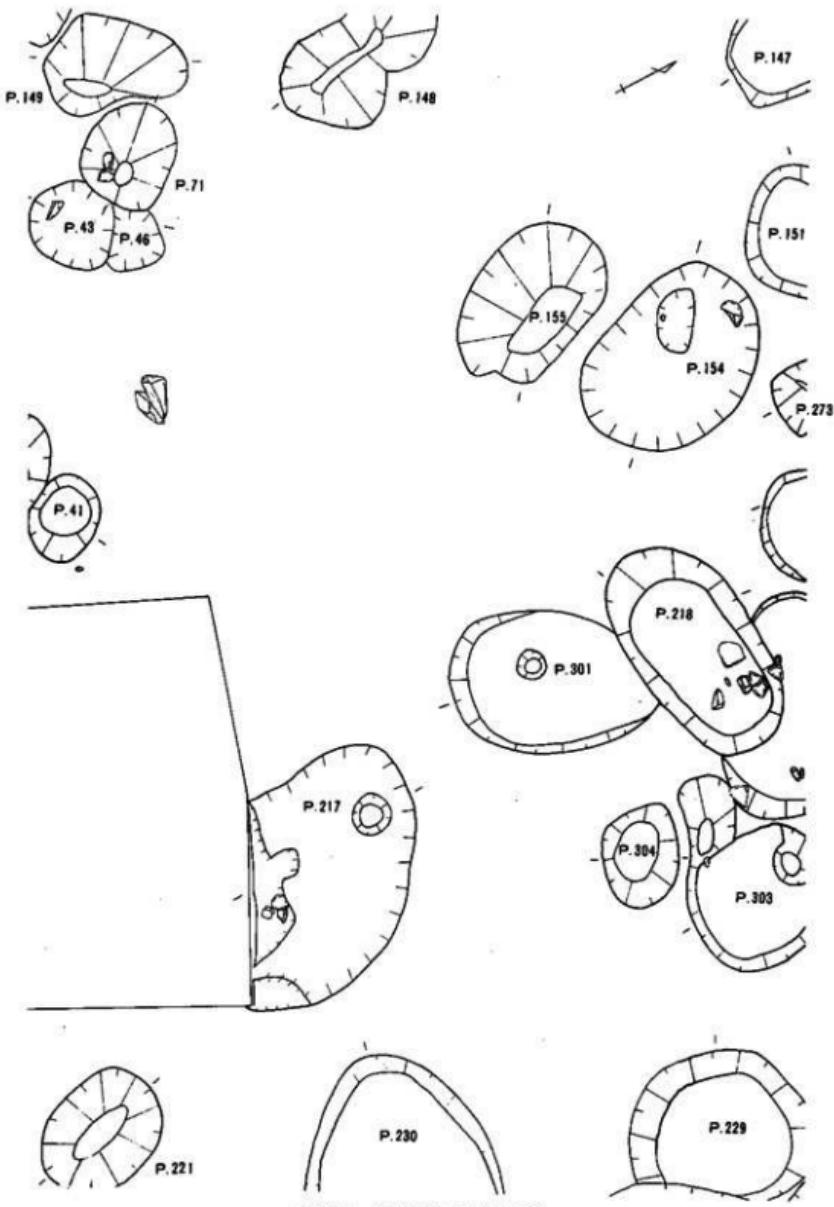
第17図 8地区断面図 (1 : 60)



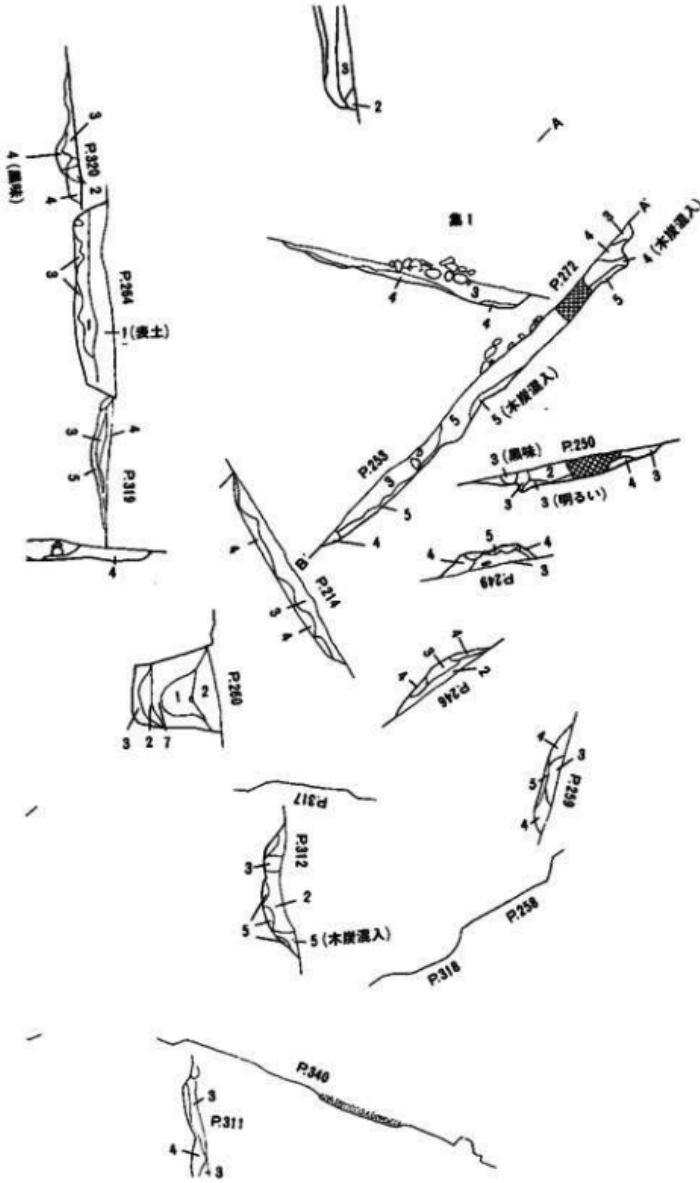
第18図 8地区平面図 (1 : 60)



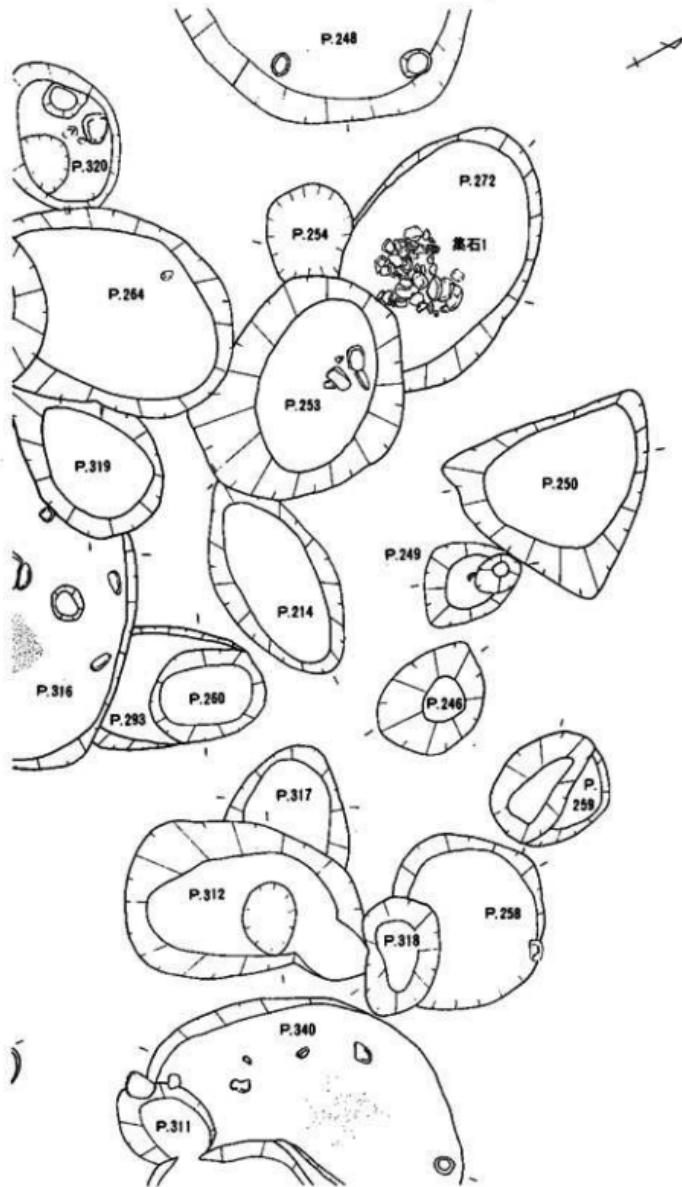
第19図 9地区断面図 (1 : 60)



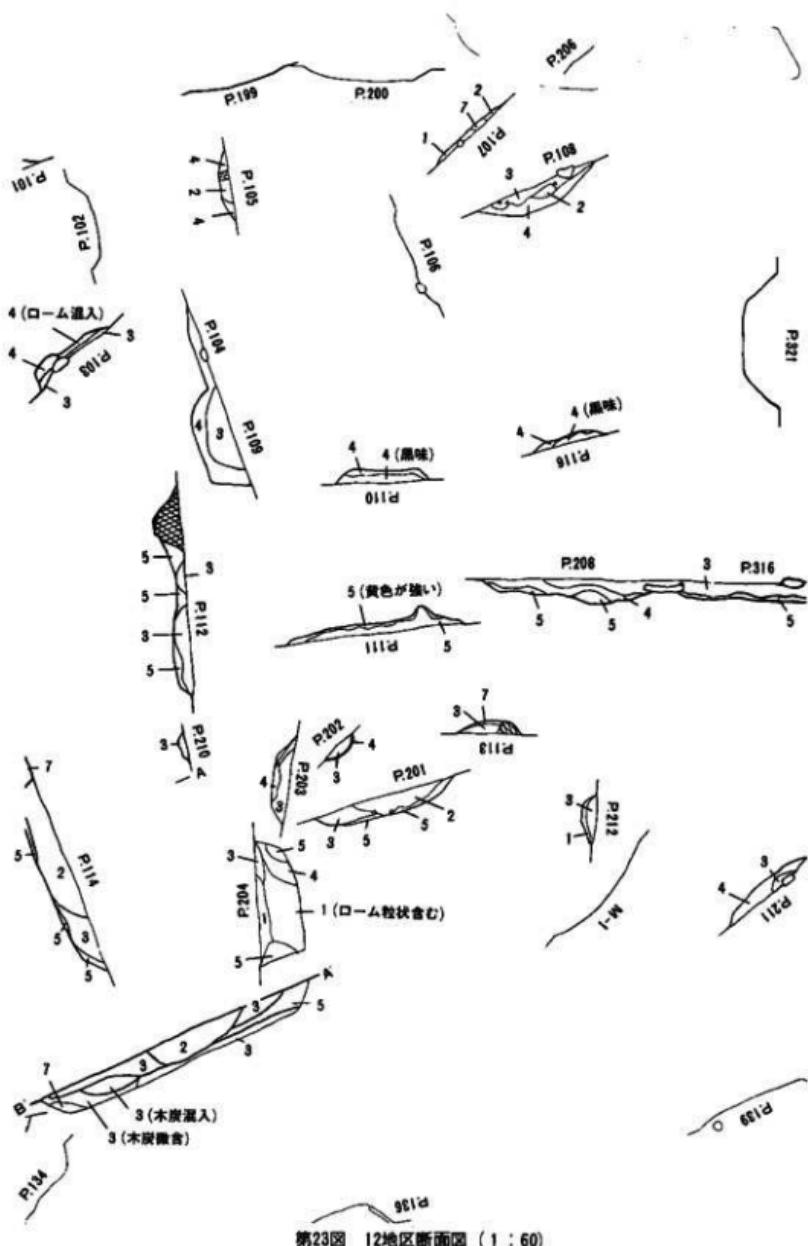
第20圖 9 地區平面圖 (1 : 60)



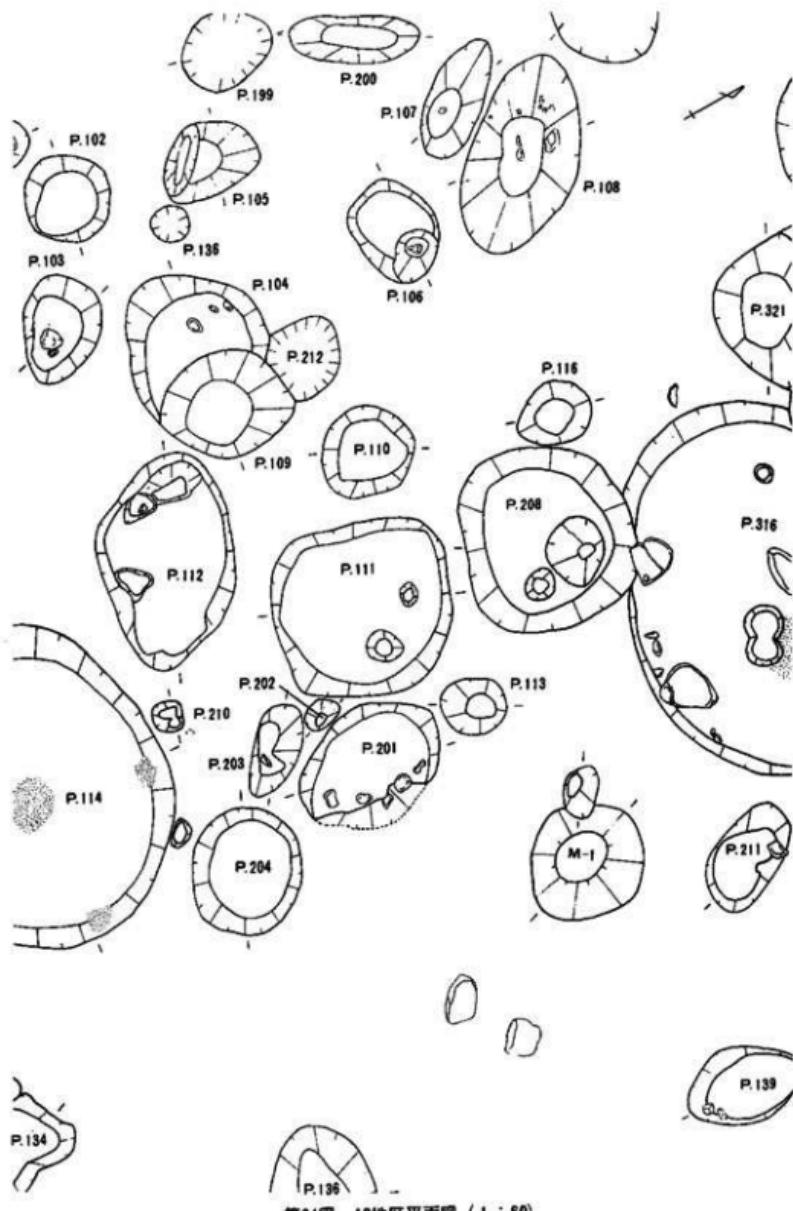
第21図 11地区断面図 (1:60)



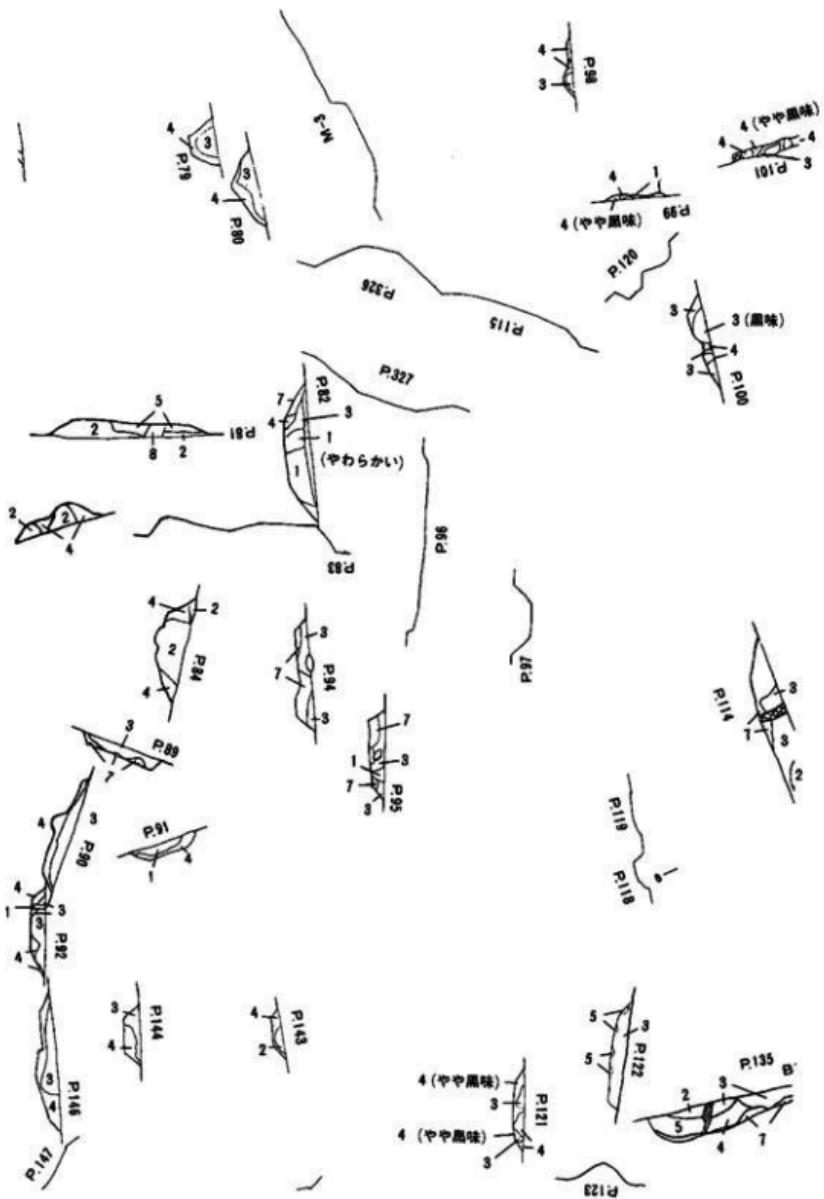
第22图 11地区平面图 (1 : 60)



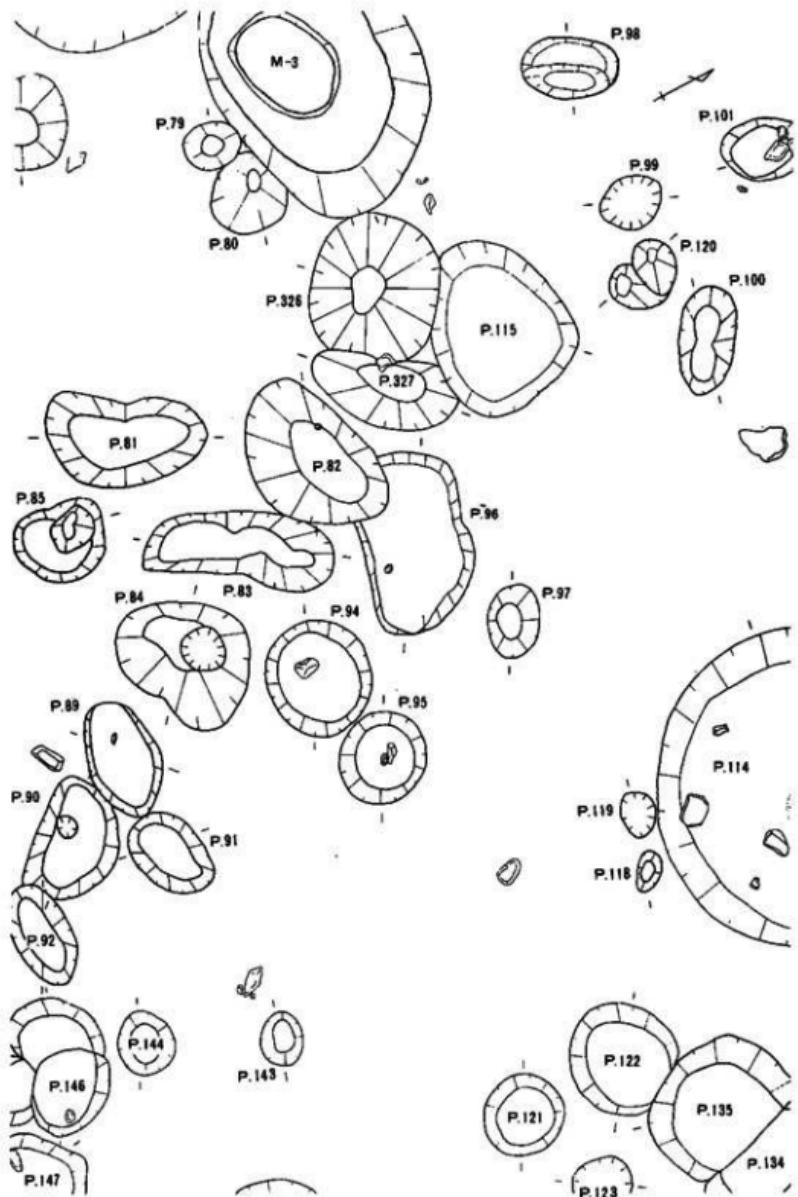
第23図 12地区断面図 (1 : 60)



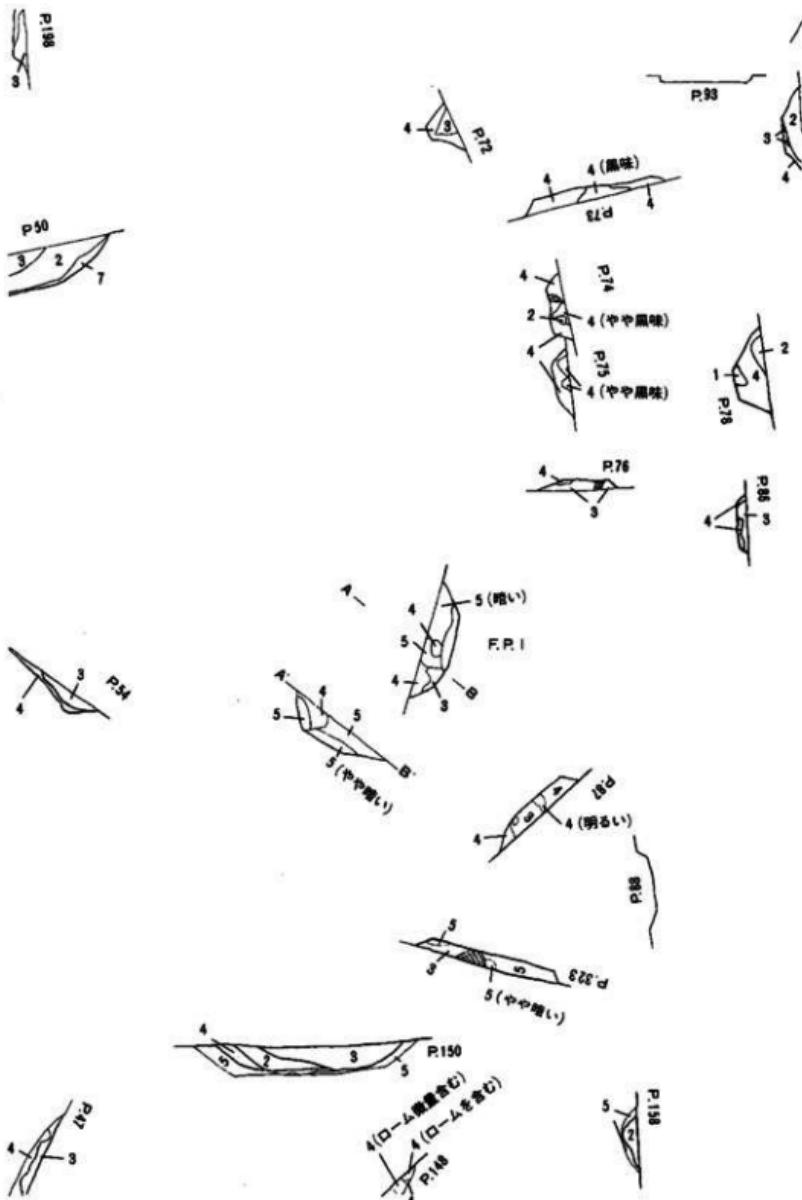
第24圖 12地區平面圖 (1 : 60)



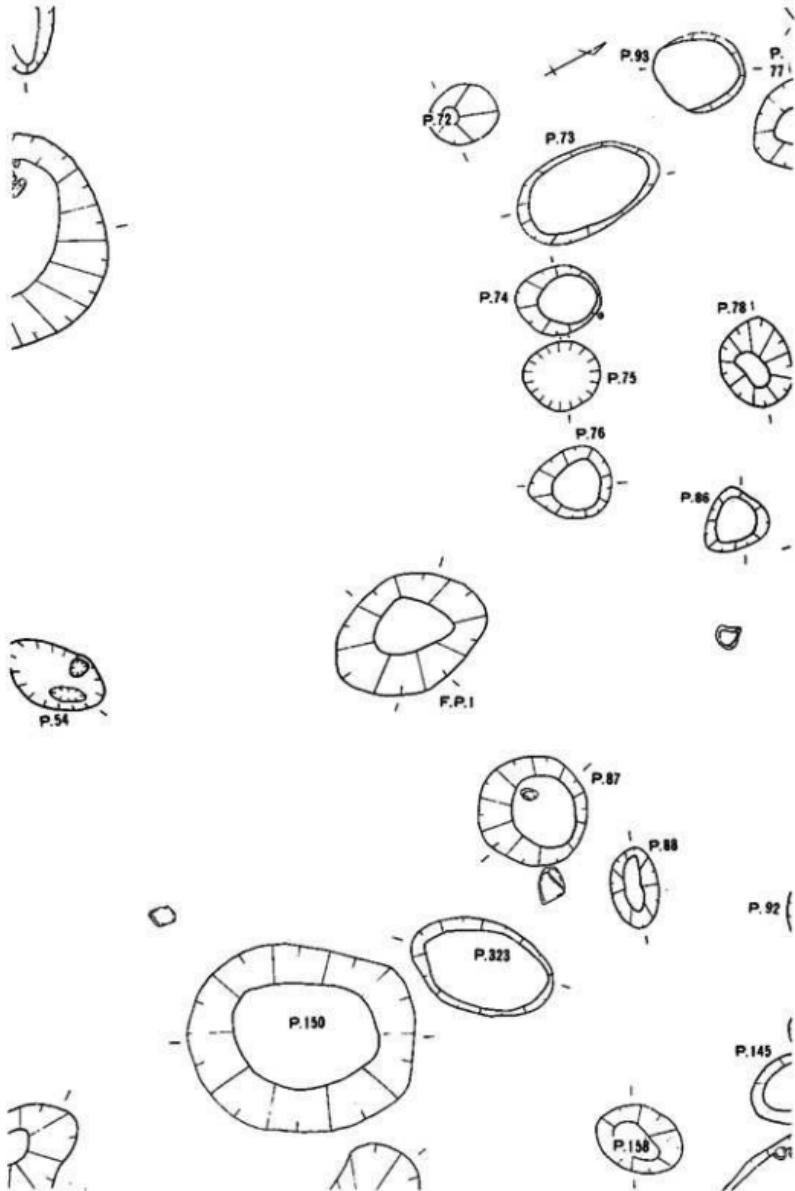
第25図 13地区断面図 (1 : 60)



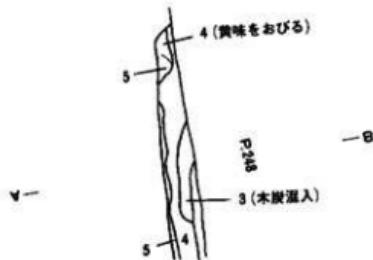
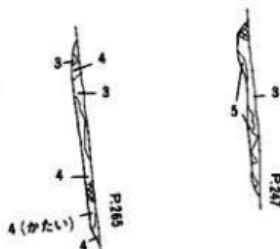
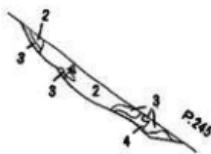
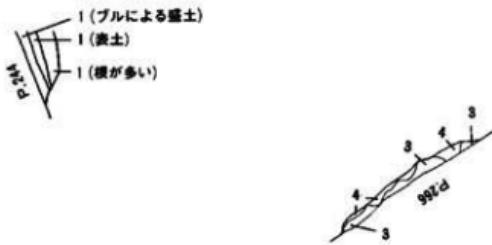
第26図 13地区平面図 (1 : 60)



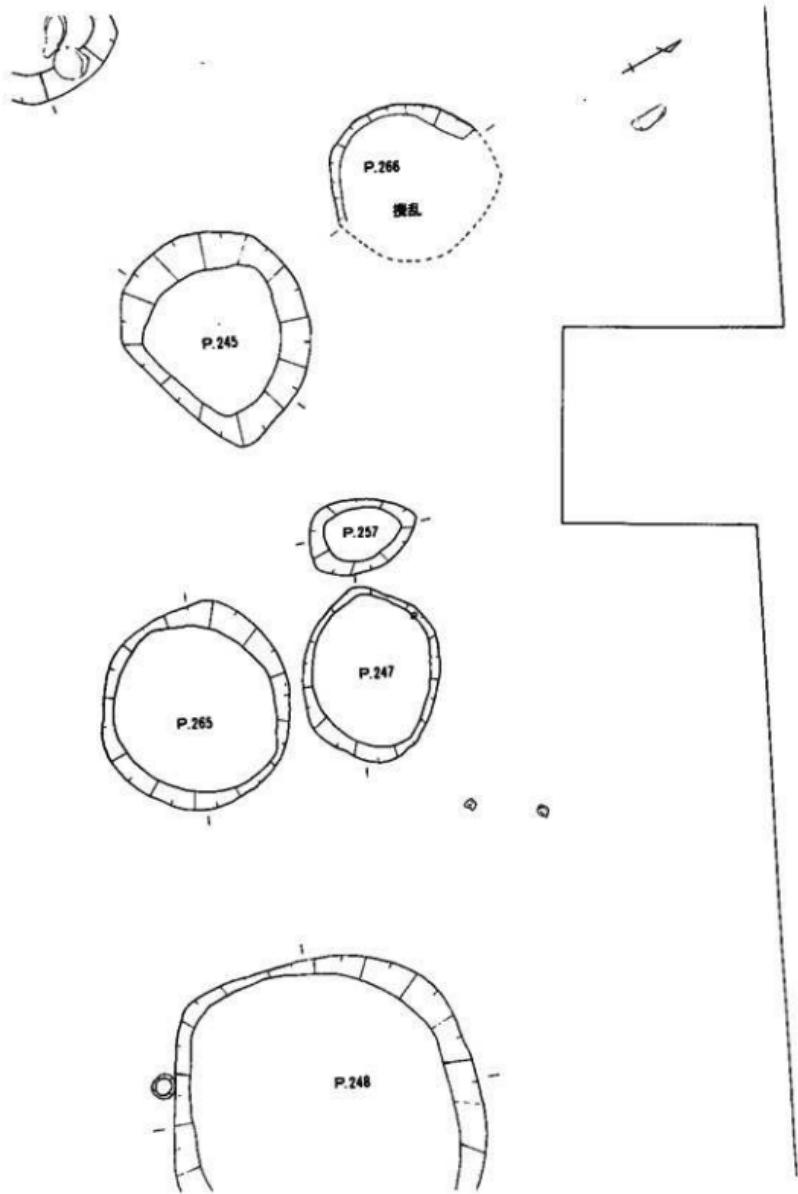
第27図 14地区断面図 (1 : 60)



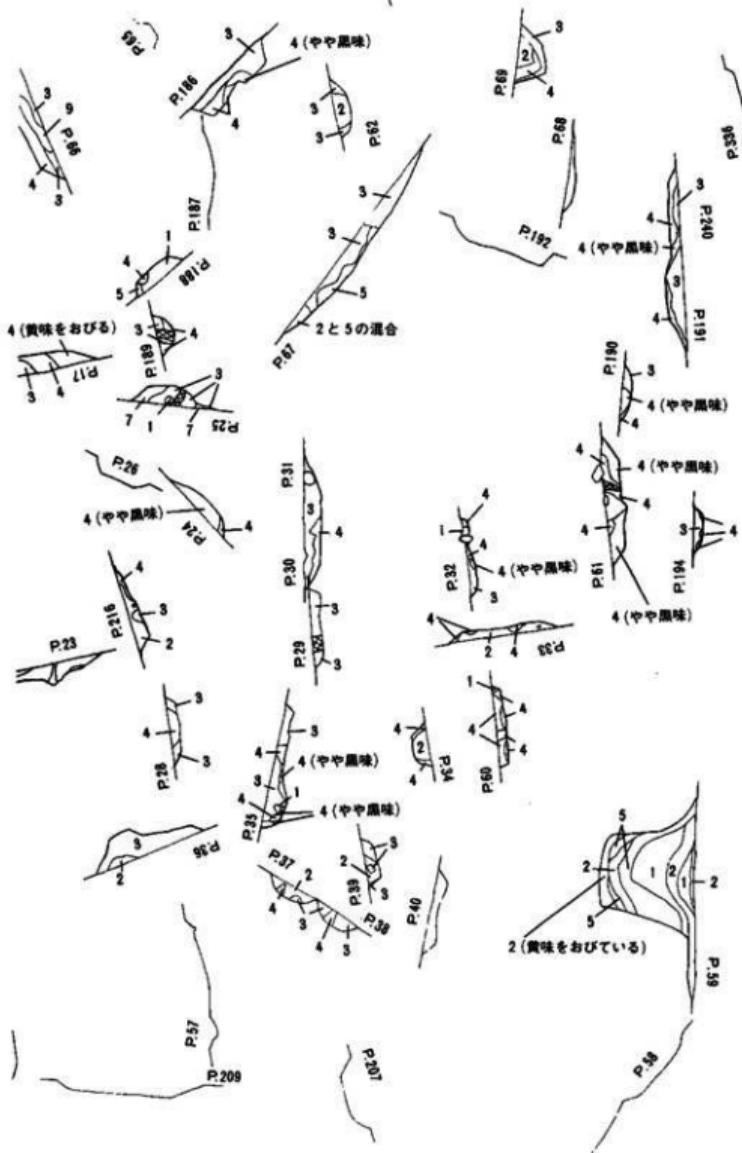
第28図 14地区平面図 (1 : 60)



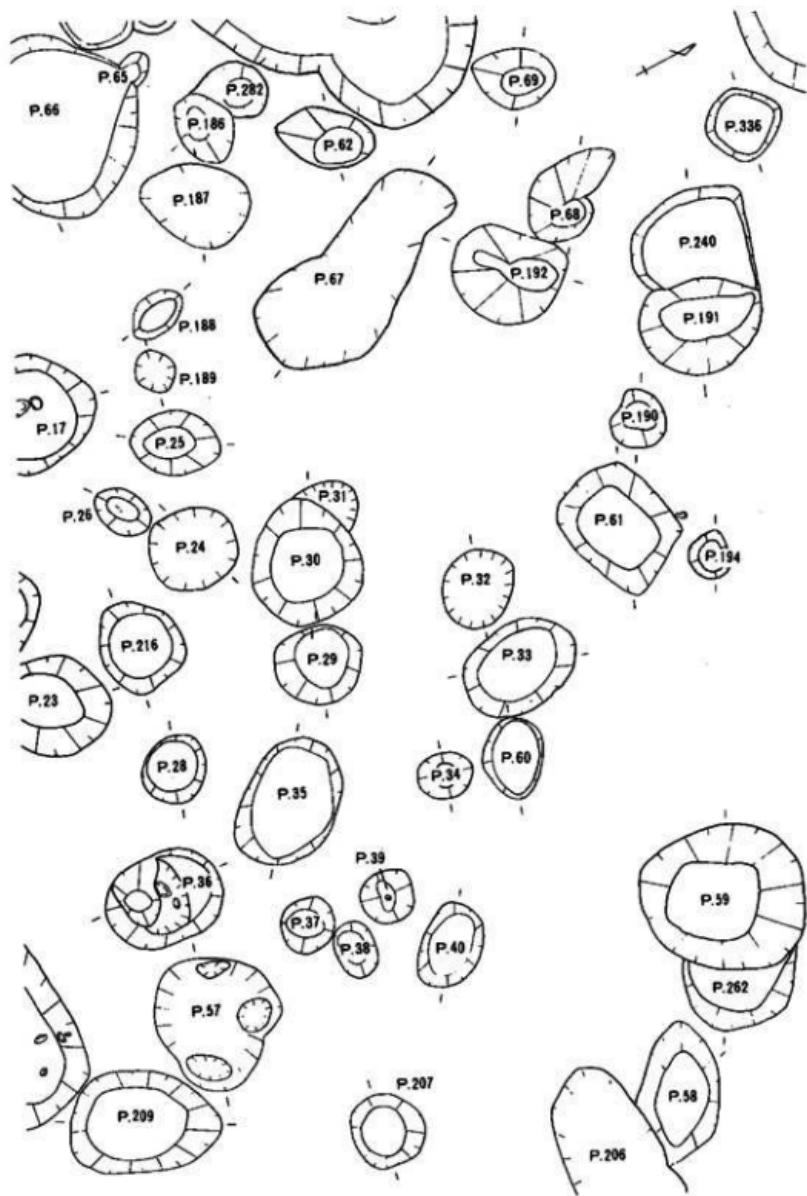
第29図 16地区断面図 (1 : 60)



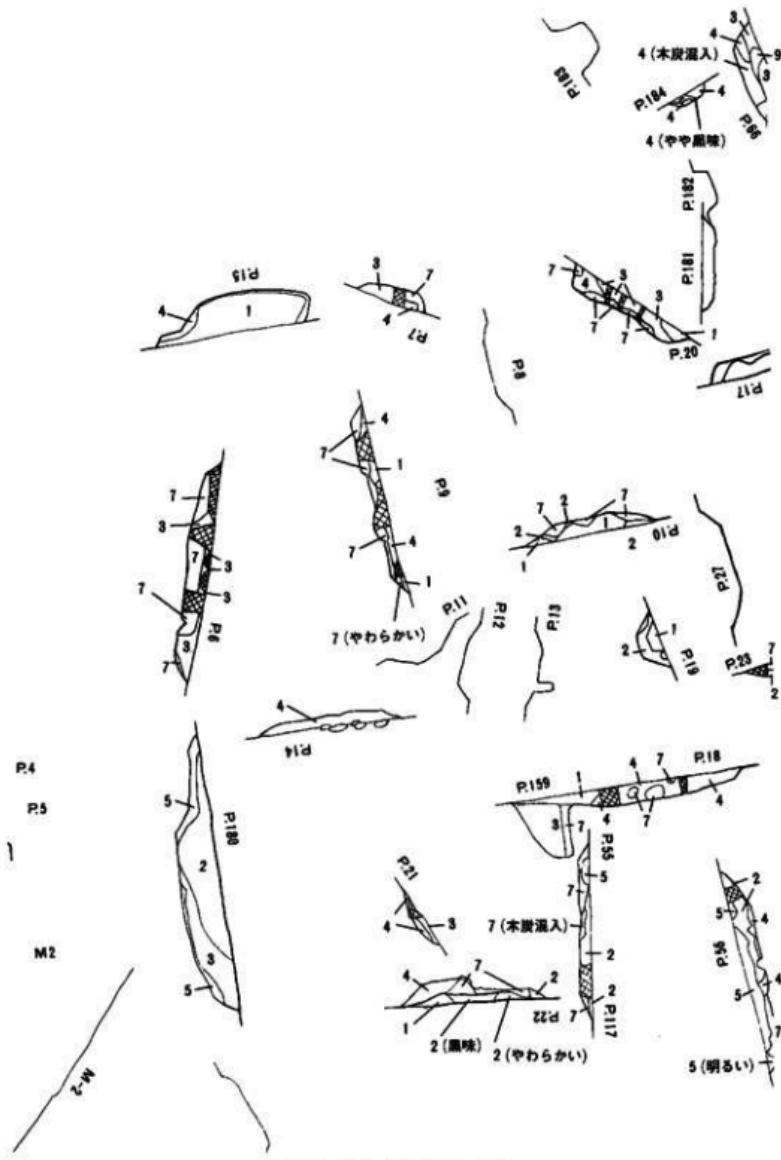
第30図 16地区平面図 (1 : 60)



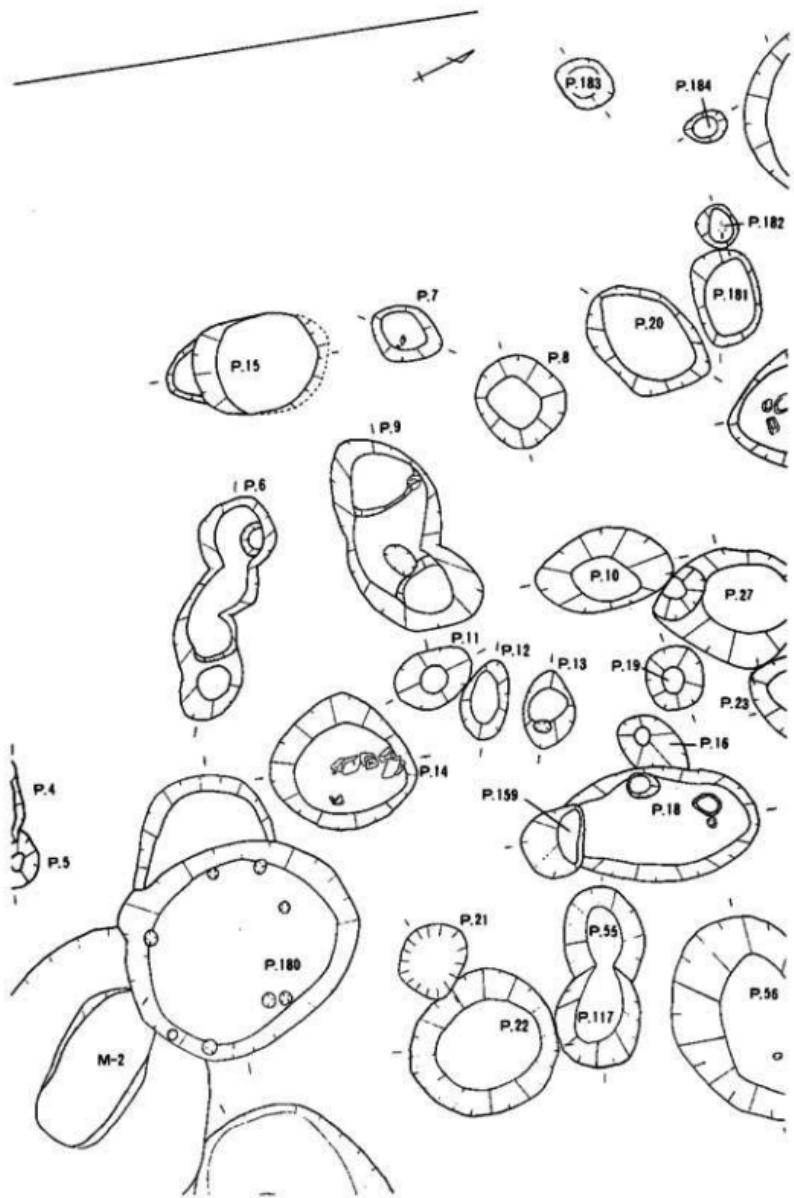
第31図 17地区断面図 (1 : 60)



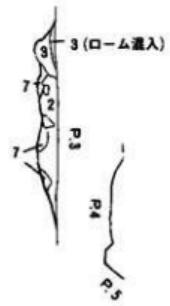
第32図 17地区平面図 (1 : 60)



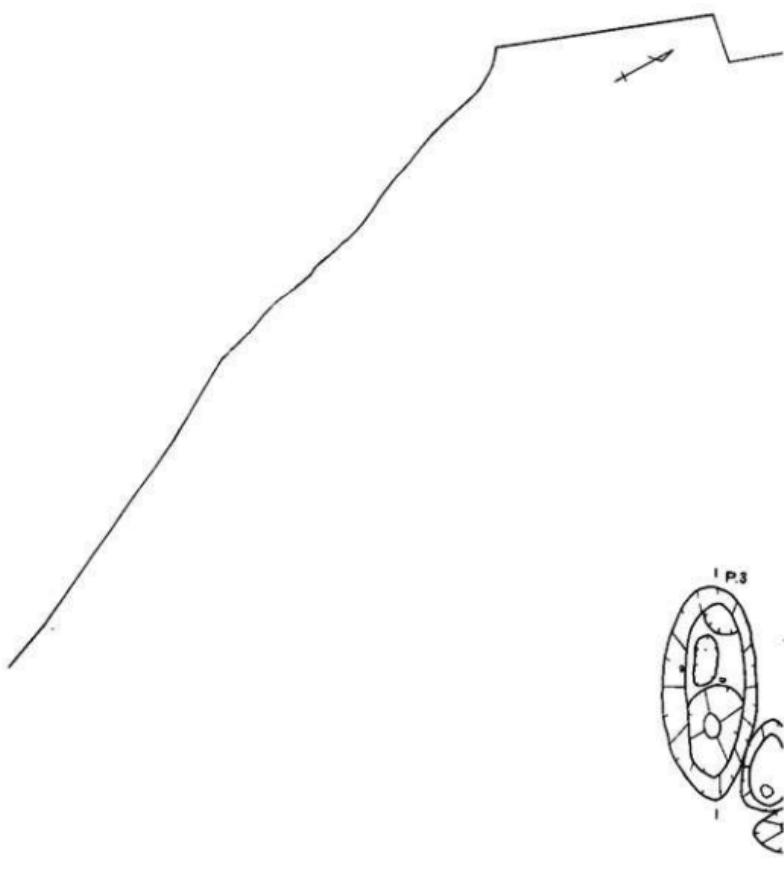
第33図 18地区断面図 (1:60)



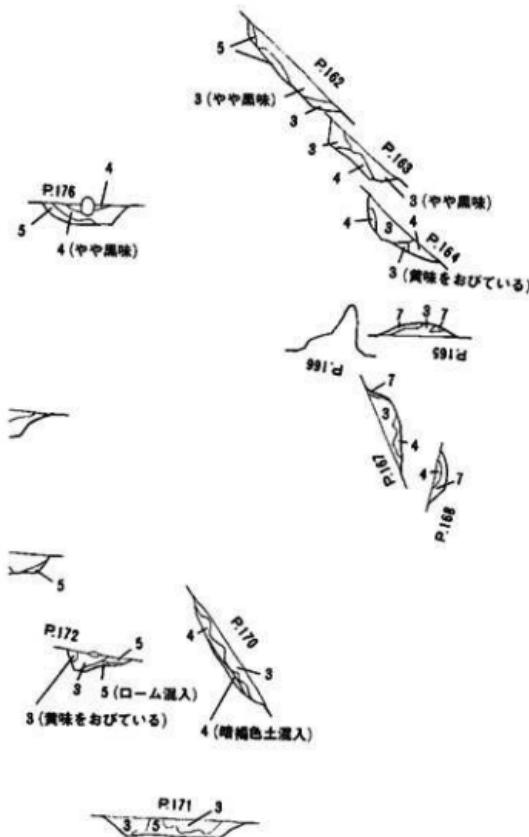
第34図 18地区平面図 (1 : 60)



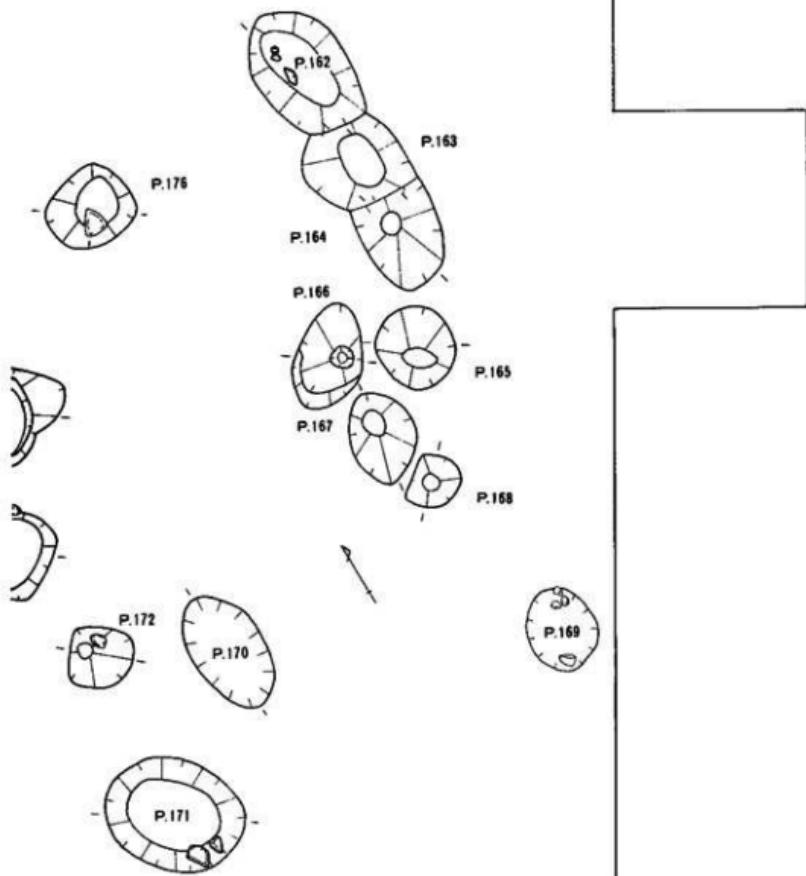
第35図 19地区断面図 (1 : 60)



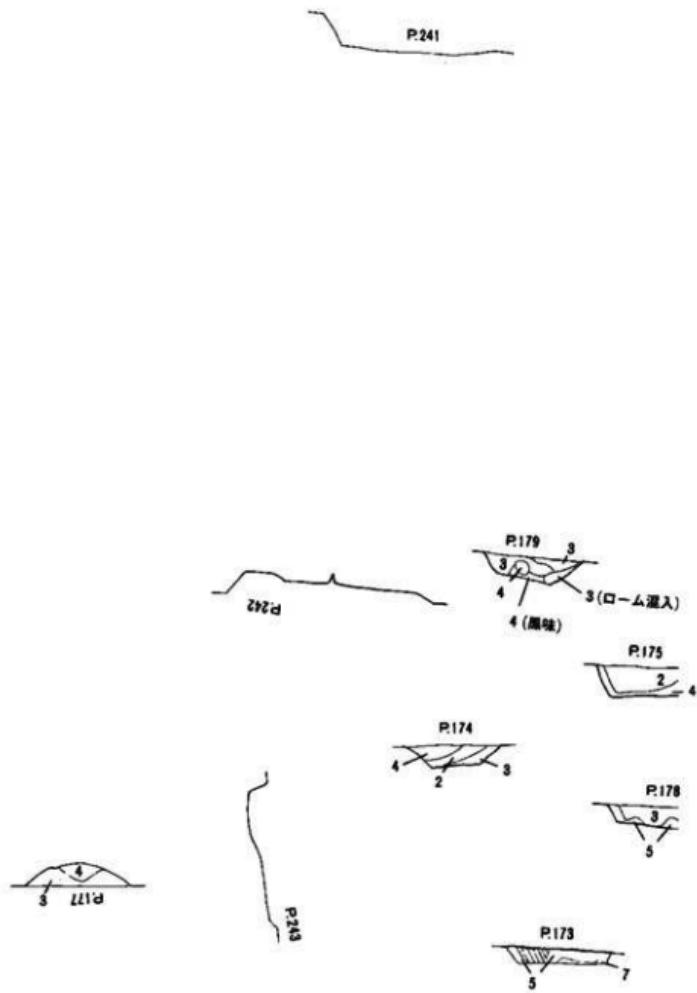
第36圖 19地區平面圖 (1 : 60)



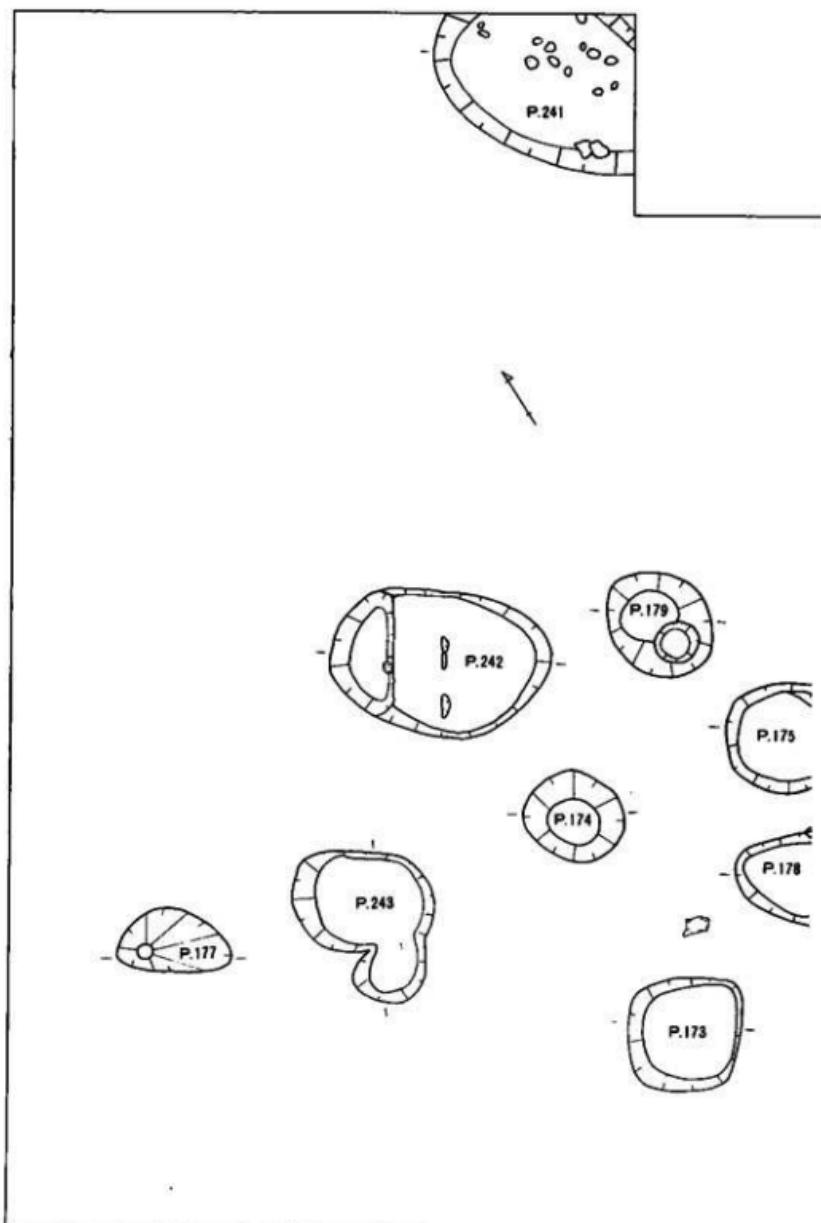
第37図 21地区断面図 (1 : 60)



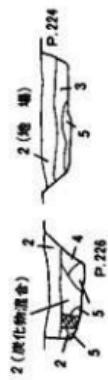
第38図 21地区平面図 (1 : 60)



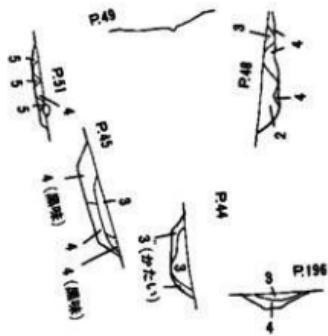
第39図 22地区断面図 (1 : 60)



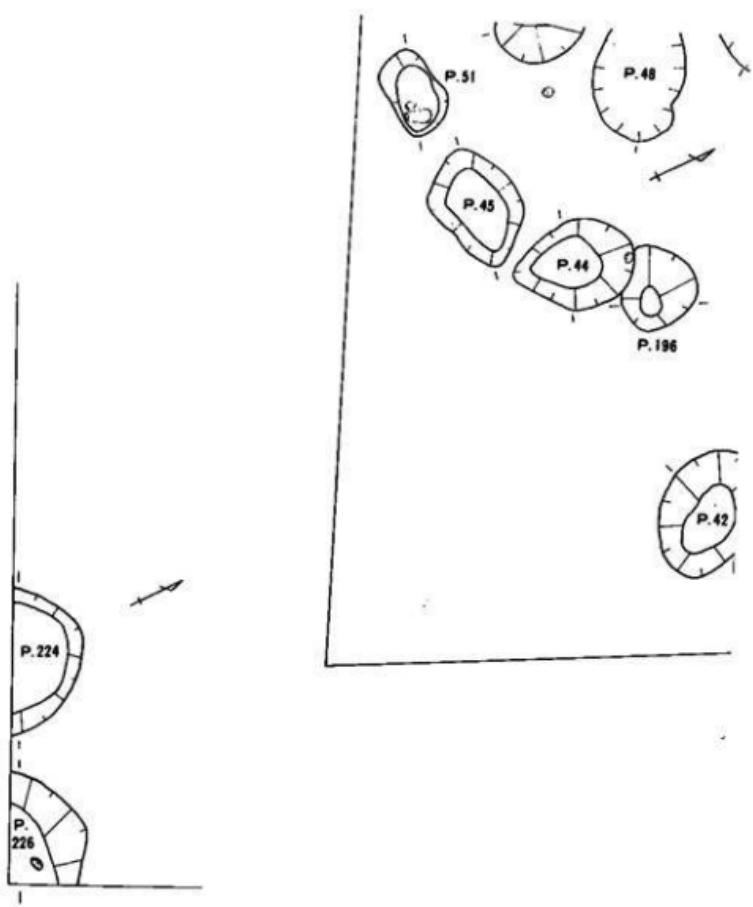
第40图 22地区平面图 (1 : 60)



第41図 5地区断面図 (1 : 60)



第42図 10地区断面図 (1 : 60)



第43図 5地区平面図 (1 : 60)

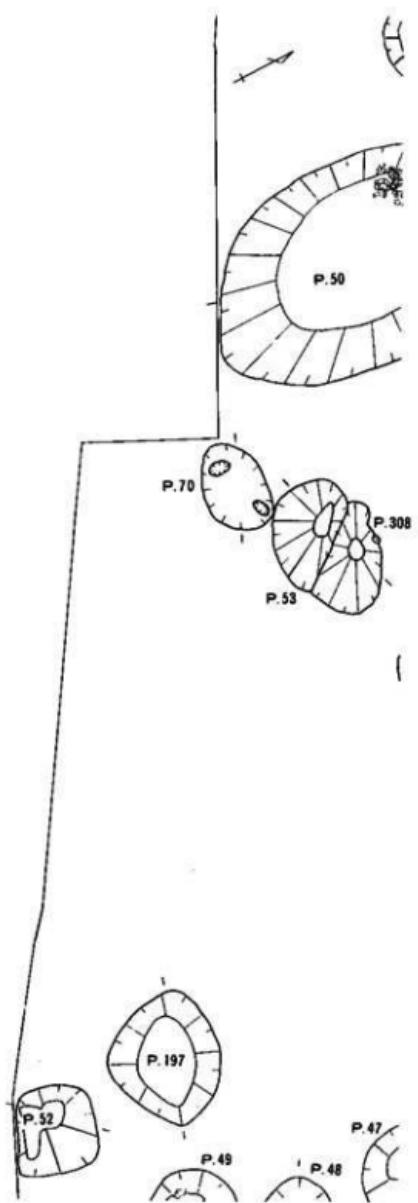


第44図 10地区平面図 (1 : 60)

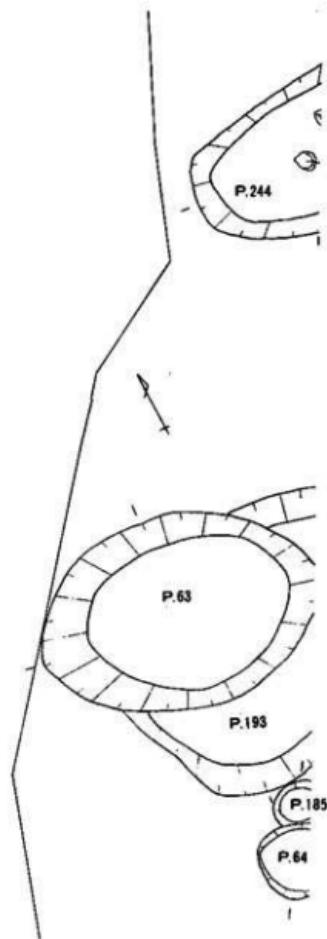


第45圖 15地區斷面圖 (1 : 60)

第46圖 20地區斷面圖 (1 : 60)



第47図 15地区平面図 (1 : 60)



第48図 20地区平面図 (1 : 60)

第Ⅳ章 遺 物

第1節 土 器

カゴ田遺跡から出土した土器は、1片の縄文時代後期の土器（4017）を除いては、他はすべて、縄年に縄文時代早期の末葉に位置づけられるものであった。従って、確認された遺構の殆どすべては早期末に構築されたものと考えられる。ここでは、出土した土器を、主として土器の成形あるいは、整形テクニック、土器への施文テクニックによってI～V群に大別し、その観察的所見の概略を示すこととする。

第I群土器 （第49図）

土器の胎土中にいわゆる繊維を多く含有し、器厚は8～10mmと厚いもので、縄文時代早期末に主として関東地方を中心に分布する土器と同類のものと考えられる一群の土器である。

第1類

1片だけの出土で、鶴ヶ島台式土器である。竹管による施文がなされ、胎土中には繊維が含まれており、内面には整形による条痕が見られる。

第2類

器表面に単節の斜縄文が施され、胎土中に繊維が多く含まれている。内面には整形による条痕は見られない。胎土中には繊維のほかに長石や石英の粒子、あるいは細かな雲母が含まれているものが多く、中でも、長石の細粒子を含み、石英の殆ど含まれていない破片は比較的内面の仕上げの状態が良好で、石英を多く含むものはやや粗い感じのするものが多い傾向がある。雲母は两者とも微量づつ含まれている。器形は深鉢と思われるが、底部は出土していないため、平底、丸底、尖底の別は不明である。

第II群土器 （第50図）

器厚は第I群土器よりやや薄く、中厚手の感じのするもので、胎土中には繊維の含まれないものが多い。

第1類

隆帯を貼り付けたもので、隆帶上には刻目が施されている。隆帶は口縁部に1本が横走し

ている破片が多いが、それ以下の状態は不明である。

第2類

第1類同様、隆帯が貼り付けられているが、隆帯のないもの（4903）や、断面のやや異った隆帯が貼り付けられているものがある。この第2類は、口縁部及びその付近に、貝殻あるいは櫛齒状の器具によって波状の施文がなされている。第2類は、隆帯という点では第1類に類し、波状文という点では後述の第Ⅲ群土器に共通する。

第Ⅲ群土器　（第50図）

第Ⅰ群、第Ⅱ群と大きく異って、器壁が薄く、焼成後の仕上がりが良好で堅緻なものである。貝殻あるいは櫛齒状の器具によって施文がなされている。口縁部付近では波状文を描き胴下半部では斜行するものと思われる。3193, 1536, 2197, 2046など、胎土中に纖維を含むものがあるが、その量は極めてわずかであり、第Ⅰ群土器とは、含有量以外に、その纖維の種類が異っている。すなわち、第Ⅰ群土器では細い纖維が密に含まれていたのに対し、第Ⅲ群および次に述べる第Ⅳ群土器は、短くワラを切ったような纖維質のものを少量含有している。内面には成形時の指痕が残っているが、外面には指痕ではなく、波状文などが施文されている。器形は深鉢形と思われるが、次の第Ⅴ群と同様、口縁部に対して胴部がやや膨らむもので、恐らく尖底あるいは尖底に近い丸底であろう。

第Ⅴ群土器　（第51, 52, 53, 54, 55図）

第Ⅲ群土器と同様、器壁は3～4mmと薄手で、胎土中に纖維を含むものはわずかであり、含んでいても少量が含まれているにすぎない。第Ⅰ群土器にくらべて、焼成後の仕上がりは極めて良好で堅い。第Ⅲ群と異なる点は、隆帯が貼り付けられていることで、他は第Ⅲ群と大差ない。貼り付けられた隆帯は、第Ⅱ群の隆帯とは異り、薄く押しつぶされたような隆帯である。第Ⅱ群のものは押しつぶされた状態のものではなく、断面が比較的ととのっているものである。この第Ⅳ群土器の隆帶上には、貼り付けられた器面とともに、貝殻あるいは櫛齒状の器具、更には半截竹管様のもので、引いたり、押し引いたりして、条痕様の施文がなされている。隆帶上に刻み目をつけたものもある。また口唇上には貝殻や櫛齒状の器具の腹縁や先端などを突き刺したり、引いたりした施文が見られる。これら、器表面と口唇上の施文とは同一の器具によってなされているものが多い。尚、隆帶上に何ら施文されないものも

便宜的にこの第Ⅳ群に含めた。第Ⅳ群土器は、器形は深鉢形であると考えられるが、底部の形態は丸底になるものであろうか。(増子 1977)カゴ田遺跡からははっきりした底部破片が2個体分出土しているが、いわゆる乳房状の尖底に近いものである。この2個体の底部は、諸々の点から第Ⅲ群及び第Ⅴ群土器のものと考えられる。

図版のイ-4009, の隆帯は丁寧に貼り付けており、断面が三角形となっている。また、3382, イ-1417, 5271 には口唇上からの垂下隆帯が見られる。

第Ⅴ群土器 (第56図)

施文のされていない破片を一括して第Ⅴ群とした。中厚手のものが多い。胎土中に纖維を多く含んだものは第Ⅰ群土器と関係がありそうである。纖維の含まれている量などにも2通りのものがあるので、あるいは、第Ⅰ群と第Ⅲ、Ⅳ群の無文部分にあたるものも含まれている可能性がある。表面の整形の丁寧なものもあり、また一方、いわゆる補修孔の穿たれているものも多い。内面には条痕は見当たらない。

以上第Ⅰ群～第Ⅴ群に大別したが、整理期間など、遺物に対する検討が極めて限られた中の記述であったため、分類は極めて不十分なものである。以上の各群の土器の広範囲の検討は、考察、所見として後述することにしたい。

第2節 石 器

第1節の土器の編年よりみて、当遺跡は縄文時代早期末の単独遺跡と考えられ、出土した石器についても同時期に使用された純粹な資料といえる。

石器の出土状況については、別図2の石器分布図を参照されたい。別図2については、石器の他に石片等も含まれているが、明らかに密度の濃い部分と薄い部分がみられる。P228・P114・P180・P316・P248等の大形ピットからは出土量が非常に多く、他の遺構からは平均して出土している。

石器の種類としては、石錐、石匙、スクレーパー、石錐、打製石斧、横刃形石器、礫器、凹石、棒状礫器、特殊磨石、磨石、磨製石斧、小礫、石皿、块状耳飾り(イヤリング)、首飾り(ネックレス)、垂飾り(ペンダント)等が出土した。

石錐（図版第38～41） 今回の調査で205個の石錐が検出された。その内完全なものが92個欠損しているものが66個、破片47個である。石質は黒耀石、チャート、硬砂岩がみられる。黒耀石とチャートとの割合はほぼ同じくらいであり、硬砂岩は少ない。形状については図版に示した通りほぼ9種類に大別される。

石匙（図版第42）スクレーパーの内、つまみの付いたものを石匙とした。12個が検出され、その内完全なものは8個である。石質はチャートが最も多く頁岩、硬砂岩各1個づつみられる。黒耀石製のものは検出されなかった。形状は縦型のものに比べ横型のものが僅かに多い。スクレーパー（図版第42～44）合計89個検出された。この内大形のものは11個であり、他は比較的小形のものである。完形のものは66個で石質はチャート製が多く、他は黒耀石、頁岩、硬砂岩等である。

石錐（図版第44） 6個検出された。つまみの付くもの、付かないものに大別される。石質は黒耀石、チャート、硬砂岩製である。他の遺物に比べ出土量は少なかった。

打製石斧（図版第44） 18個検出された。この内完全なものは5個で他は欠損している。石質は硬砂岩が多く、他に緑泥岩等がみられる。形状等は縄文時代中期に出土する打製石斧と何ら変わることろがない。

横刃形石器（図版第45） 19個が検出された。硬砂岩の自然石の一部を打ち欠いたものである。20cmの大型のものから5cmほどの小形のものまでみられる。剥片の一部に明らかに刃を付けたものがみられる。

鑿器（図版第45） 11個が検出された。当遺跡の特徴ある石器である。比較的扁平な自然石の一辺をのぞき他辺を両側より打ち欠き刃部をつけた石器である。

凹石（図版第46） 2個検出された。いずれも花崗岩である。P 328 出土のものはほぼ中央部に5mmほどの深さの凹がみられる。イ-239は2個所に凹がみられる。

棒状石器（図版第46） 21個検出された。棒状の両端部を磨いたり敲打した痕跡はみられない。石質は硬砂岩、緑泥岩である。

特殊磨石（図版第46） 押型文土器に伴なう特殊磨石に近いものである。硬砂岩、花崗岩等の自然礫の一部に研磨、敲打した痕跡がみられる。7個検出され大部分が破損している。

磨石（図版第47） 80個検出され、完形品は27個である。硬砂岩、花崗岩等の比較的扁平な石の両面を磨いたものである。

磨製石斧（図版第48） 7個検出された。完形品は1個であり、他は刃部の欠損しているも

の4個、基部の欠損しているもの2個である。比較的小形のものが多く、形状もまばらである。基部の面をきちんと取ったもの（定角）は少ない。石質は碌泥岩、蛇紋岩等である。

小環（図版第48） 合計342個検出された。直径5cm～15cmの円形の自然石である。遺跡全体より出土しており、加工・使用痕はみられない。

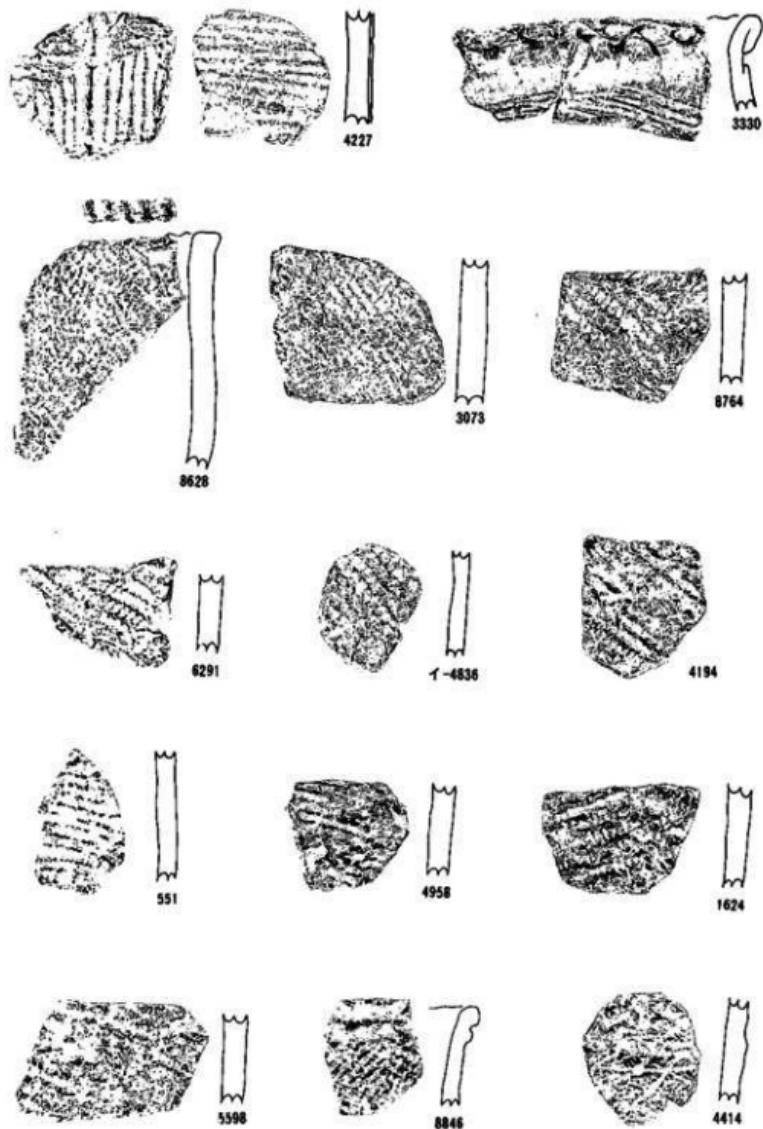
石皿（第60図） 18個検出された。大部分欠損している。平坦な花崗岩の一部にすった痕跡がみられる。縄文時代中期等に多く出土する凹のあるものは検出されなかった。

珠状耳飾り（口絵） 今回の調査で完全なものが2個、ほぼ完形に近いもの2個、破片2個が出土地した。形状は、円形あるいは隅丸方形で大形のものと小形のものに分けられる。断面は円形あるいは扁平に近い梢円形で断面円形のものは円形の形状のものに多く、断面扁平のものは隅丸方形の形状のものに多い。中に補修孔のみられるものもある。石質は大部分滑石製である。

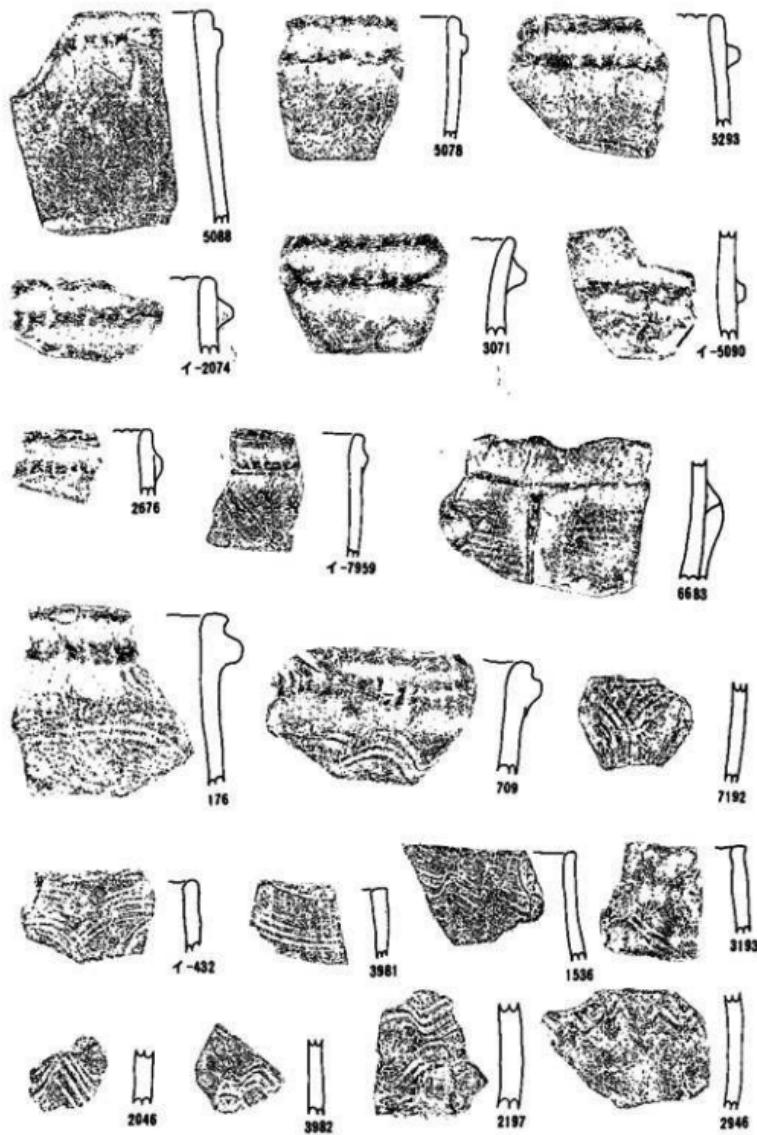
首飾り（口絵） 今回の調査でP 283より1個検出された。半分に壊れしており、補修孔がみられる。

垂飾り（口絵） 調査地区外東側よりの出土である。石質は滑石製。

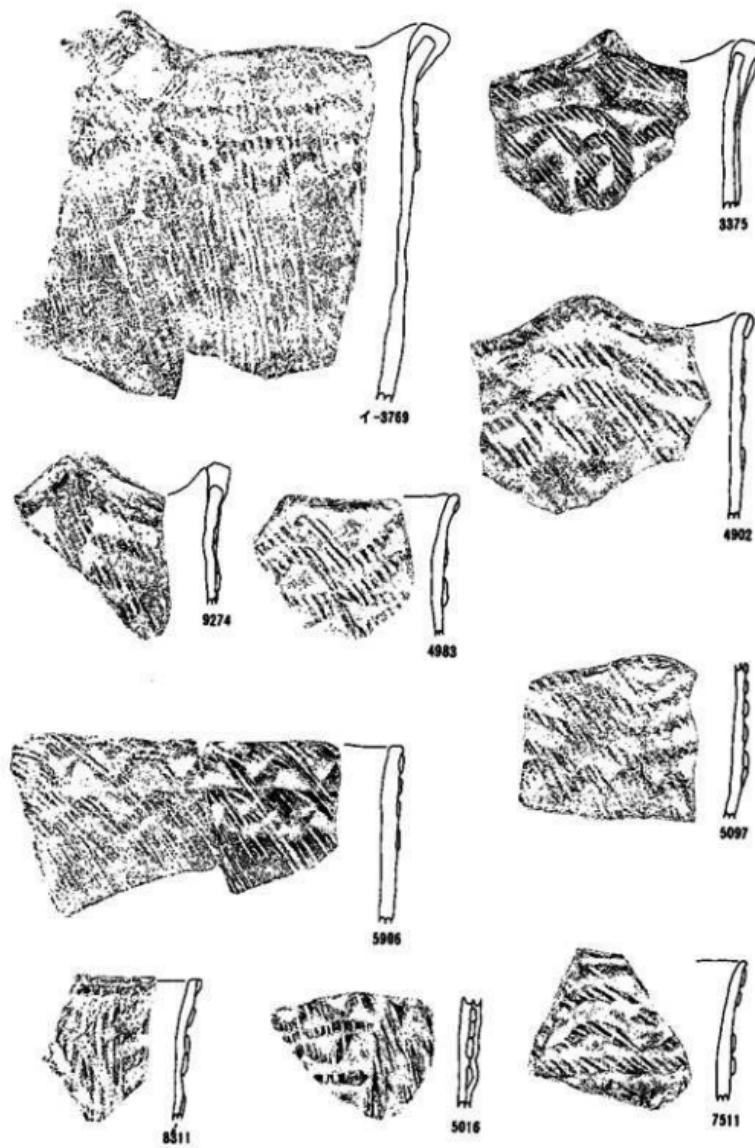
この他黒耀石片、チャート片が多数出土したが、剥片の一部を加工し石器として使用しているものは少なかった。



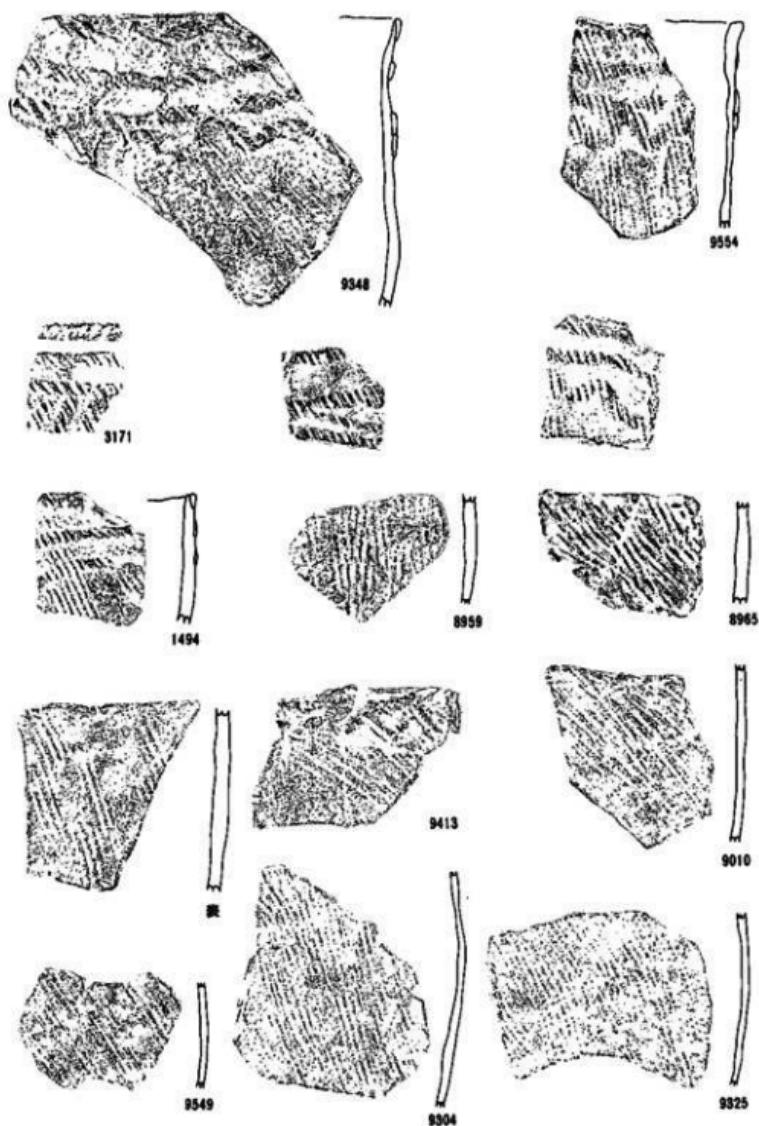
第49图 土器拓影 (1 : 2)



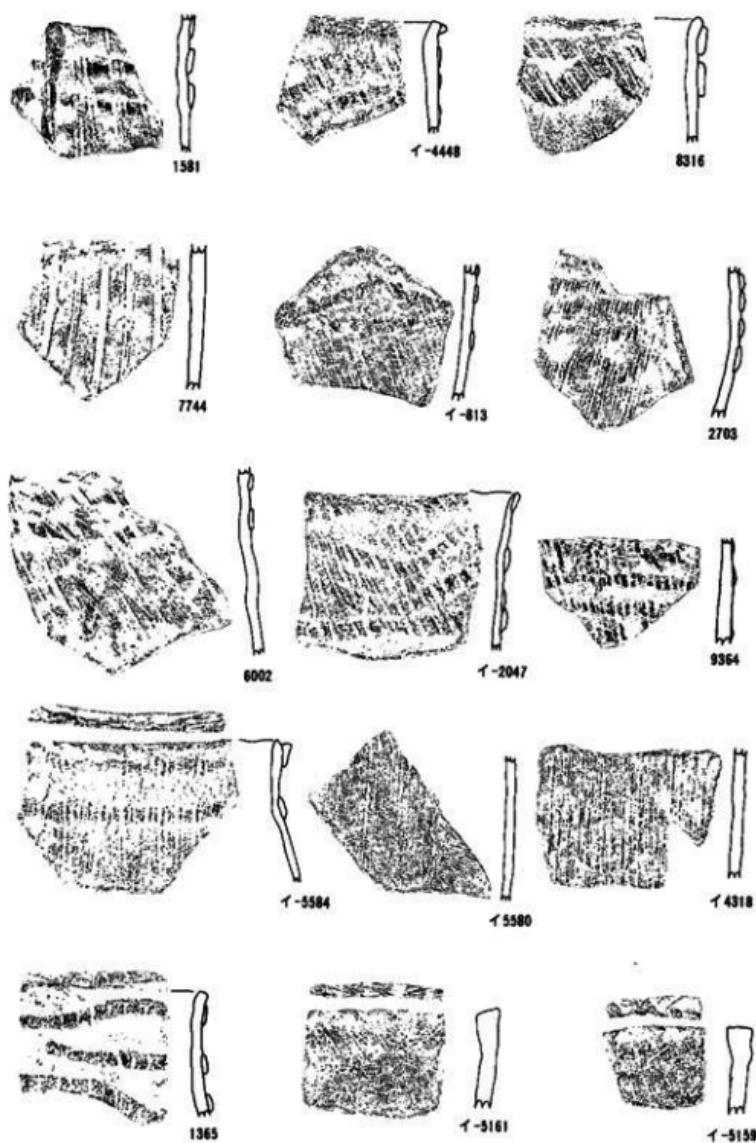
第50図 土器拓影 (1 : 2)



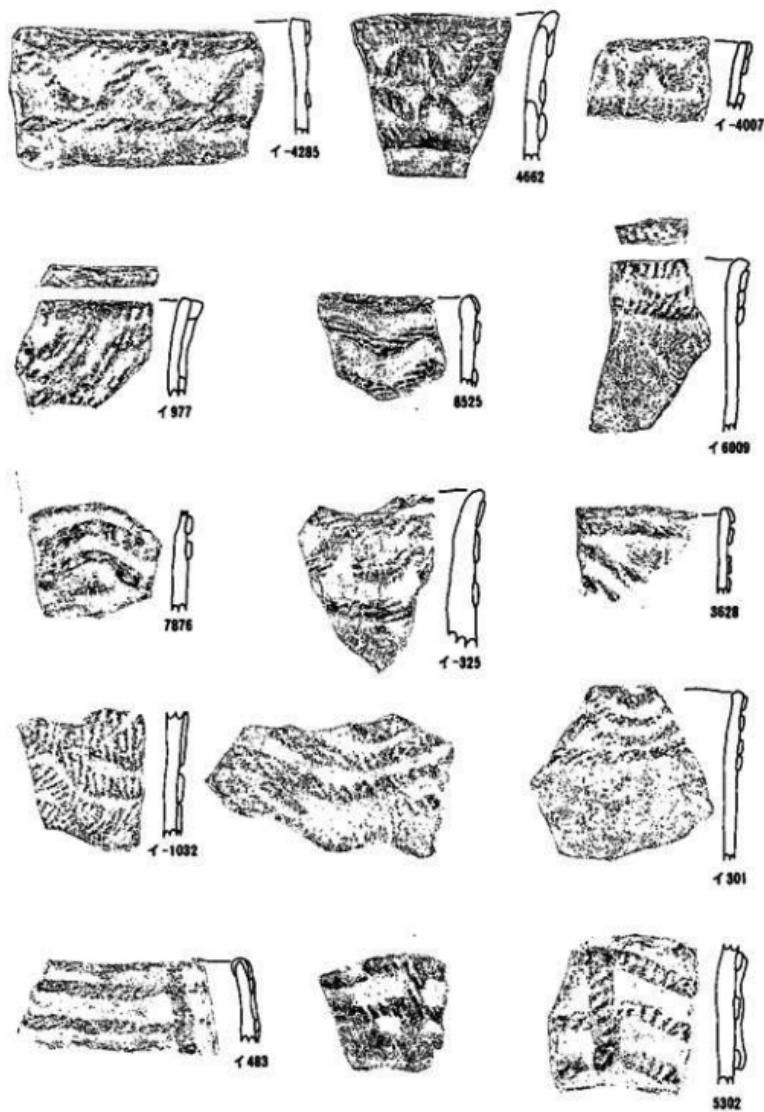
第51図 土器拓影 (1 : 2)



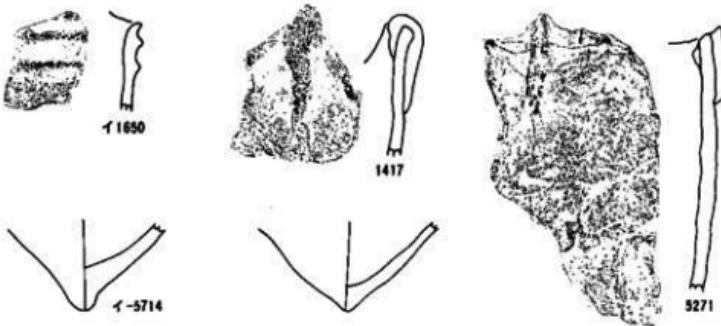
第52図 土器拓影 (1 : 2)



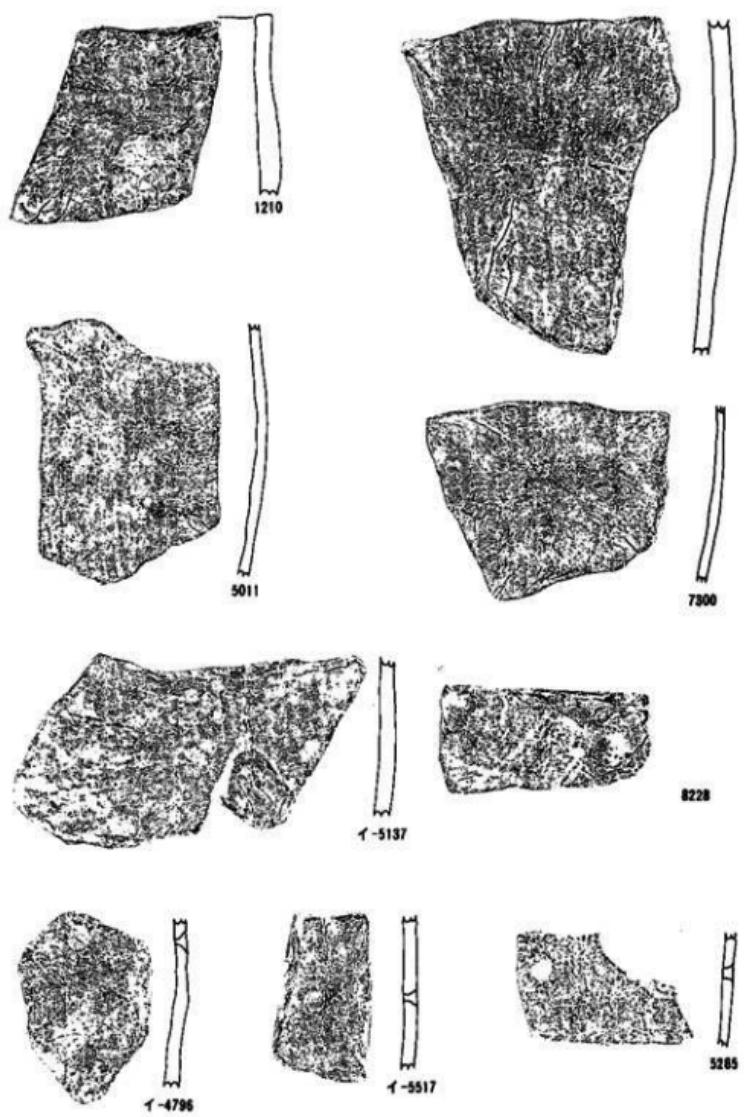
第53図 土器拓影 (1 : 2)



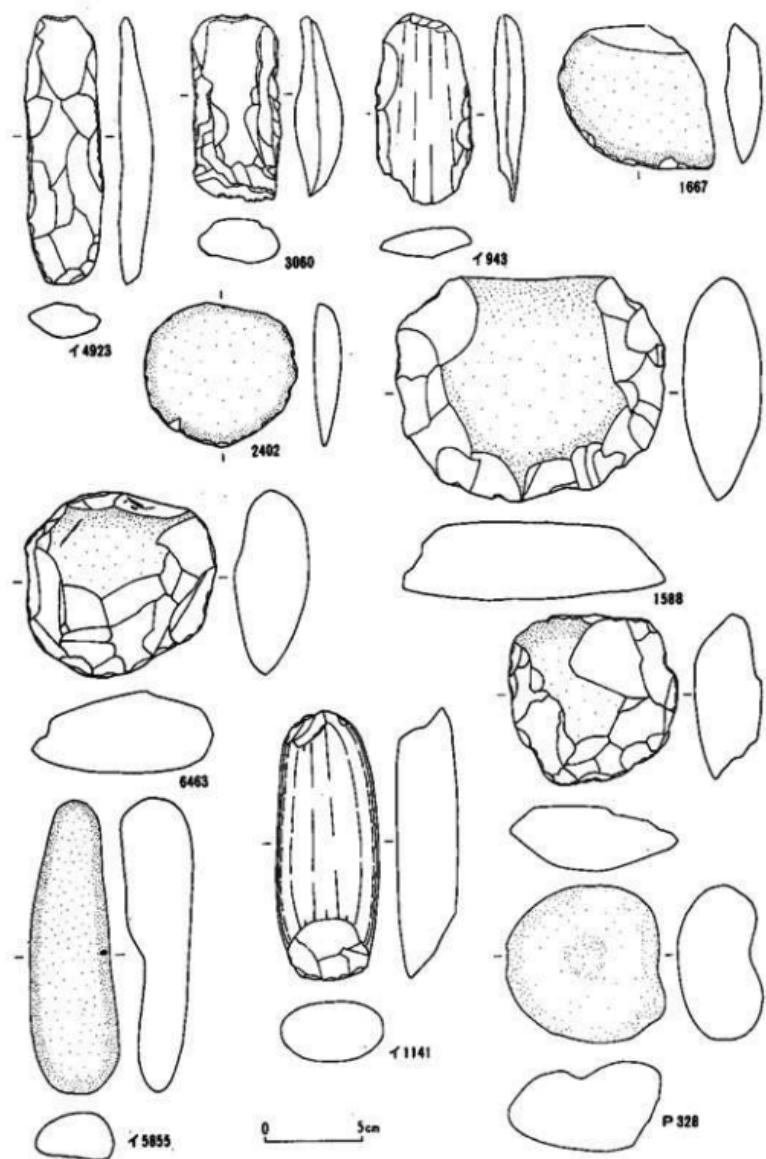
第54図 土器拓影 (1 : 2)



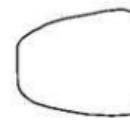
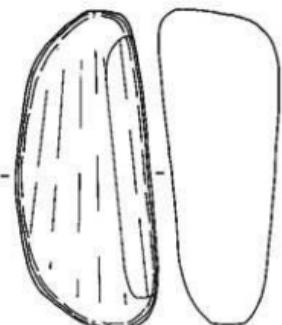
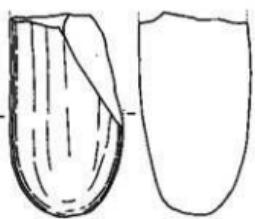
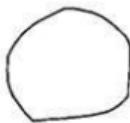
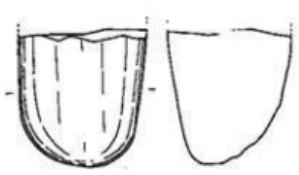
第55図 土器拓影 (1 : 2)



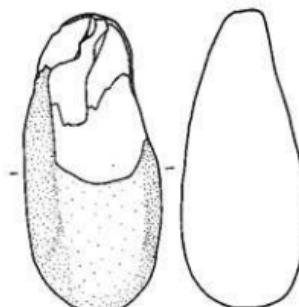
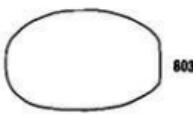
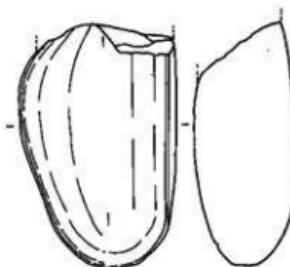
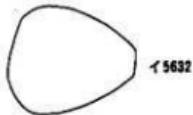
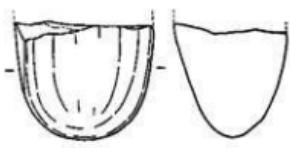
第56図 土器拓影 (1 : 2)



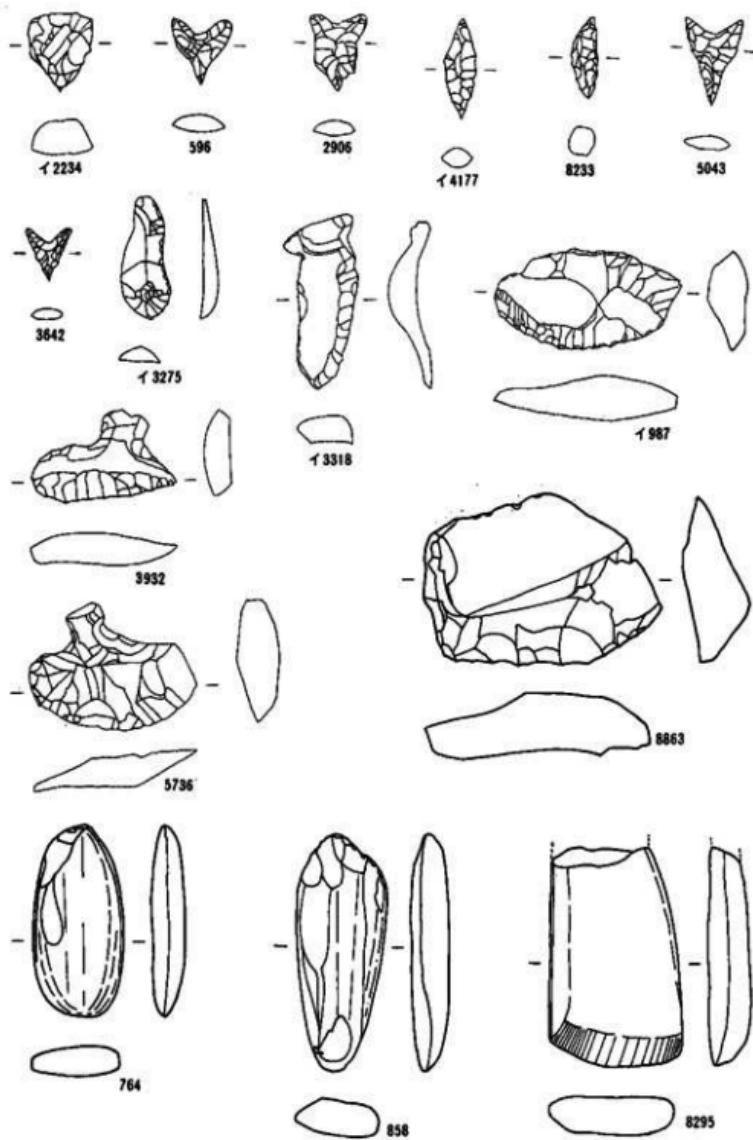
第57図 石器実測図 (1 : 3)



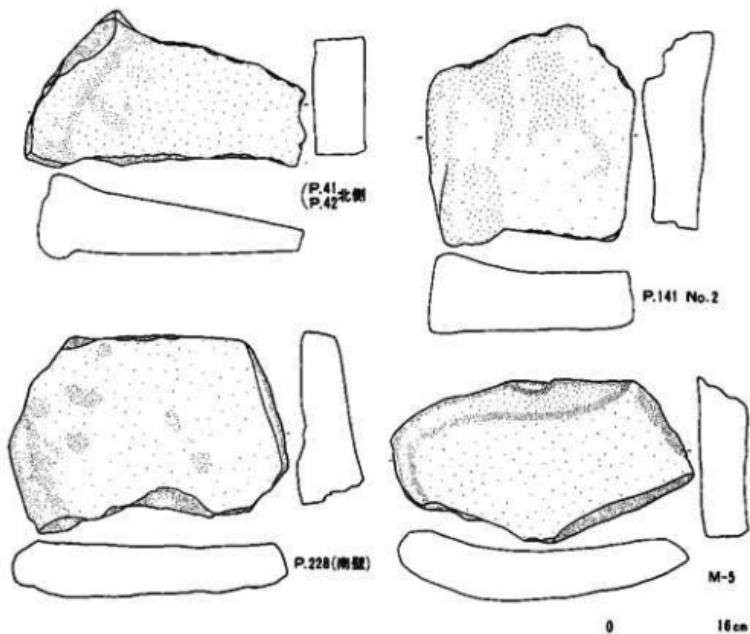
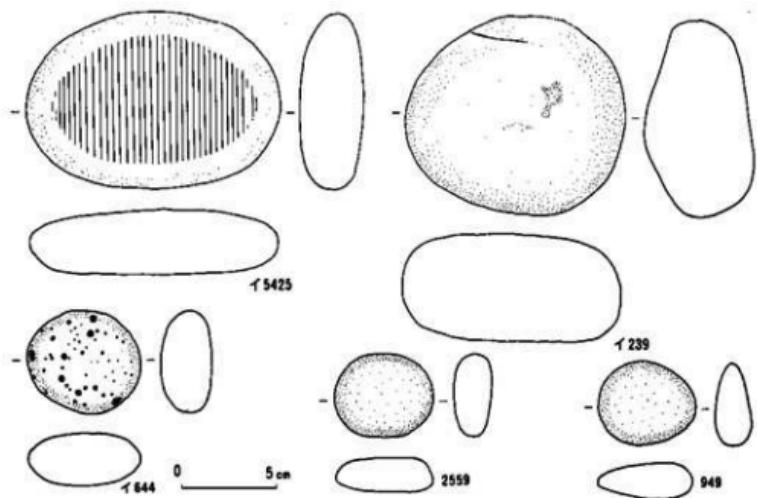
0 5cm



第58圖 石器實測圖 (1 : 3)



第59圖 石器實測圖 (1 : 2)



第60図 石器复原图 (1 : 3, 1 : 8)

第V章 所 見

カゴ田遺跡は、長野県上伊那郡飯島町七久保柏木地籍に所在する。遺跡地は木曾山脈より流れ出る与田切川の形成した扇状地の小舌状台地に占地する。

本報告書は、緊急発掘調査によるものであるため、昭和52年度中に總ての業務を終了する義務を負わされている。しかし、本調査により得た莫大な資料を十分な形で報告するまでには至らなかったので、後日遺物台帳及び、遺物原位置番号図等を補足資料として編集するよう準備を進めている。

調査の方法について。本遺跡は縄文時代早期末の遺跡であること、それに全く全面発掘可能な遺跡であるところにより、発掘調査団の再三の検討の結果、遺物はドットマップにより記録する方法をとった。また、調査の進行上、調査地区を1~22地区に区分して調査を実施した。

遺構について。落ち込みは總てピットとして統一した。従って第Ⅲ章遺構の項、ピット一覧表でP 114, 228, 316は住居址と記し特別項を改めなかったので、ここで述べることとする。

住居址P 114は、平面形Aタイプ $3.0\text{ m} \times 3.4\text{ m}$ 、断面形Dタイプ深さ28cm。柱穴は床面に認められなかったが、壁外の東西の穴は、原始切妻的な棟持柱の柱穴かも知れない。床面中央にある焼土は、地焼炉と考えられる。

遺物は縄文時代早期 中葉から多くなる礎器、ドリル、玦状耳飾り、それに土器片が多量に検出された。本住居址は出土遺物から縄文時代早期末に位置づけられる住居址と考えられる。

住居址P 228。本住居址は第4地区に発見された。本址は、P 231, 232, 324を切って作られた住居址である。

住居址の平面形は $4.1\text{ m} \times 4.1\text{ m}$ Aタイプ、断面は深さ64cm Cタイプ、床面はよく踏み固められた叩き床、壁に添って巾10~20cm、深さ7~10cmの周溝が設けられている。中央やや西寄りに凹みがあり床面がよく焼けているのは、地焼炉と考えられる。柱穴は、床面上から発見できなかった。住居址内からは石器8、磨石5、円形小礎8、スクレーパー、縄文時代早期末の土器片等が検出されている。

住居址P 316。第12地区に発見され、P 293を切り、P 208とP 319に切られた形の住居址である。住居址の平面形は、 $2.95\text{ m} \times 3.95\text{ m}$ Bタイプ。断面形はDタイプ、深さは21cmと浅い。炉址は地床炉。床面上の2ヶ所のピットは柱穴と考えられる。出土遺物はスクレーパー1、磨石2、円形小礎、縄文早期末の土器片等が検出された。このほか予備調査で同時期の住居址と思われるものが2軒発見されている。

カゴ田遺跡の集落。カゴ田の丘の中央に位置し東西に長い形で少なくとも数軒以上の住居址が存在したことは確かである。また、ピットを住居址が切ったり、切られたりしている状態は、一時期に数軒併存したのであるかどうか明らかでない。

遺物。第Ⅶ章の項で述べられている様に一片の縄文時代後期の土器片を除いては、縄文時代早期末に位置づけられるものである。第Ⅲ群土器は、中厚手で胎土中に纖維が含まれない土器で、横浜市神奈川区神之木台式と比定される土器である。

第Ⅳ群土器は器壁が薄く、焼成が良好な土器で、貝殻あるいは櫛齒状器具で施文されている。口縁部付近で波状をなす土器で天神山式土器に比定される土器と考えられる。

第Ⅴ群土器は、第Ⅵ群土器と同様薄手で胎土中に纖維を含むものは少量である土器群で、第Ⅲ群と異なるのは薄く押しつぶされた隆帯に貝殻あるいは櫛齒状器具又は、半割竹管の様なもので条痕の施文がなされている土器である。木島Ⅱ式といわれる土器と考えられる。

石器。当遺跡出土の石器は縄文時代早期末の石器といえるものである。

石鎚は今回の調査で合計 205 点の出土をみた。石鎚は形状によって 9 種類に大別される。そのうち注目されるのは五角形の石鎚である。木島遺跡でも認められているし、高遠町宮の原遺跡でも発見されている。縄文時代前期初頭の宮田村中越遺跡からも発見されているところより、縄文時代早期末より前期にかけての特徴であろうか。

礫器。本遺跡から特徴のある礫器 11 個が検出された。木島遺跡でもこの種の礫器が発見されている。また、高遠町宮の原遺跡でも検出された。縄文時代前期初頭の宮田村中越遺跡では、この種の石器が莫大な数出土しているところより、縄文時代早期から前期にかけての特筆すべきことかもしれない。

玦状耳飾り。当遺跡からは完形及び欠損品を合わせて 6 個検出された。いずれも滑石製である。これ等の耳飾りは木島遺跡からも検出されているし、高遠町宮の原遺跡からも検出された。また、宮田村中越遺跡からも出土していることから、縄文時代早期末より前期初頭にかけての特徴かもしれない。そのほか、首飾り 1 個、垂飾り 1 個が検出された。これ等の装身具は富山県極楽寺遺跡からも多量に検出されていることに注目したい。

本調査報告を終るにあたり、この調査について種々の御指導と御配慮を賜った、県教育委員会担当各位、江坂輝弥氏、町当局、飯島町教育委員会及び飯島町文化財調査委員の皆様に対し心から敬意を表するとともに報告書作成まで御協力をいただいた各位に対し厚く御礼を申し上げる次第である。

(調査団長 友野良一)



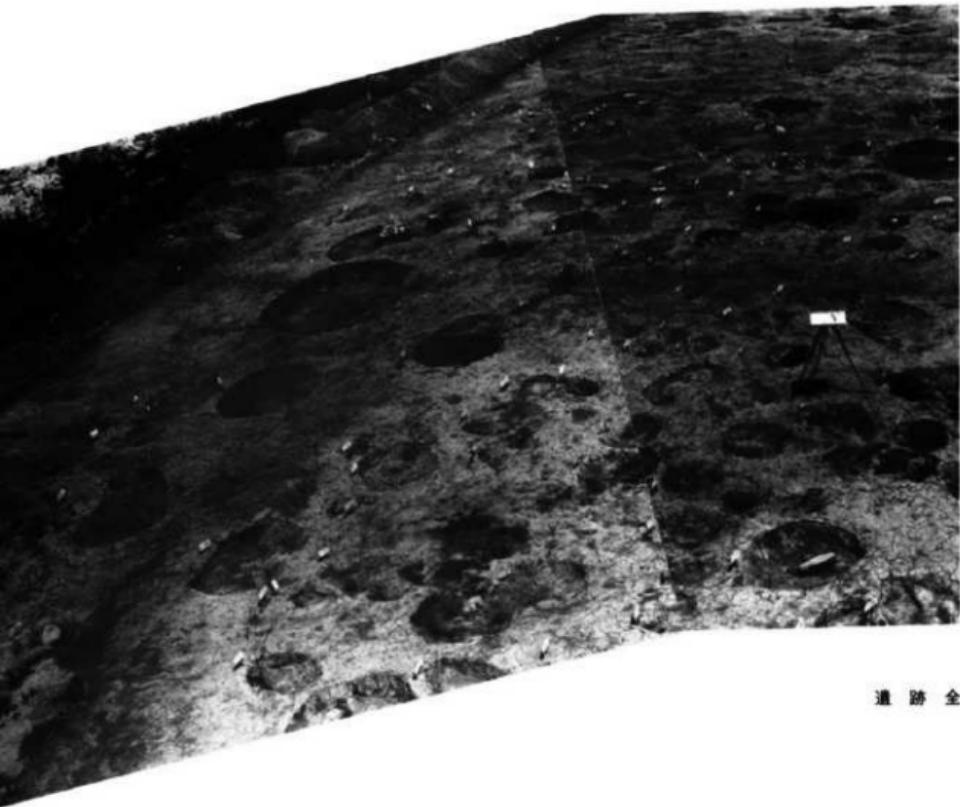
造跡遠望(西より)



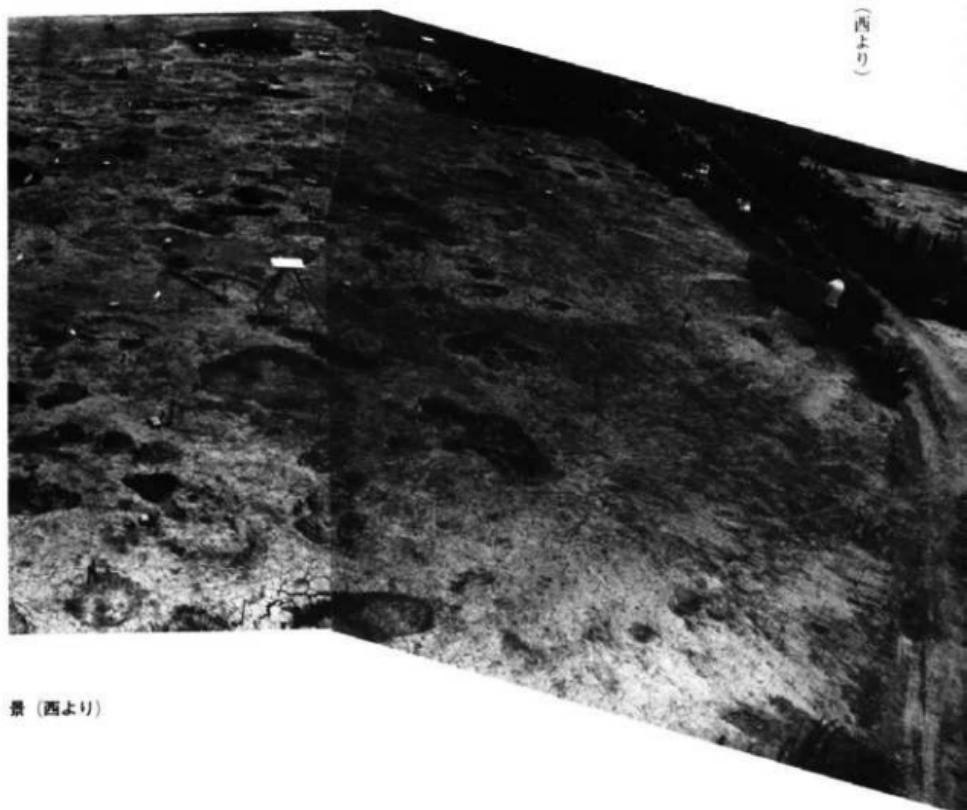
通路遠景(北より)



通路遠景(南より)



全 路 道

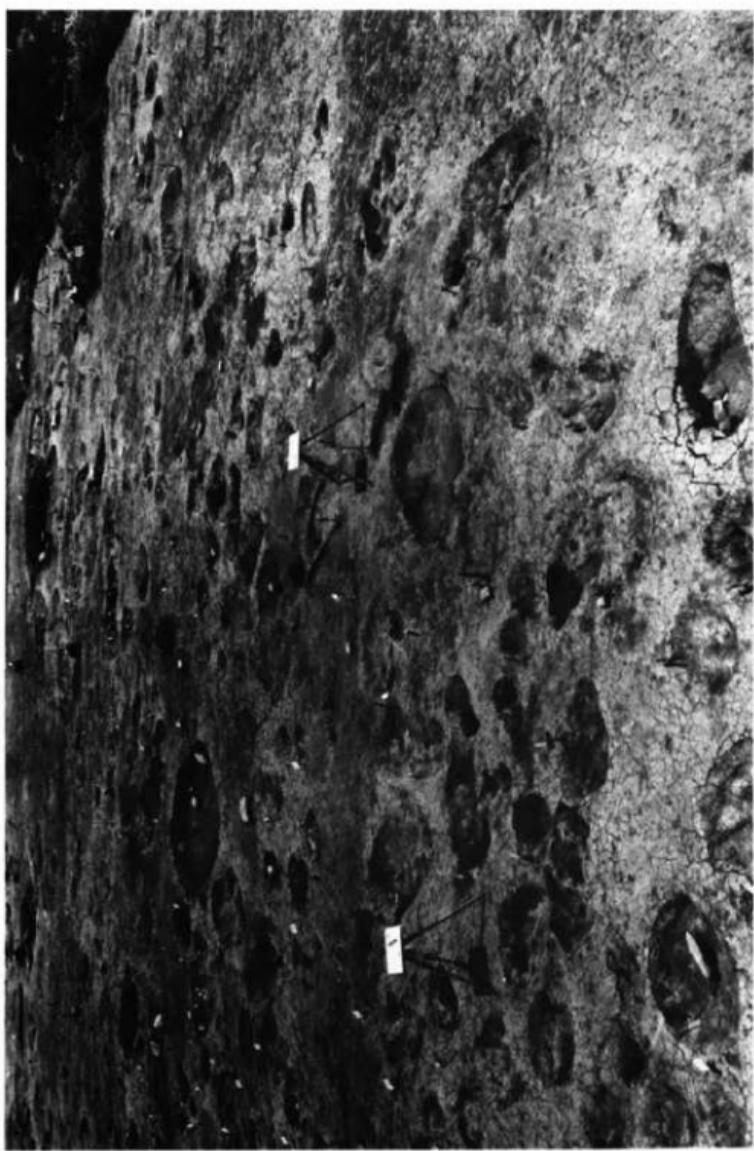


景（西より）

圖版第四 通肺部分（北部）



図版第五 進跡部分（中央・南部）



圖版第六 通路部分（南部・道路南）



圖版第七 遺跡部分（道路兩側）



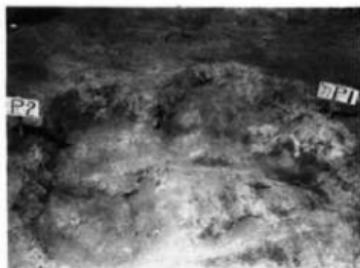


図版第九 ピア上二三八(二往)









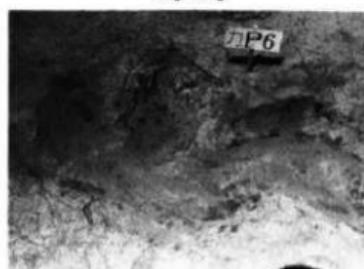
P1・P2



P3～P5



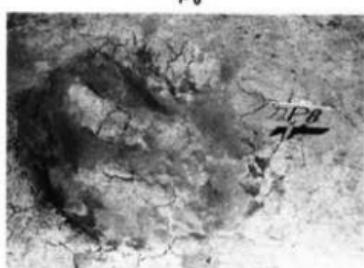
P4・P5



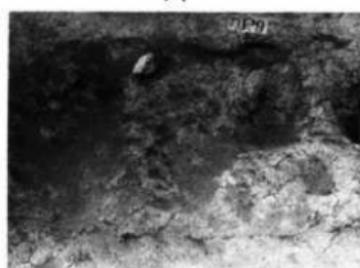
P6



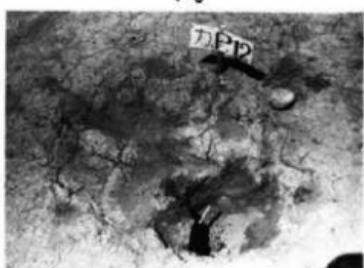
P7



P8



P9



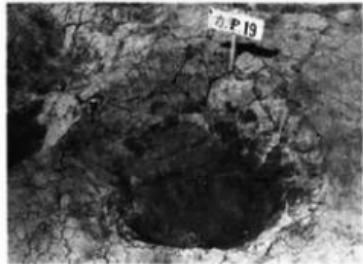
P12



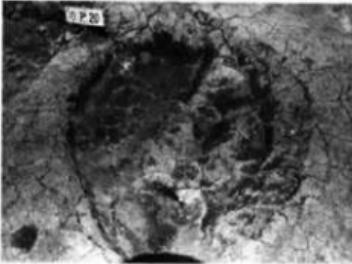
P17



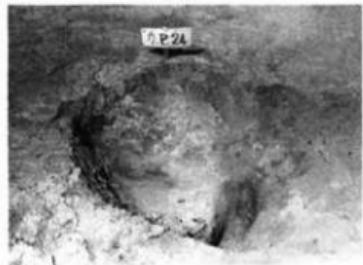
P18



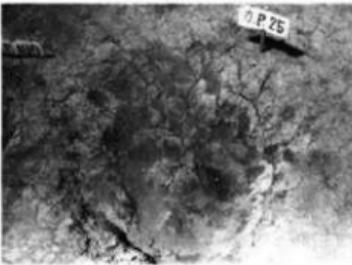
P19



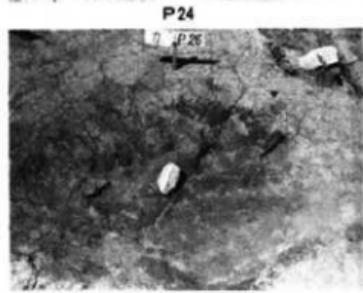
P20



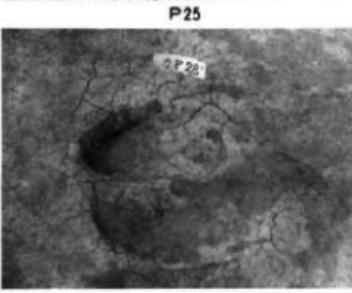
P24



P25



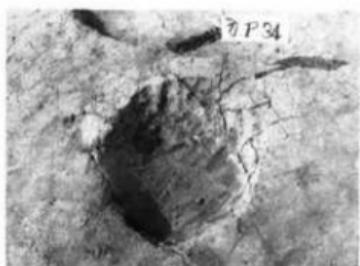
P26



P28



P33



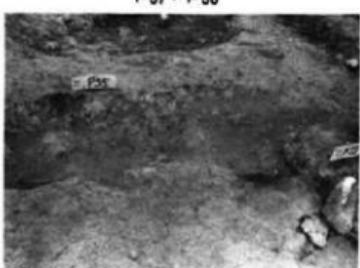
P34



P37 · P38



P39



P55



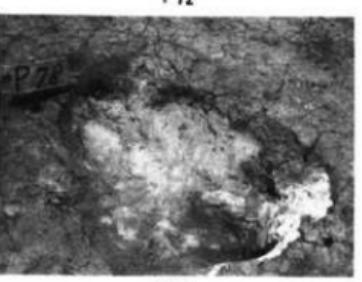
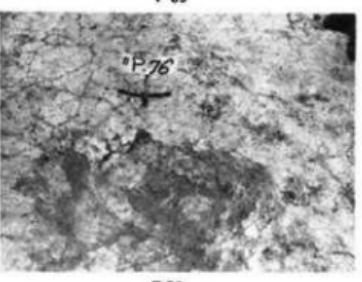
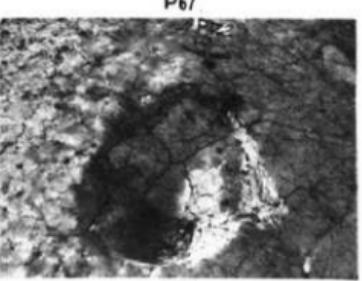
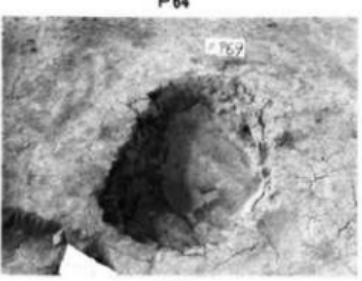
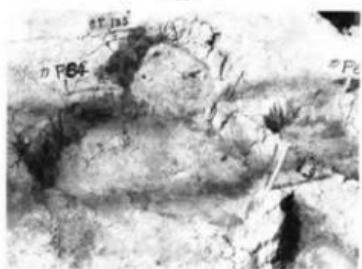
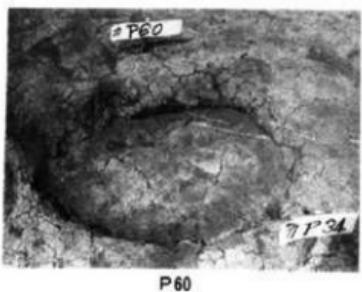
P56



P57

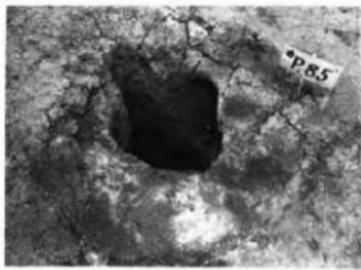


P59

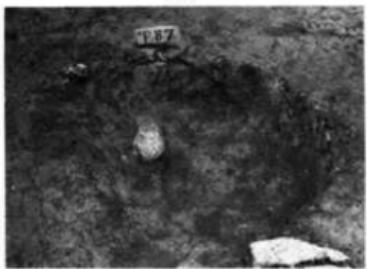




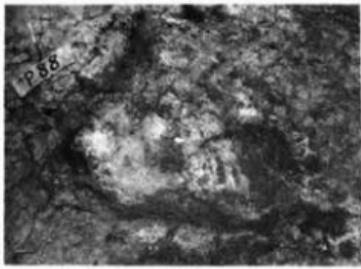
P84



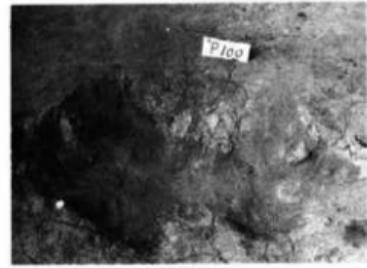
P85



P87



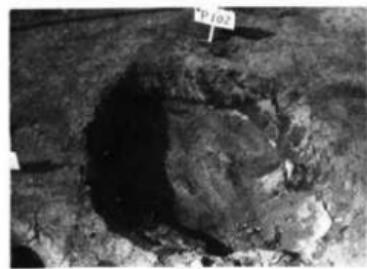
P88



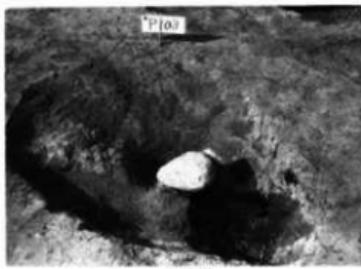
P100



P101



P102



P103



P104



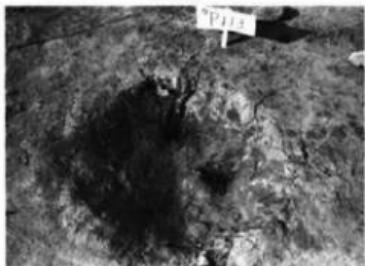
P105



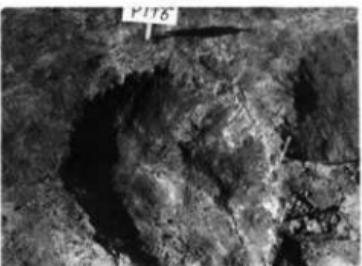
P109



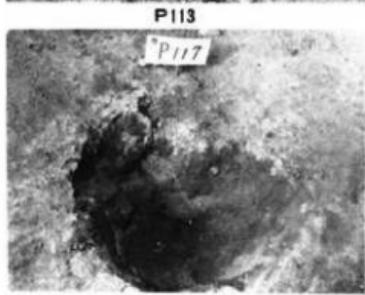
P110



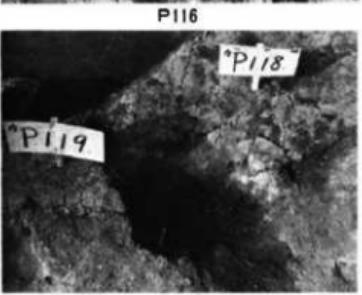
P112



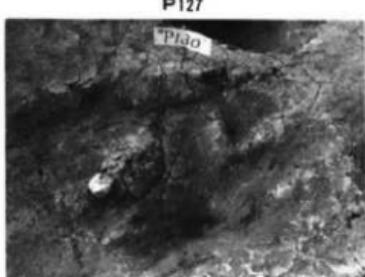
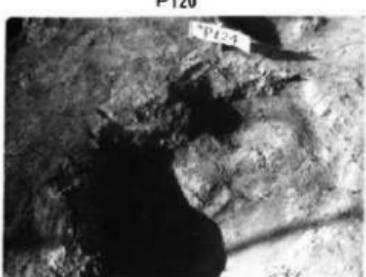
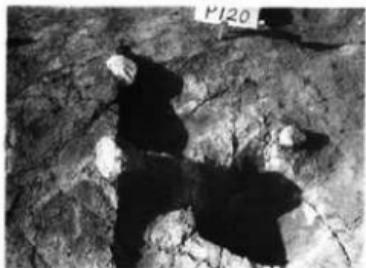
P116

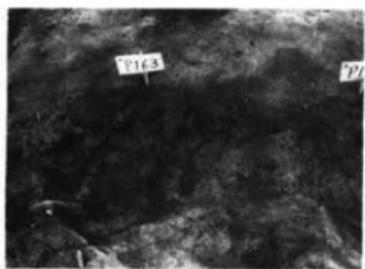


P117



P118 - P119





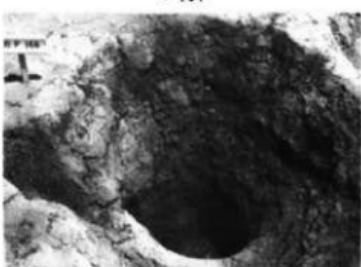
P163



P164



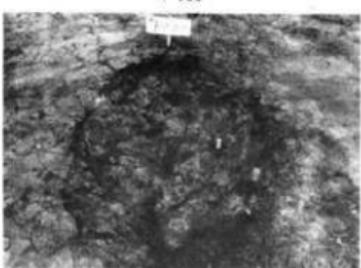
P165



P166



P167 - P168



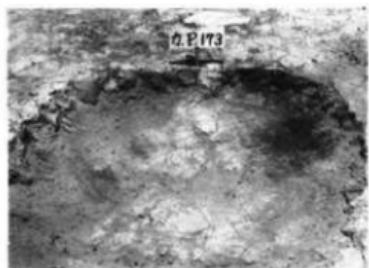
P170



P171



P172



P173



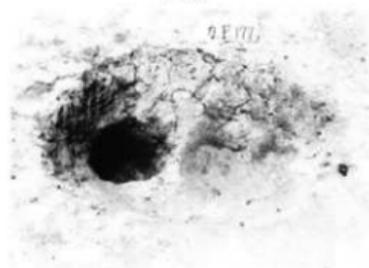
P174



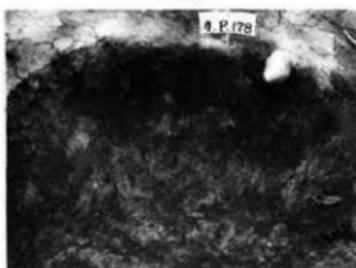
P175



P176



P177



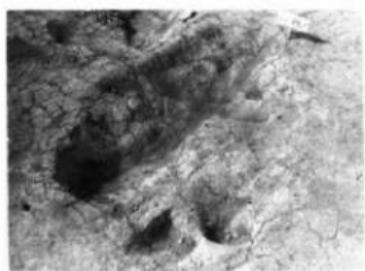
P178



P190



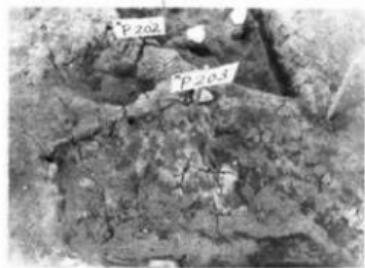
P191



P192



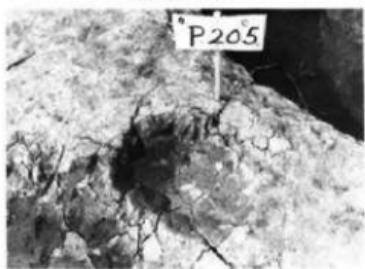
P194



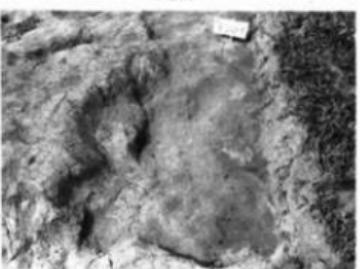
P202・P203



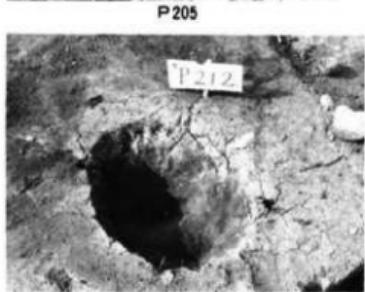
P204



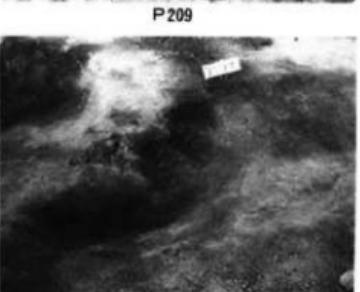
P205



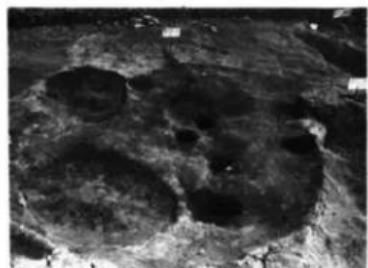
P209



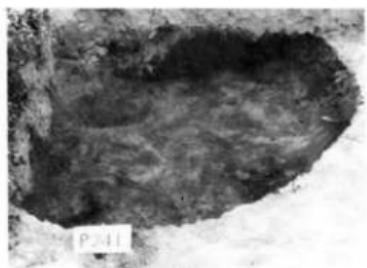
P212



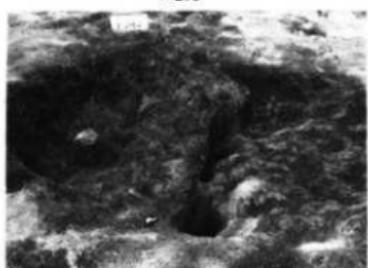
P214



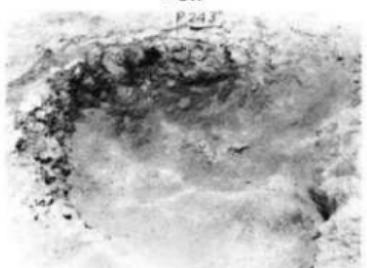
P215



P241



P242



P243



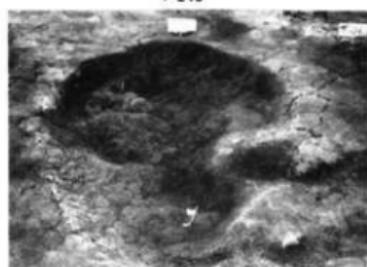
P245



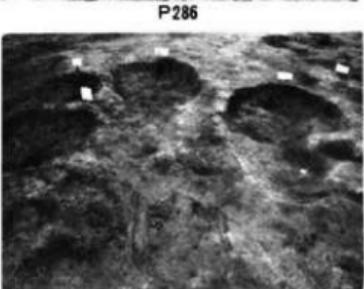
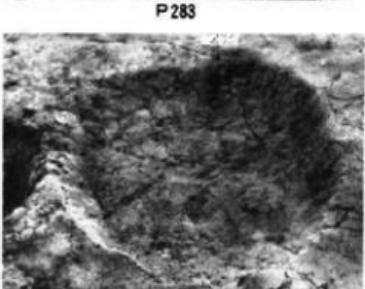
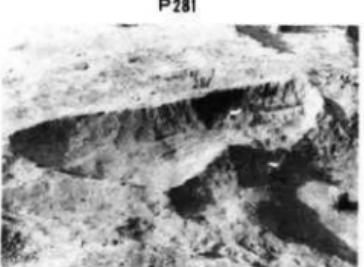
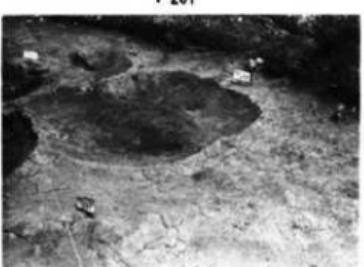
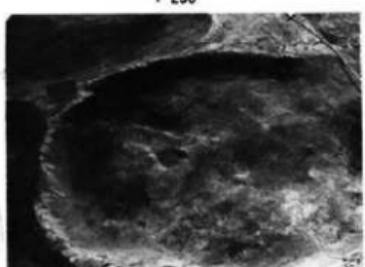
P248

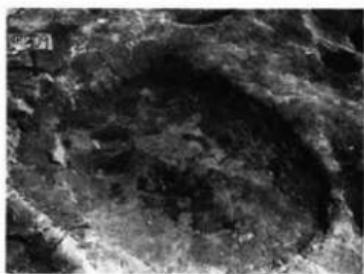


P249



P255





P309



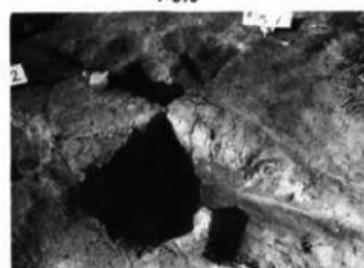
P311付近



P313



P319付近



M1



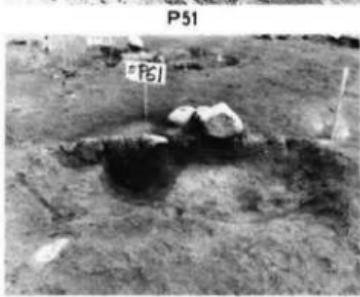
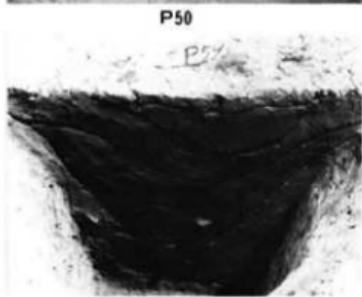
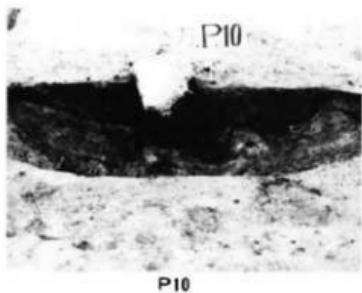
M5

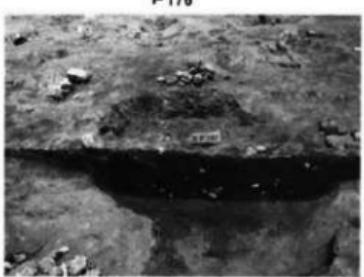
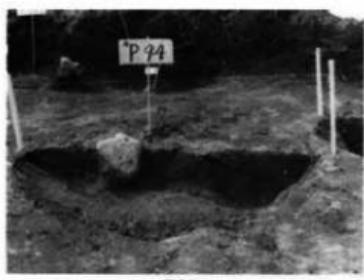


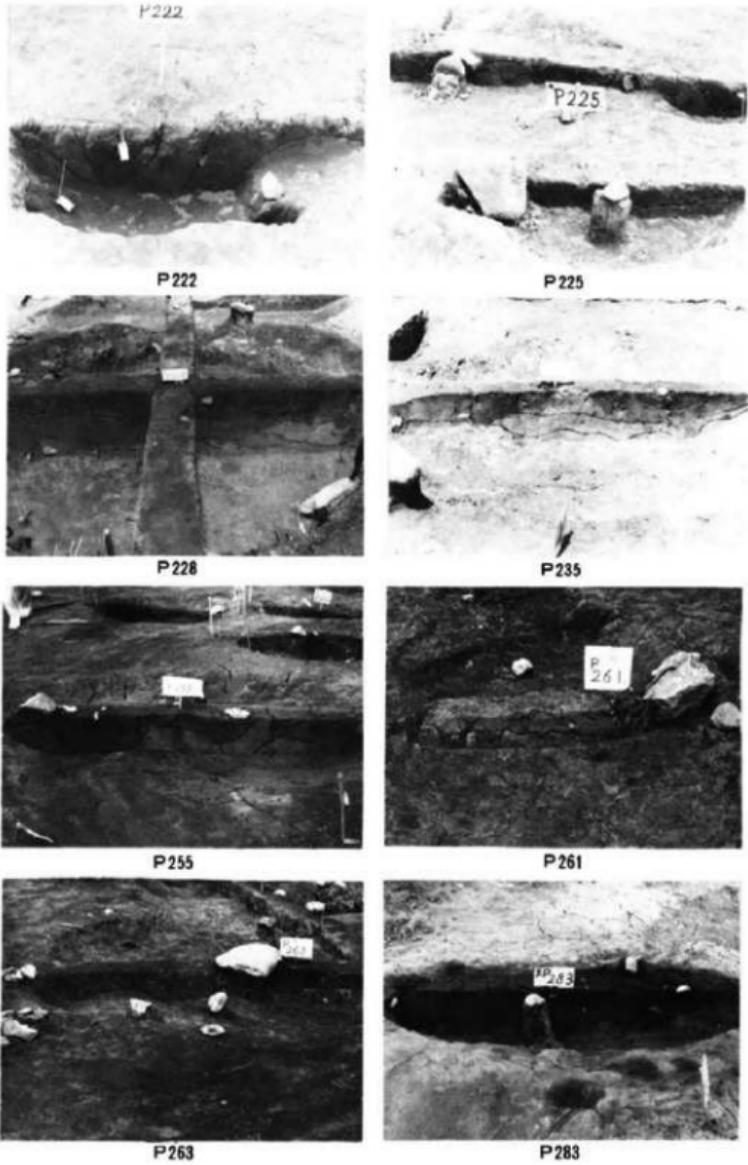
M6



M7

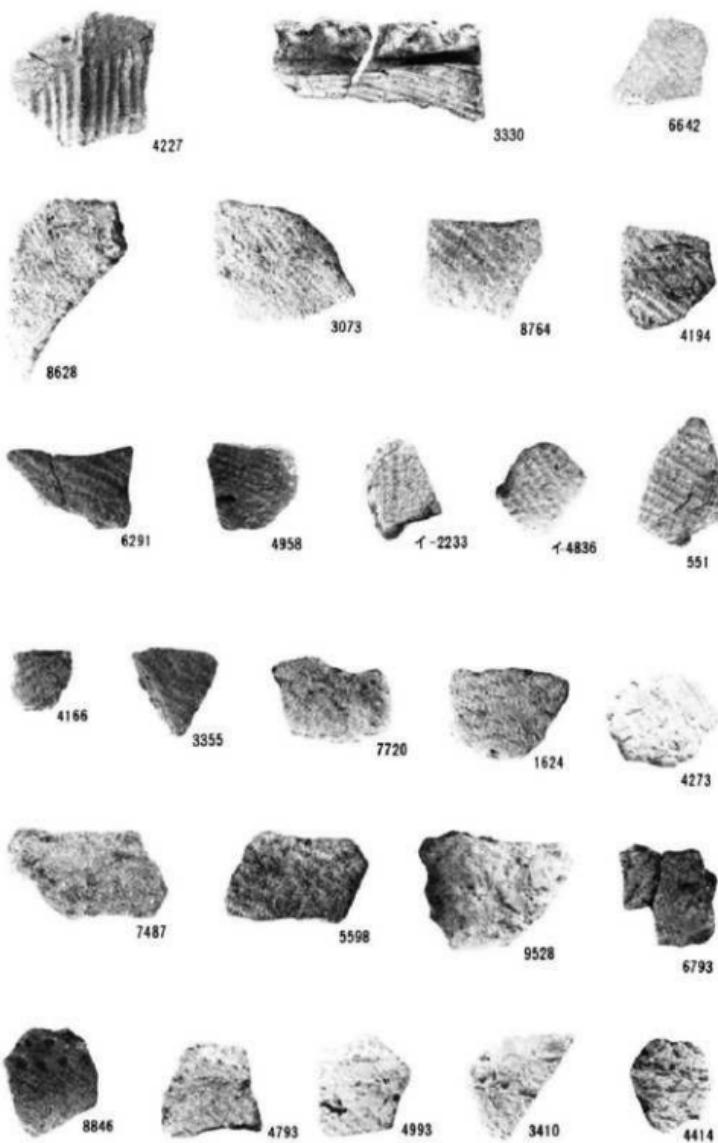


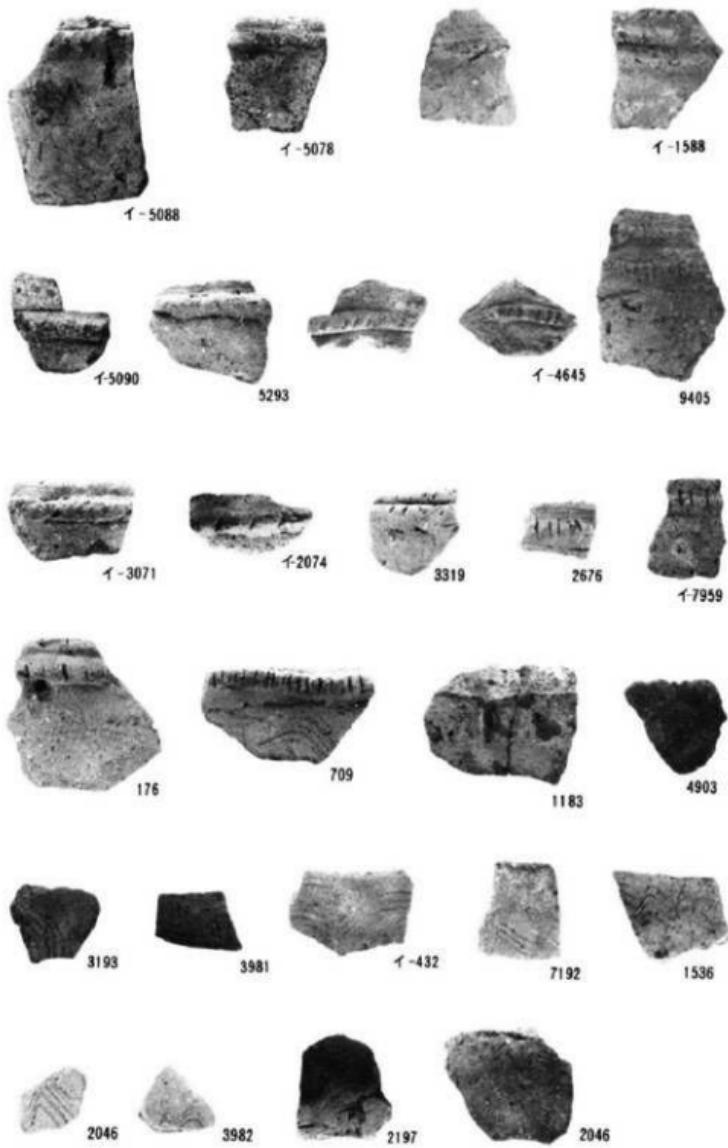


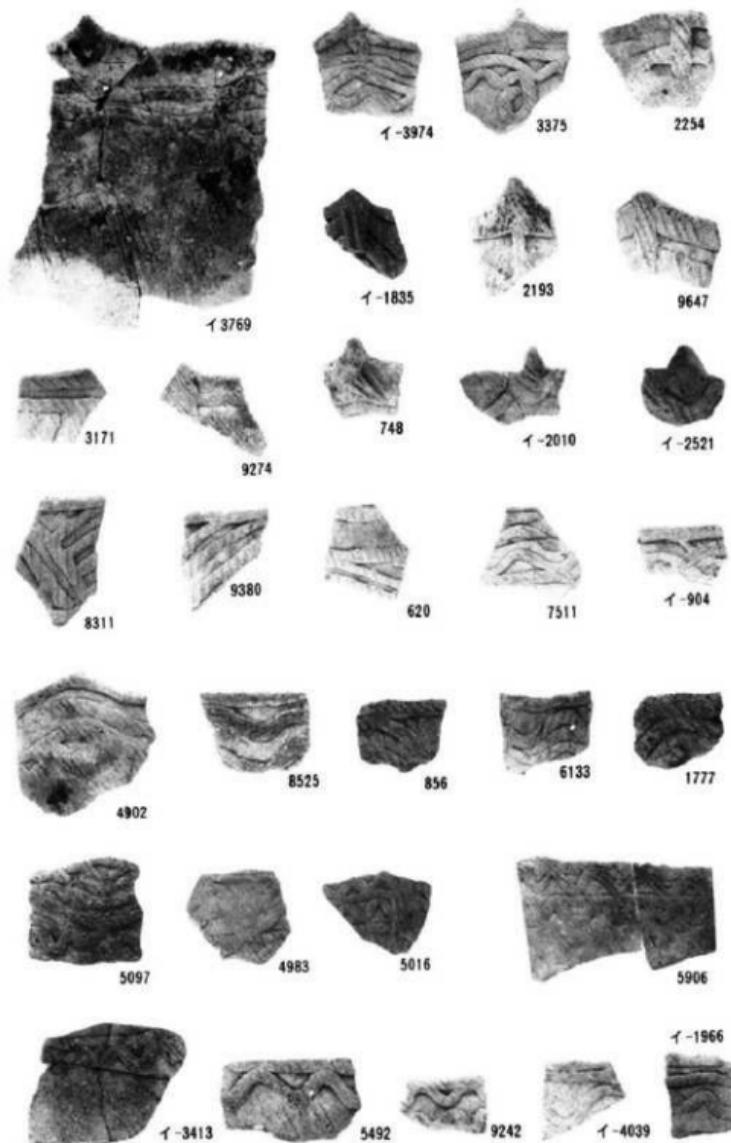


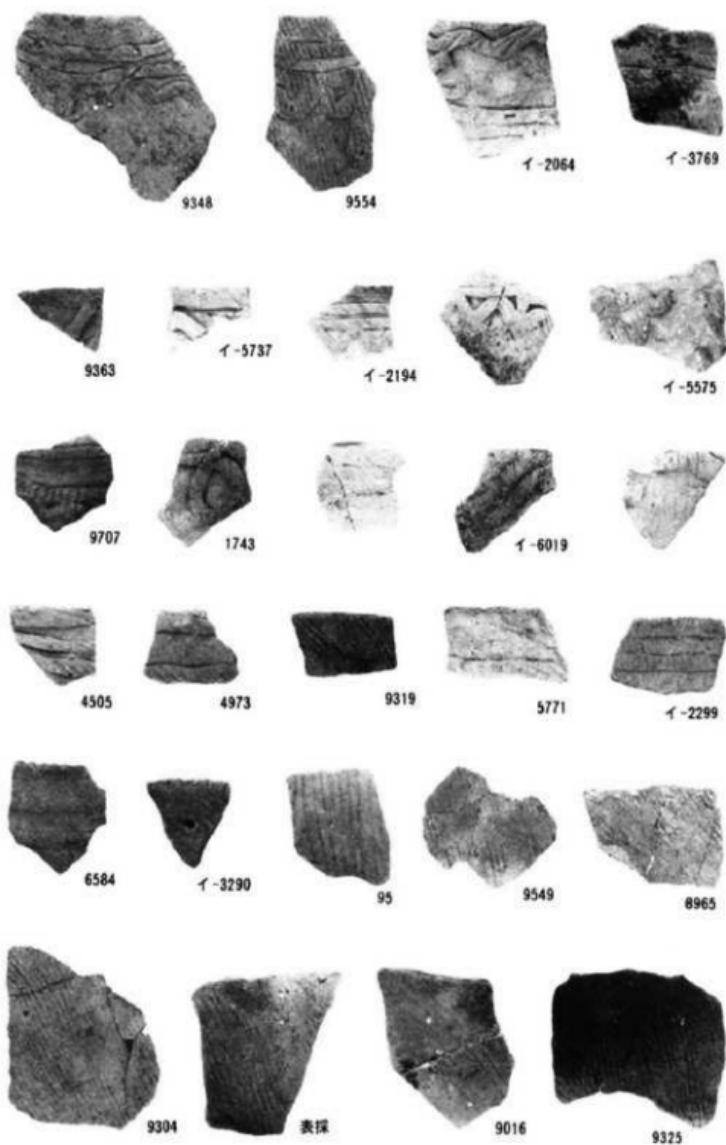


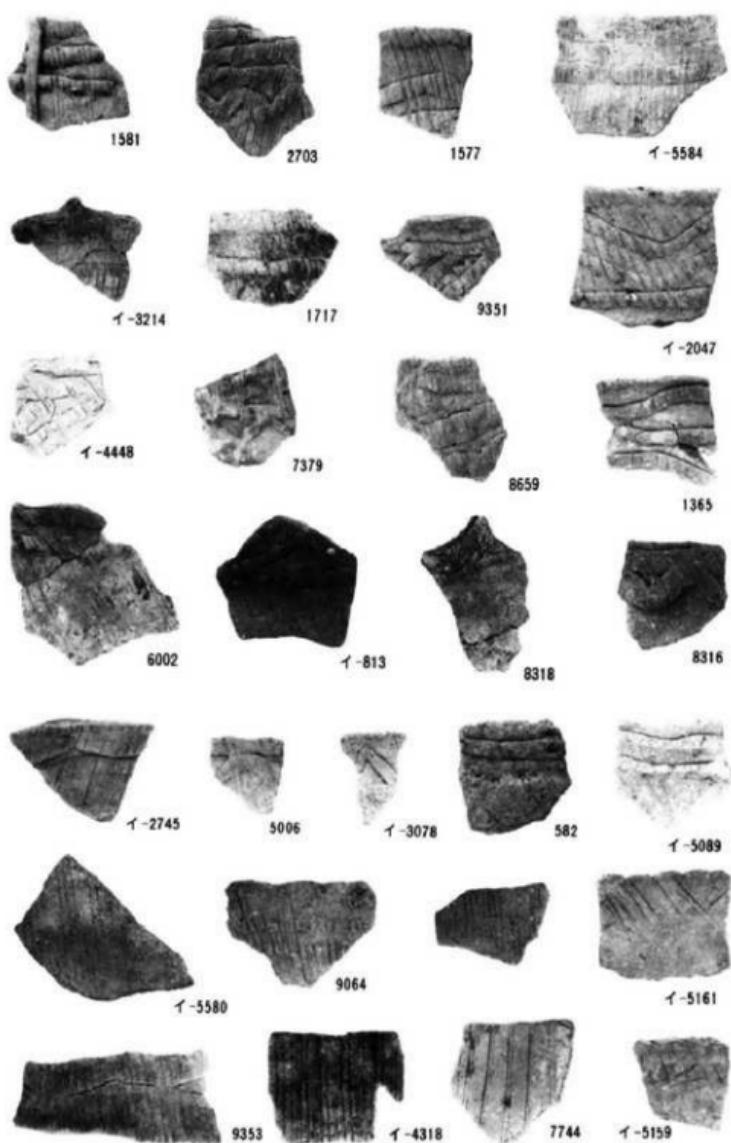


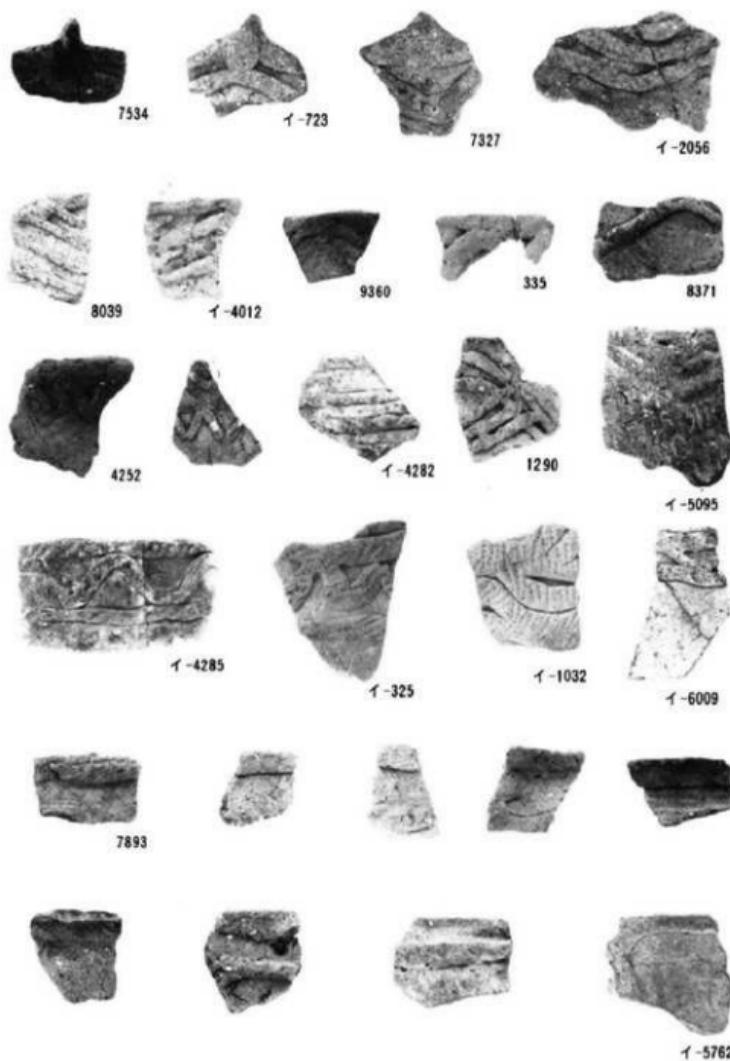


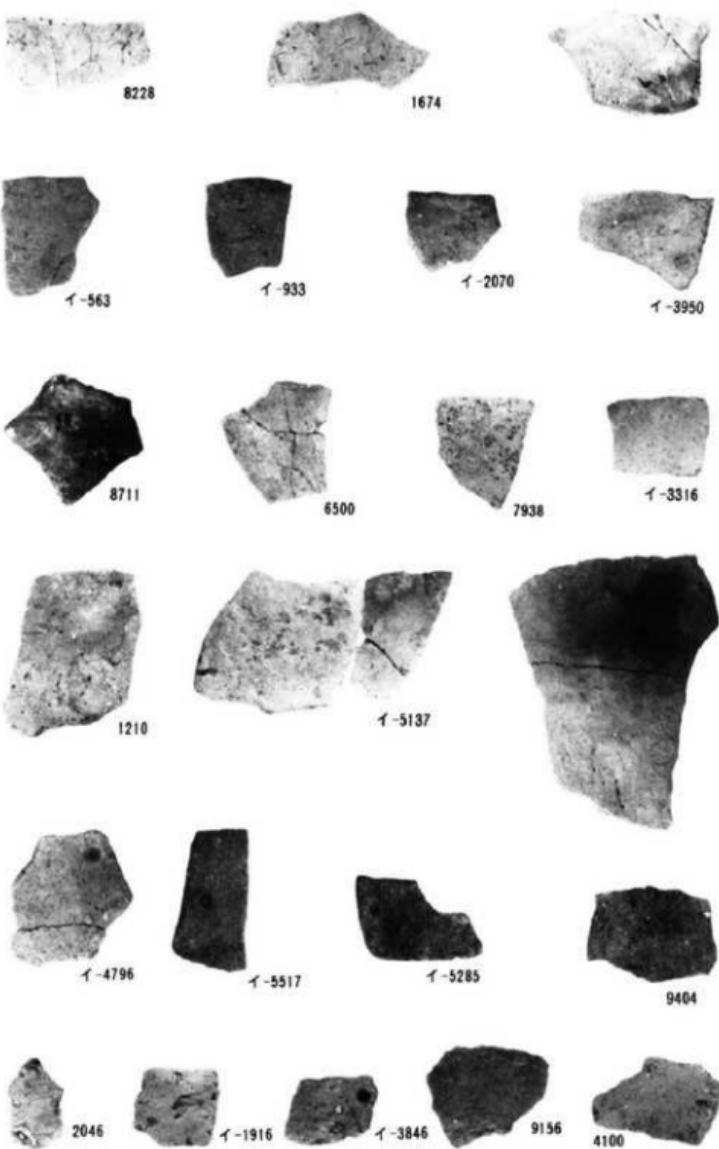


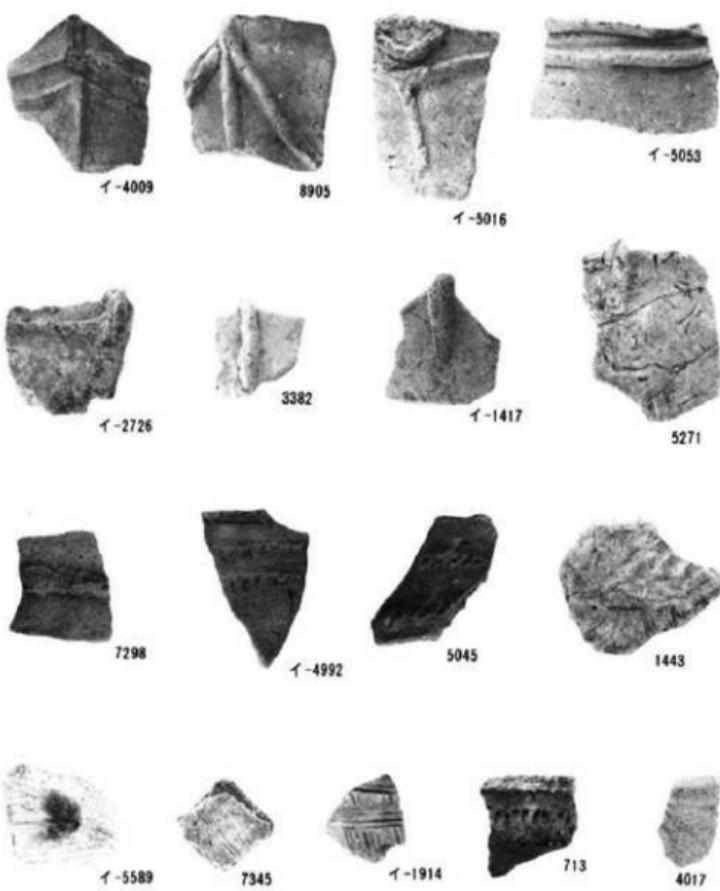


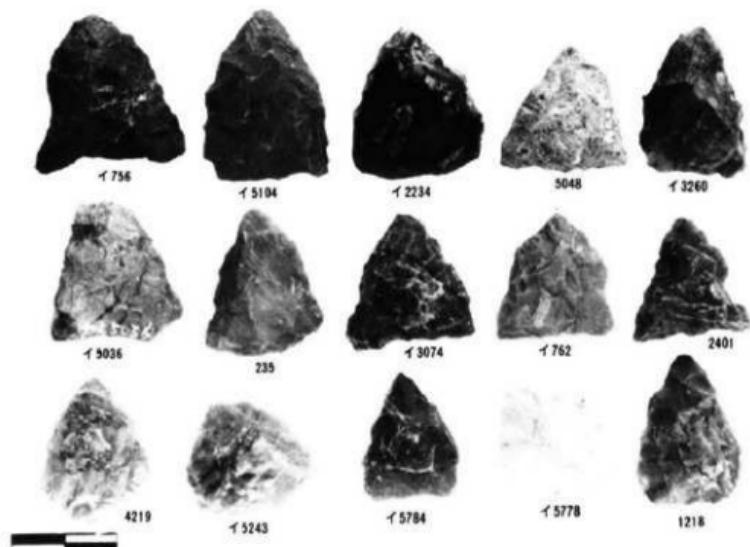




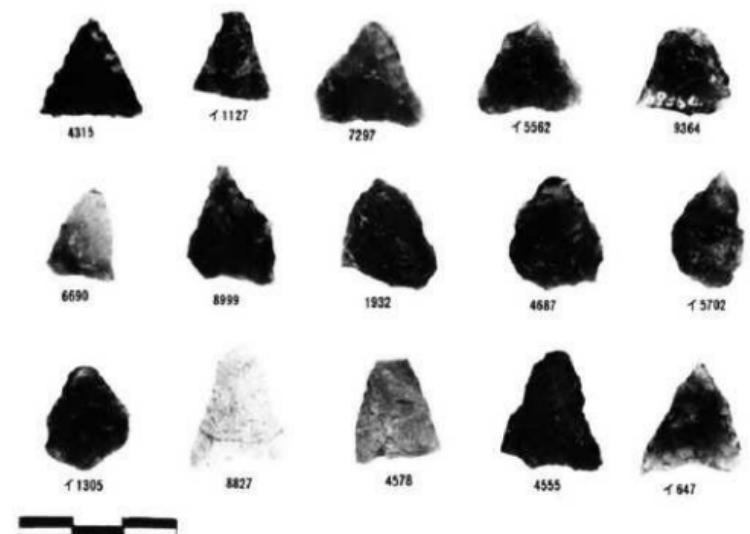




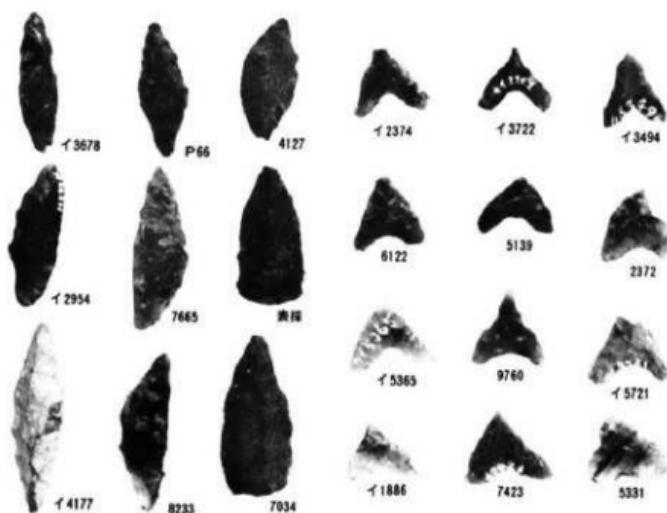




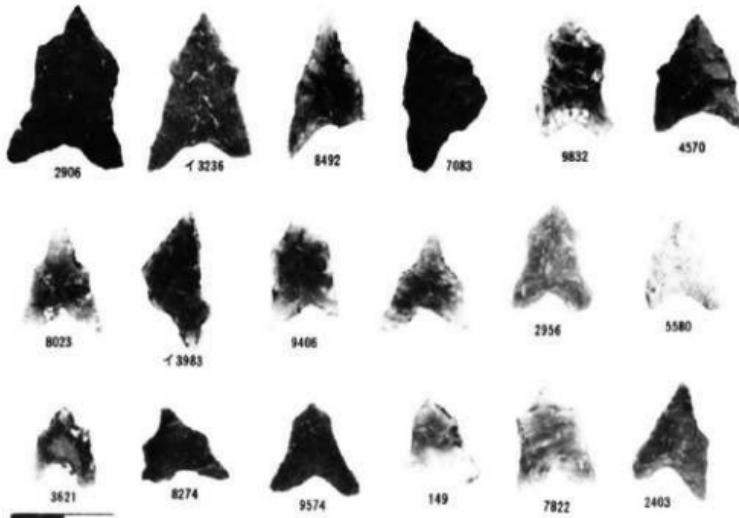
石 鐛



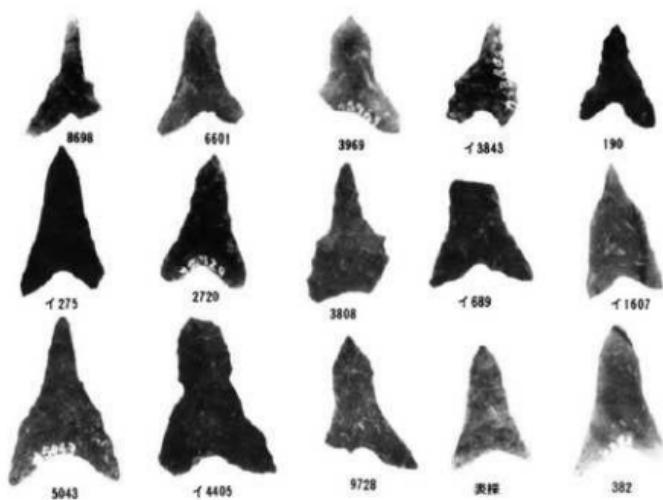
石 鐛



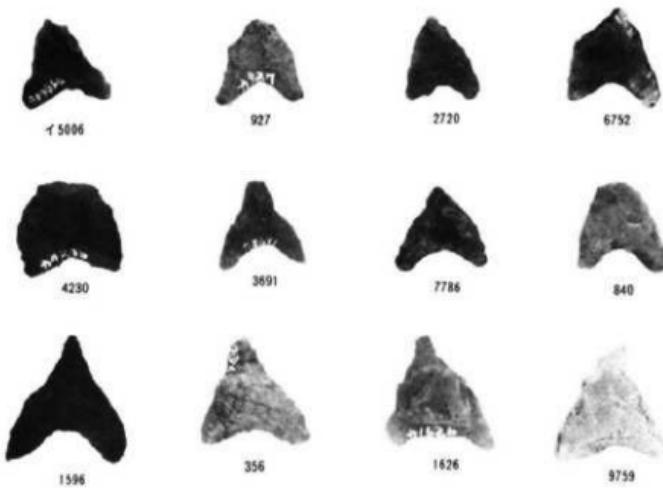
石 錄



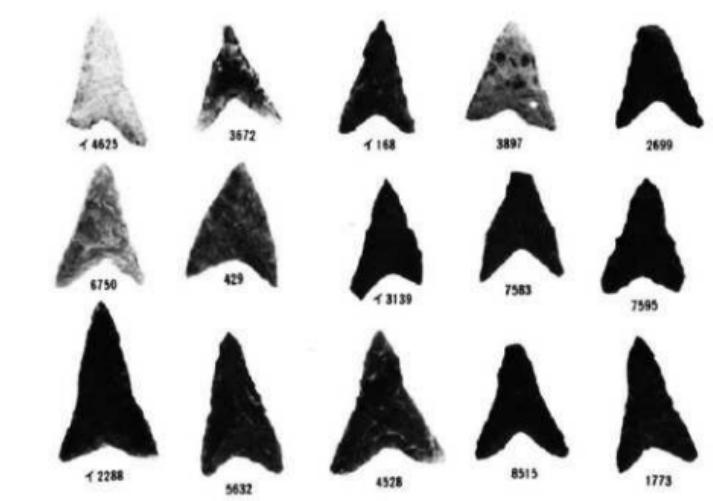
石 錄



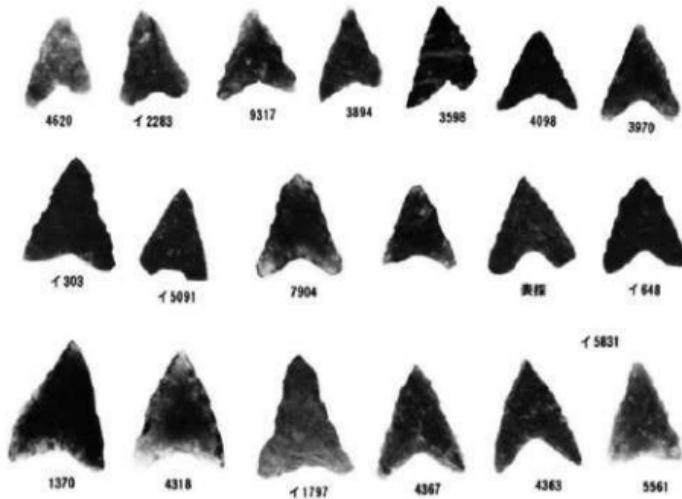
石鱗



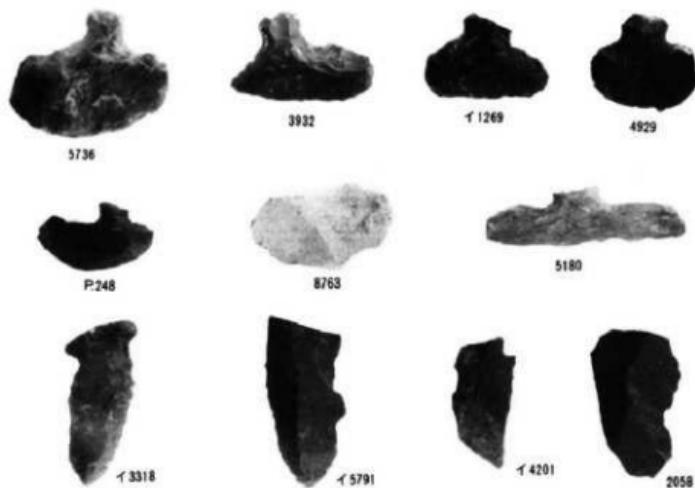
石鱗



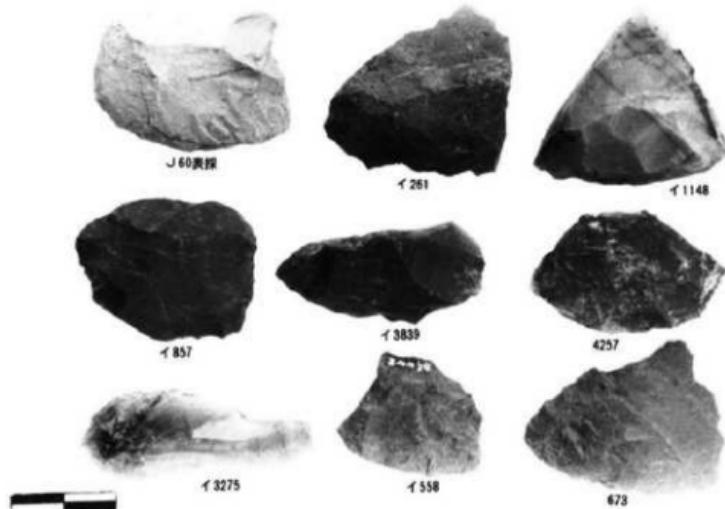
石 鐵



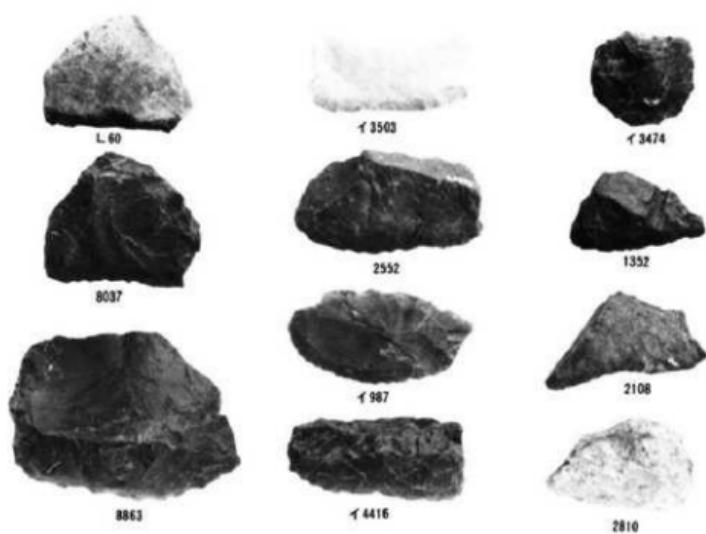
石 鐵



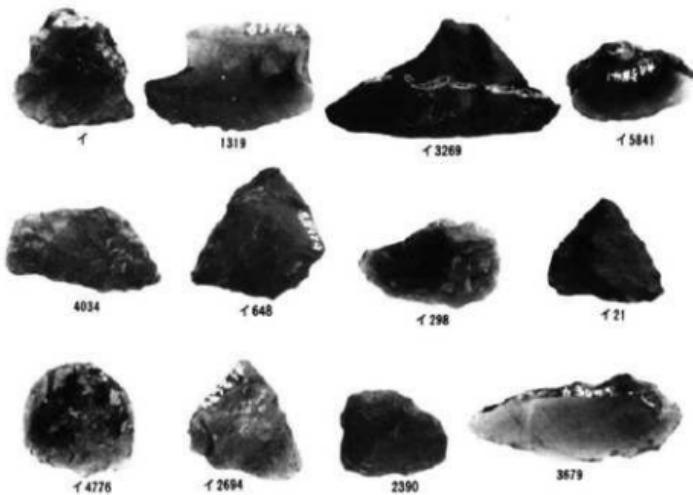
石匙



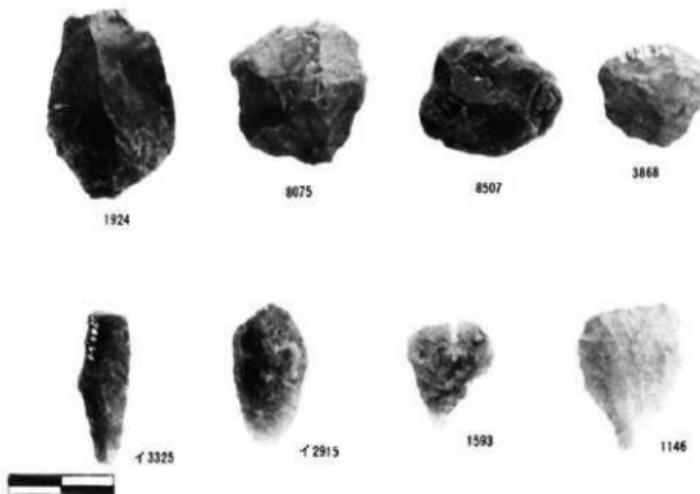
スクレーバー



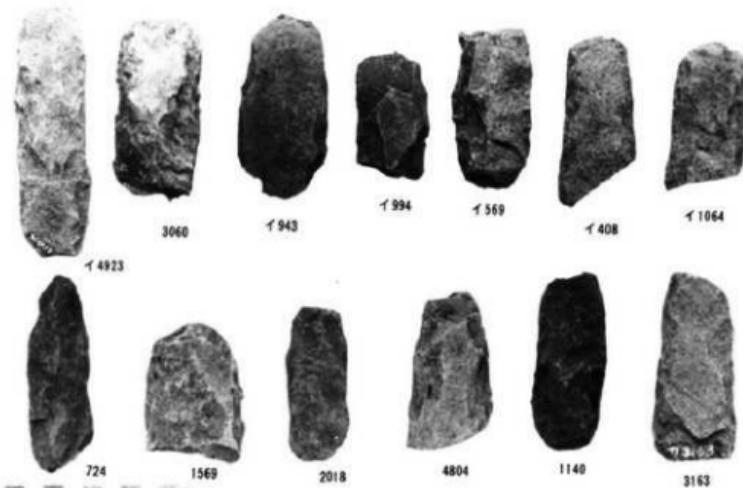
スクレーパー



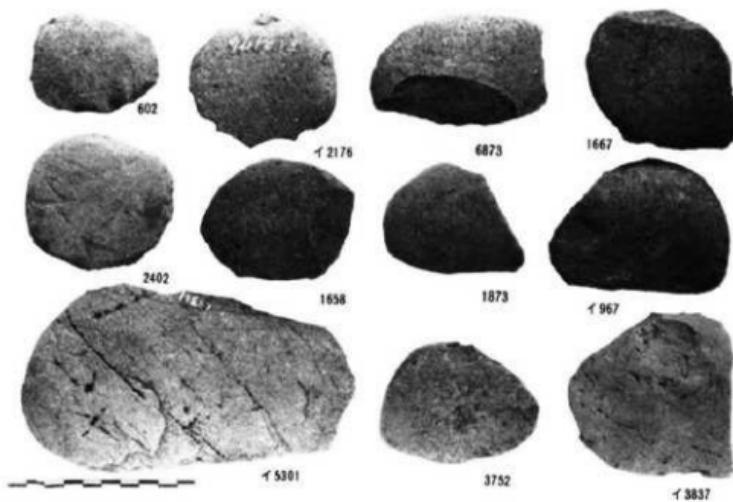
スクレーパー



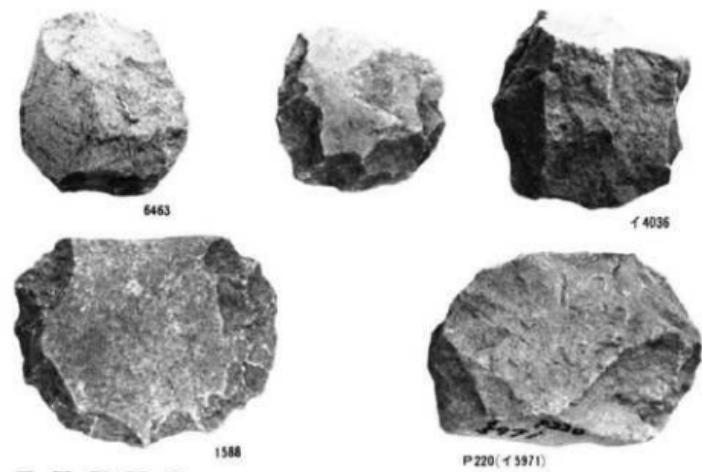
スクレーパー・石錐



打製石斧

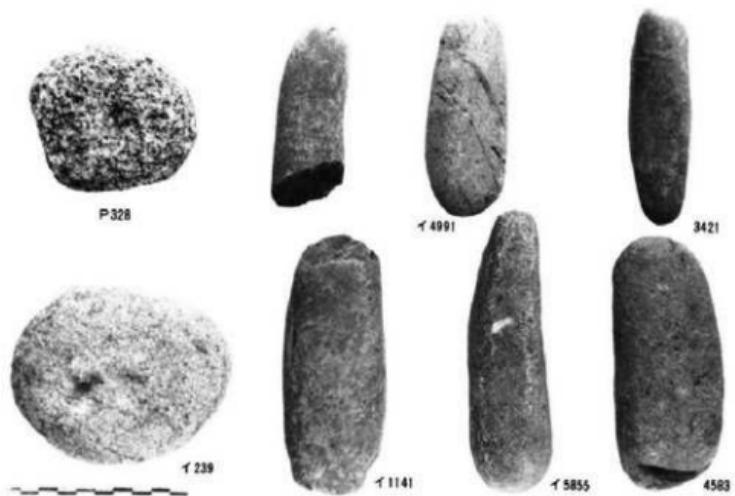


橫刃形石器

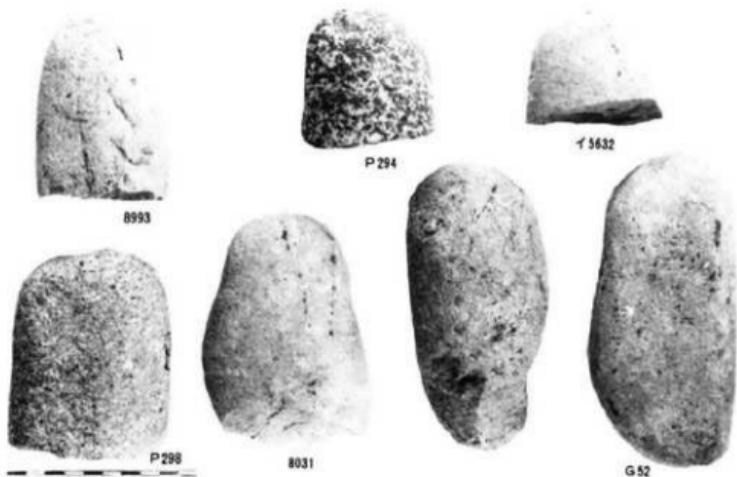


礫器

圖版四十六 凹石・棒状砾器・特殊磨石



凹石・棒状砾器



特 殊 磨 石



1179



979



5816



5342



イ4114



イ5198

磨 石



7258



イ1224



P66(5812)



イ5425

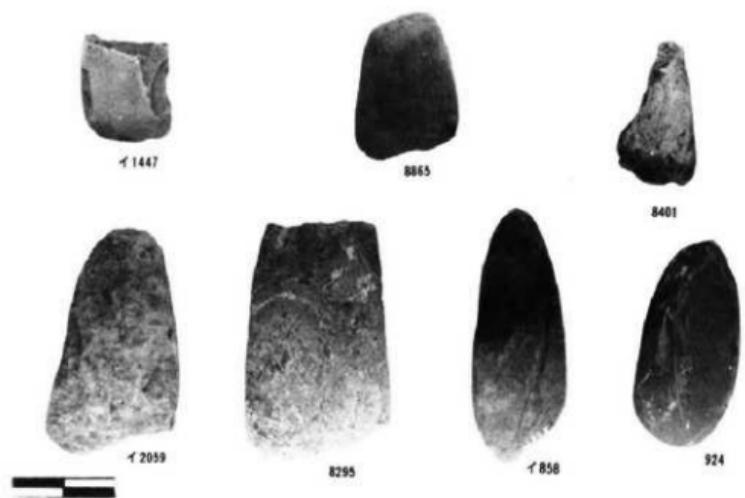


イ234



セクションベルト

磨 石



磨 製 石 斧



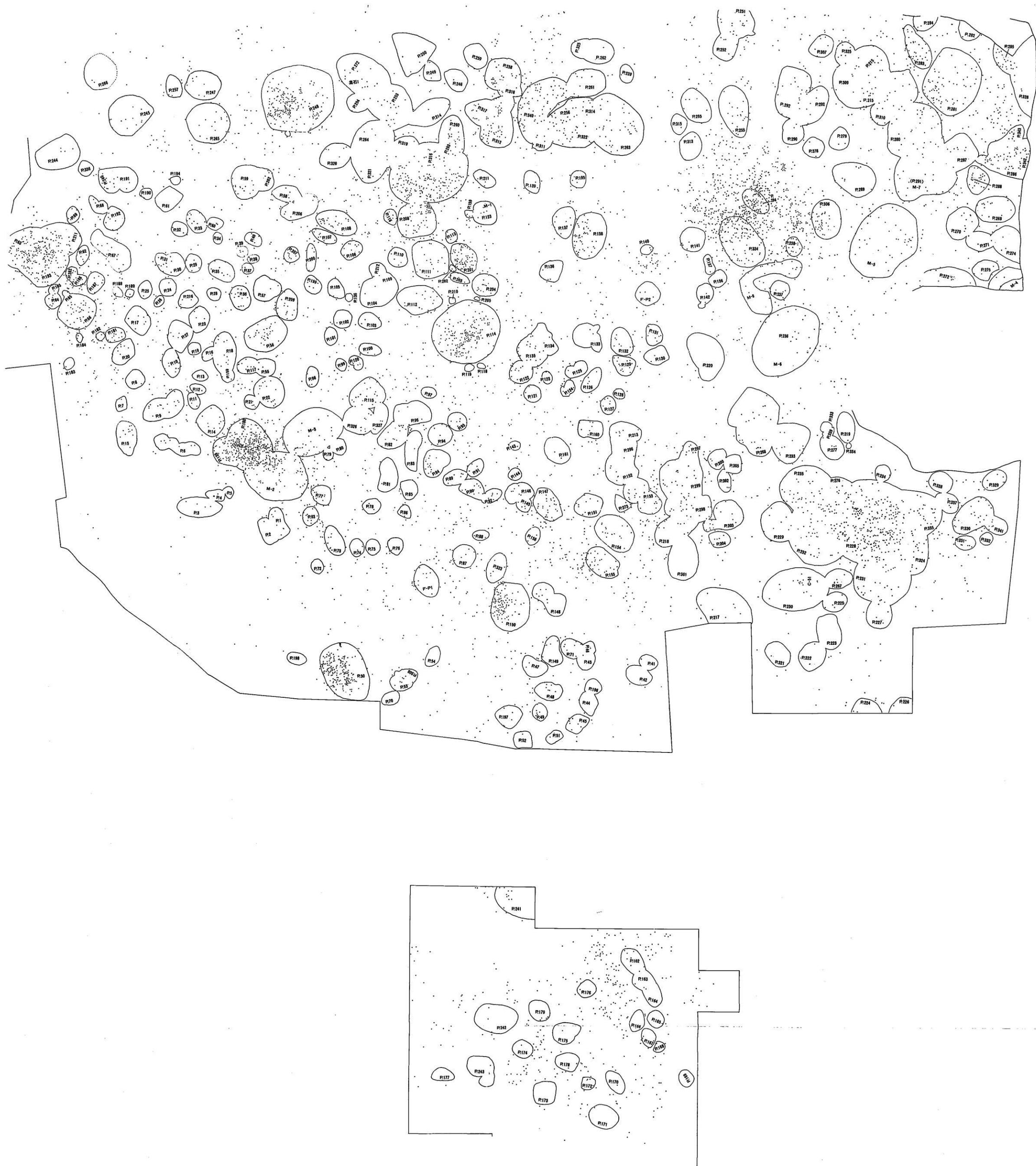
小 標

力ゴ田遺跡
—緊急発掘調査報告—

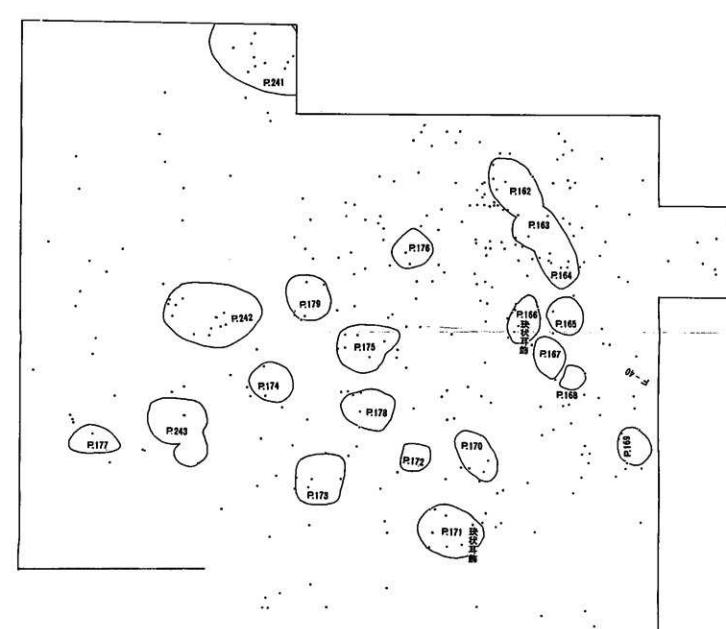
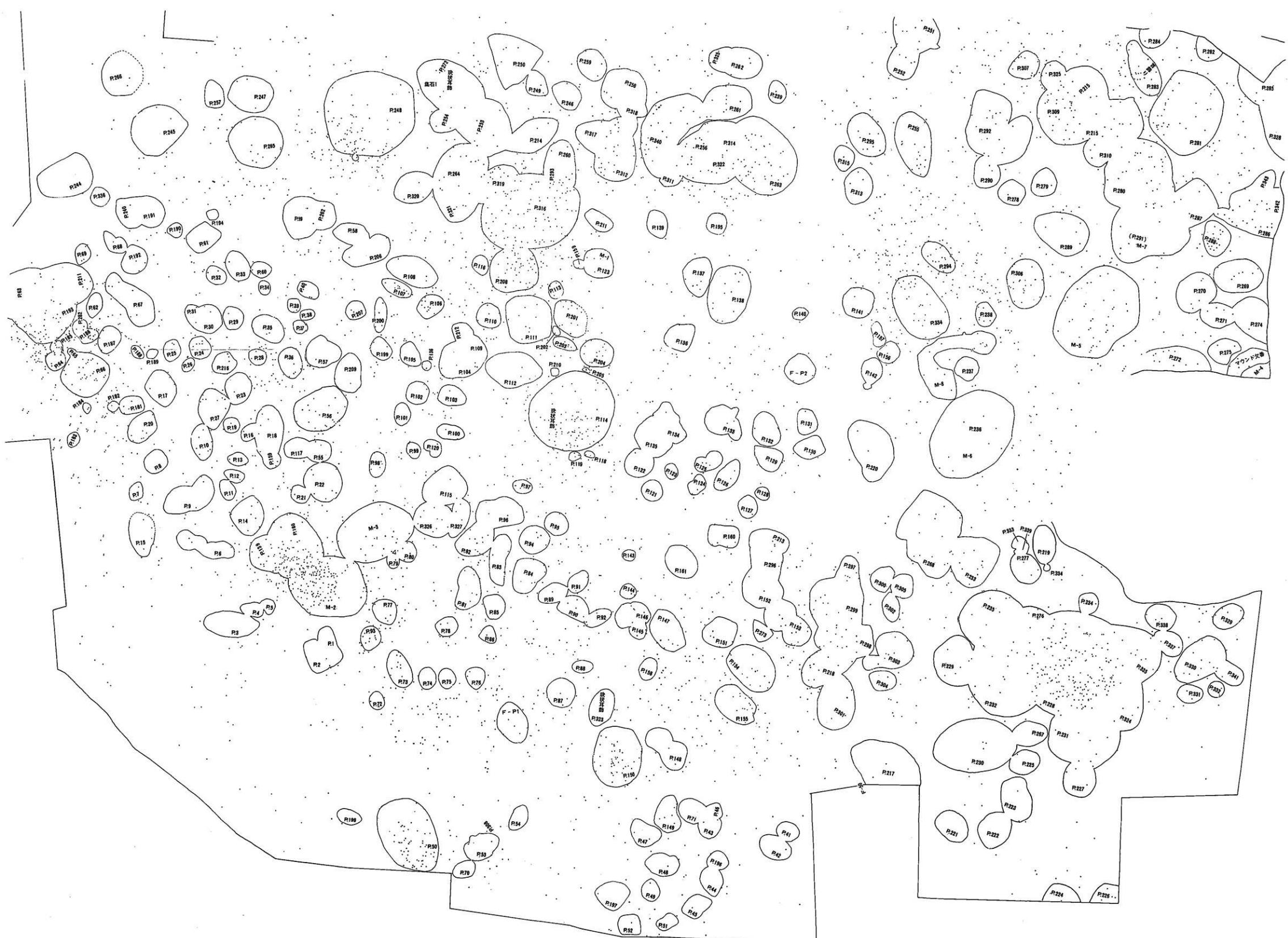
昭和53年3月10日 印刷
昭和53年3月15日 発行

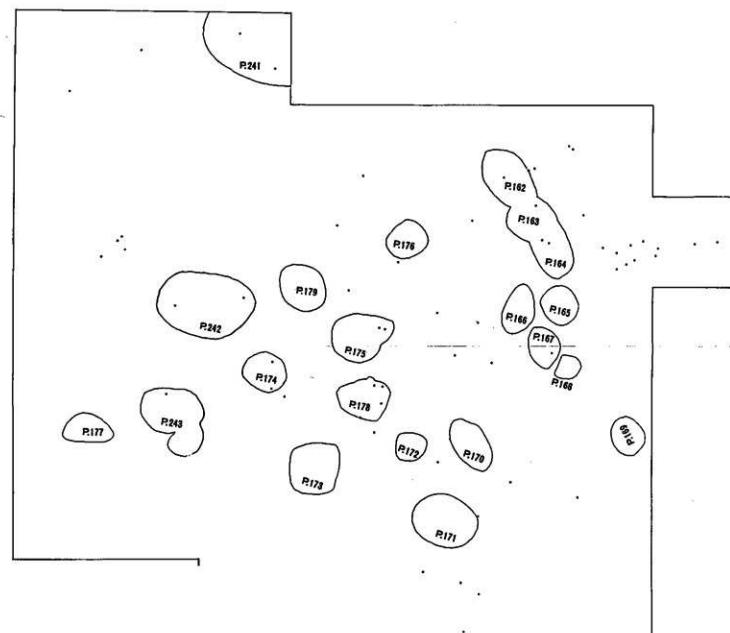
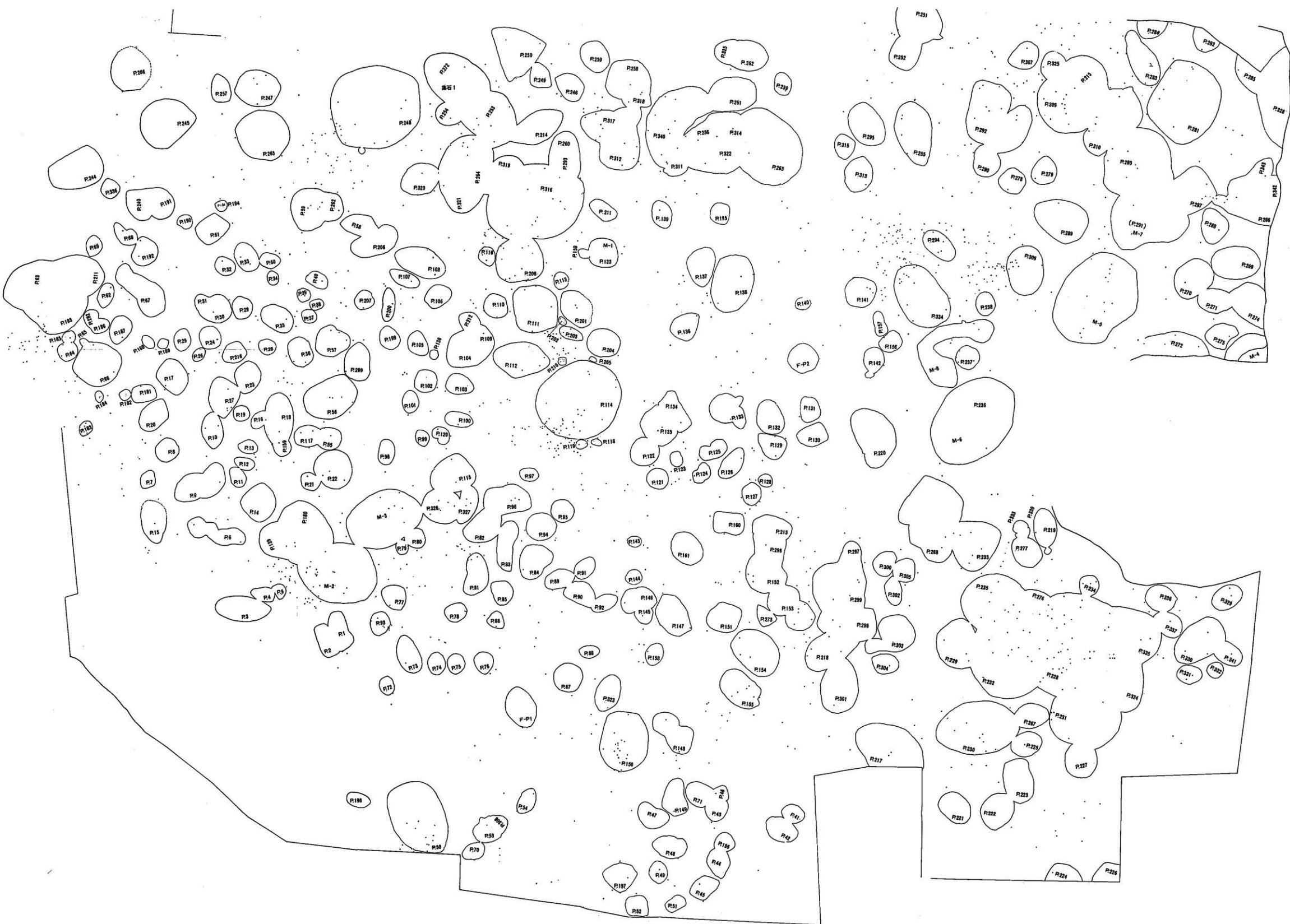
発行所 長野県上伊那郡飯島町
飯島町教育委員会

印刷所 藤原印刷株式会社
松本市新橋7-21
0263(33)5092(代)



別図 1 遺物分布図(土器) 1 : 80





別図3 燃石分布図 (1:80)

